

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 1/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
	【土木建築意匠図】			D-24	調整池 付帯工詳細図(5)	NONE	
D-1	案内図	1/5,000		D-25	調整池 付帯工詳細図(6)	NONE	
D-2	全体配置図	1/300		D-26	調整池 付帯工詳細図(7) (参考)	NONE	
D-3	水位関係図(1)	1/200		D-27	調整池 付帯工詳細図(8) (参考)	NONE	
D-4	水位関係図(2)	1/100		D-28	調整池 付帯工詳細図(9) (参考)	NONE	
D-5	調整池 下部平面図	1/200		D-29	調整池 付帯工詳細図(10) (参考)	NONE	
D-6	調整池 平断面図	1/200					
D-7	調整池 上部平面図	1/200					
D-8	調整池 断面図(1)	1/200					
D-9	調整池 断面図(2)	1/200					
D-10	調整池 下部平面図	1/100					
D-11	調整池、前処理棟 上部平面図・1階平面図	1/100					
D-12	前処理棟 断面図(1)	1/100					
D-13	前処理棟 断面図(2)	1/100					
D-14	前処理棟 1階平面詳細図	1/50					
D-15	前処理棟 断面詳細図(1)	1/50					
D-16	前処理棟 断面詳細図(2)	1/100					
D-17	調整池・前処理棟 階段詳細図(1)	1/10, 1/50					
D-18	調整池・前処理棟 階段詳細図(2)	1/10, 1/50					
D-19	調整池 止水板位置図	1/200					
D-20	調整池 付帯工詳細図(1) キープラン	1/100					
D-21	調整池 付帯工詳細図(2) キープラン	1/100					
D-22	調整池 付帯工詳細図(3)	NONE					
D-23	調整池 付帯工詳細図(4)	NONE					

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 2/10

※縮尺はA1版のものを示す。

[illegible]

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面

図面目録 3/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
	【構造図】			S-23	調整池P3(c) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示	
S-1	構造細目共通図(複合構造物) (1)	NONE		S-24	調整池P3(a), (b), (c) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示	
S-2	構造細目共通図(複合構造物) (2)	NONE		S-25	調整池P4(a) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示	
S-3	構造細目共通図(複合構造物) (3)	NONE		S-26	調整池P4(b) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示	
S-4	構造細目共通図(複合構造物) (4)	NONE		S-27	調整池P4(a), (b) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示	
S-5	構造細目共通図(複合構造物) (5)	NONE		S-28	伏図(1)	1/200	
S-6	構造細目共通図(複合構造物) (6)	NONE		S-29	伏図(2)	1/200	
S-7	調整池 杭伏図	1/200		S-30	伏図(3)	1/200	
S-8	調整池 杭計画断面図(1)	1/200		S-31	伏図(4)	1/200	
S-9	調整池 杭計画断面図(2)	1/200		S-32	軸組図(1)	1/200	
S-10	調整池 杭計画断面図(3)	1/200		S-33	軸組図(2)	1/200	
S-11	調整池 杭計画断面図(4)	1/200		S-34	軸組図(3)	1/200	
S-12	杭頭処理詳細図(1)	1/30		S-35	軸組図(4)	1/200	
S-13	杭頭処理詳細図(2)	1/30		S-36	軸組図(5)	1/200	
S-14	調整池P1(a) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-37	軸組図(6)	1/200	
S-15	調整池P1(b) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-38	軸組図(7)	1/200	
S-16	調整池P1(a), (b) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-39	軸組図(8)	1/200	
S-17	調整池P2(a) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-40	軸組図(9)	1/200	
S-18	調整池P2(b) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-41	軸組図(10)	1/100	
S-19	調整池P2(c) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-42	軸組図(11)	1/100	
S-20	調整池P2(a), (b), (c) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-43	軸組図(12)	1/100	
S-21	調整池P3(a) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-44	軸組図(13)	1/100	
S-22	調整池P3(b) 鋼管ソイルセメント杭詳細図	図示		S-45	軸組図(14)	1/100	

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 4/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
S-46	基礎梁リスト	1/50		S-69	調整池配筋図(13)	1/50	
S-47	柱リスト(1)	1/50		S-70	調整池配筋図(14)	1/50	
S-48	柱リスト(2)	1/50		S-71	調整池配筋図(15)	1/50	
S-49	柱リスト(3)	1/50		S-72	調整池配筋図(16)	1/50	
S-50	柱リスト(4)	1/50		S-73	調整池配筋図(17)	1/50	
S-51	柱リスト(5)	1/50		S-74	調整池配筋図(18)	1/50	
S-52	柱リスト(6)	1/50		S-75	調整池配筋図(19)	1/50	
S-53	大梁リスト	1/50		S-76	調整池配筋図(20)	1/50	
S-54	小梁・壁・スラブリスト	1/50		S-77	調整池配筋図(21)	1/50	
S-55	架構配筋詳細図	1/50		S-78	調整池配筋図(22)	1/50	
S-56	雑詳細図(1)	1/30		S-79	調整池配筋図(23)	1/50	
S-57	調整池配筋図(1)	1/50		S-80	調整池配筋図(24)	1/50	
S-58	調整池配筋図(2)	1/50		S-81	調整池配筋図(25)	1/50	
S-59	調整池配筋図(3)	1/50		S-82	調整池配筋図(26)	1/50	
S-60	調整池配筋図(4)	1/50		S-83	調整池配筋図(27)	1/50	
S-61	調整池配筋図(5)	1/50		S-84	調整池配筋図(28)	1/50	
S-62	調整池配筋図(6)	1/50		S-85	調整池配筋図(29)	1/50	
S-63	調整池配筋図(7)	1/50		S-86	調整池配筋図(30)	1/50	
S-64	調整池配筋図(8)	1/50		S-87	調整池配筋図(31)	1/50	
S-65	調整池配筋図(9)	1/50		S-88	調整池配筋図(32)	1/50	
S-66	調整池配筋図(10)	1/50		S-89	調整池配筋図(33)	1/50	
S-67	調整池配筋図(11)	1/50		S-90	調整池配筋図(34)	1/50	
S-68	調整池配筋図(12)	1/50		S-91	調整池配筋図(35)	1/50	

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面

図面目録 5/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
S-92	調整池配筋図(36)	1/50		S-115	調整池配筋図(59)	1/50	
S-93	調整池配筋図(37)	1/50		S-116	調整池配筋図(60)	1/50	
S-94	調整池配筋図(38)	1/50		S-117	調整池配筋図(61)	1/50	
S-95	調整池配筋図(39)	1/50		S-118	調整池配筋図(62)	1/50	
S-96	調整池配筋図(40)	1/50		S-119	調整池配筋図(63)	1/50	
S-97	調整池配筋図(41)	1/50		S-120	調整池配筋図(64)	1/50	
S-98	調整池配筋図(42)	1/50		S-121	調整池配筋図(65)	1/50	
S-99	調整池配筋図(43)	1/50		S-122	調整池配筋図(66)	1/50	
S-100	調整池配筋図(44)	1/50		S-123	調整池配筋図(67)	1/50	
S-101	調整池配筋図(45)	1/50		S-124	調整池配筋図(68)	1/50	
S-102	調整池配筋図(46)	1/50		S-125	調整池配筋図(69)	1/50	
S-103	調整池配筋図(47)	1/50		S-126	調整池配筋図(70)	1/50	
S-104	調整池配筋図(48)	1/50		S-127	調整池配筋図(71)	1/50	
S-105	調整池配筋図(49)	1/50		S-128	調整池配筋図(72)	1/50	
S-106	調整池配筋図(50)	1/50		S-129	調整池配筋図(73)	1/50	
S-107	調整池配筋図(51)	1/50		S-130	調整池配筋図(74)	1/50	
S-108	調整池配筋図(52)	1/50		S-131	調整池配筋図(75)	1/50	
S-109	調整池配筋図(53)	1/50		S-132	調整池配筋図(76)	1/50	
S-110	調整池配筋図(54)	1/50		S-133	調整池配筋図(77)	1/50	
S-111	調整池配筋図(55)	1/50		S-134	調整池配筋図(78)	1/50	
S-112	調整池配筋図(56)	1/50		S-135	調整池配筋図(79)	1/50	
S-113	調整池配筋図(57)	1/50		S-136	調整池配筋図(80)	1/50	
S-114	調整池配筋図(58)	1/50		S-137	調整池配筋図(81)	1/50	

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 6/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
S-138	調整池配筋図(82)	1/50		S-161	調整池配筋図(105)	1/50	
S-139	調整池配筋図(83)	1/50		S-162	調整池配筋図(106)	1/50	
S-140	調整池配筋図(84)	1/50		S-163	調整池配筋図(107)	1/50	
S-141	調整池配筋図(85)	1/50		S-164	調整池配筋図(108)	1/50	
S-142	調整池配筋図(86)	1/50		S-165	調整池配筋図(109)	1/50	
S-143	調整池配筋図(87)	1/50		S-166	調整池配筋図(110)	1/50	
S-144	調整池配筋図(88)	1/50		S-167	調整池配筋図(111)	1/50	
S-145	調整池配筋図(89)	1/50		S-168	調整池配筋図(112)	1/50	
S-146	調整池配筋図(90)	1/50		S-169	調整池配筋図(113)	1/50	
S-147	調整池配筋図(91)	1/50		S-170	調整池配筋図(114)	1/50	
S-148	調整池配筋図(92)	1/50		S-171	調整池配筋図(115)	1/50	
S-149	調整池配筋図(93)	1/50		S-172	調整池配筋図(116)	1/50	
S-150	調整池配筋図(94)	1/50		S-173	調整池配筋図(117)	1/50	
S-151	調整池配筋図(95)	1/50		S-174	調整池配筋図(118)	1/50	
S-152	調整池配筋図(96)	1/50		S-175	調整池配筋図(119)	1/50	
S-153	調整池配筋図(97)	1/50		S-176	調整池配筋図(120)	1/50	
S-154	調整池配筋図(98)	1/50		S-177	調整池配筋図(121)	1/50	
S-155	調整池配筋図(99)	1/50		S-178	調整池配筋図(122)	1/50	
S-156	調整池配筋図(100)	1/50		S-179	調整池配筋図(123)	1/50	
S-157	調整池配筋図(101)	1/50		S-180	調整池配筋図(124)	1/50	
S-158	調整池配筋図(102)	1/50		S-181	調整池配筋図(125)	1/50	
S-159	調整池配筋図(103)	1/50		S-182	調整池配筋図(126)	1/50	
S-160	調整池配筋図(104)	1/50		S-183	調整池配筋図(127)	1/50	

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 7/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
S-184	調整池配筋図(128)	1/50		S-207	調整池配筋図(151)	1/50	
S-185	調整池配筋図(129)	1/50		S-208	調整池配筋図(152)	1/50	
S-186	調整池配筋図(130)	1/50		S-209	調整池配筋図(153)	1/50	
S-187	調整池配筋図(131)	1/50		S-210	調整池配筋図(154)	1/50	
S-188	調整池配筋図(132)	1/50		S-211	調整池配筋図(155)	1/50	
S-189	調整池配筋図(133)	1/50		S-212	調整池配筋図(156)	1/50	
S-190	調整池配筋図(134)	1/50		S-213	調整池配筋図(157)	1/50	
S-191	調整池配筋図(135)	1/50		S-214	調整池配筋図(158)	1/50	
S-192	調整池配筋図(136)	1/50		S-215	調整池配筋図(159)	1/50	
S-193	調整池配筋図(137)	1/50		S-216	調整池配筋図(160)	1/50	
S-194	調整池配筋図(138)	1/50		S-217	調整池配筋図(161)	1/50	
S-195	調整池配筋図(139)	1/50		S-218	調整池配筋図(162)	1/50	
S-196	調整池配筋図(140)	1/50		S-219	調整池配筋図(163)	1/50	
S-197	調整池配筋図(141)	1/50		S-220	調整池配筋図(164)	1/50	
S-198	調整池配筋図(142)	1/50		S-221	調整池配筋図(165)	1/50	
S-199	調整池配筋図(143)	1/50		S-222	調整池配筋図(166)	1/50	
S-200	調整池配筋図(144)	1/50		S-223	調整池配筋図(167)	1/50	
S-201	調整池配筋図(145)	1/50		S-224	調整池配筋図(168)	1/50	
S-202	調整池配筋図(146)	1/50		S-225	調整池配筋図(169)	1/50	
S-203	調整池配筋図(147)	1/50		S-226	調整池配筋図(170)	1/50	
S-204	調整池配筋図(148)	1/50		S-227	調整池配筋図(171)	1/50	
S-205	調整池配筋図(149)	1/50		S-228	調整池配筋図(172)	1/50	
S-206	調整池配筋図(150)	1/50		S-229	調整池配筋図(173)	1/50	

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 8/10

※縮尺はA1版のものを示す。

[illegible]

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面  
図面目録 9/10

※縮尺はA1版のものを示す。

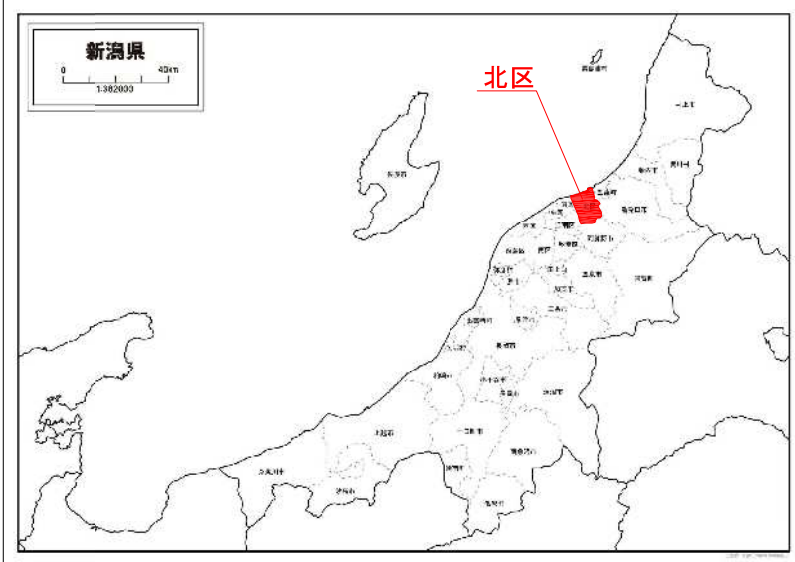
[illegible]

令和3年度 下管第25号 松浜雨水ポンプ場調整池工事 発注図面

図面目録 10/10

※縮尺はA1版のものを示す。

図 番	図 面 名 称	縮 尺		図 番	図 面 名 称	縮 尺	
	【造成及び場内整備】						
C-1	平面図(構造物撤去)	1/300					
C-3	平面図(造成工事)	1/300					
C-4	造成縦断面図	1/100, 300					
C-5	横断面図(1)	1/200					
C-6	横断面図(2)	1/200					
C-7	横断面図(3)	1/200					
C-8	横断面図(4)	1/200					
C-9	全体平面図(第一期場内整備)	1/300					
C-11	水路縦断面図(1)	1/20, 150					
C-12	水路縦断面図(2)	1/20, 150					
C-13	排水施設構造図(1)（参考）	1/20					
C-14	排水施設構造図(2)	1/20					
C-15	排水施設構造図(3)	1/20					
C-16	敷砂利および舗装標準断面図	1/20					
C-17	仮囲い鋼板標準施工図（参考）	1/20, 1/3					
C-18	パネルゲート標準施工図（参考）	1/30					
C-19	構造物取壊し撤去構造図	図示					
C-20	基礎工・仮設工敷鉄板設置図（参考）	1/300					
C-21	本体工敷鉄板設置図（参考）	1/300					



# 案内図

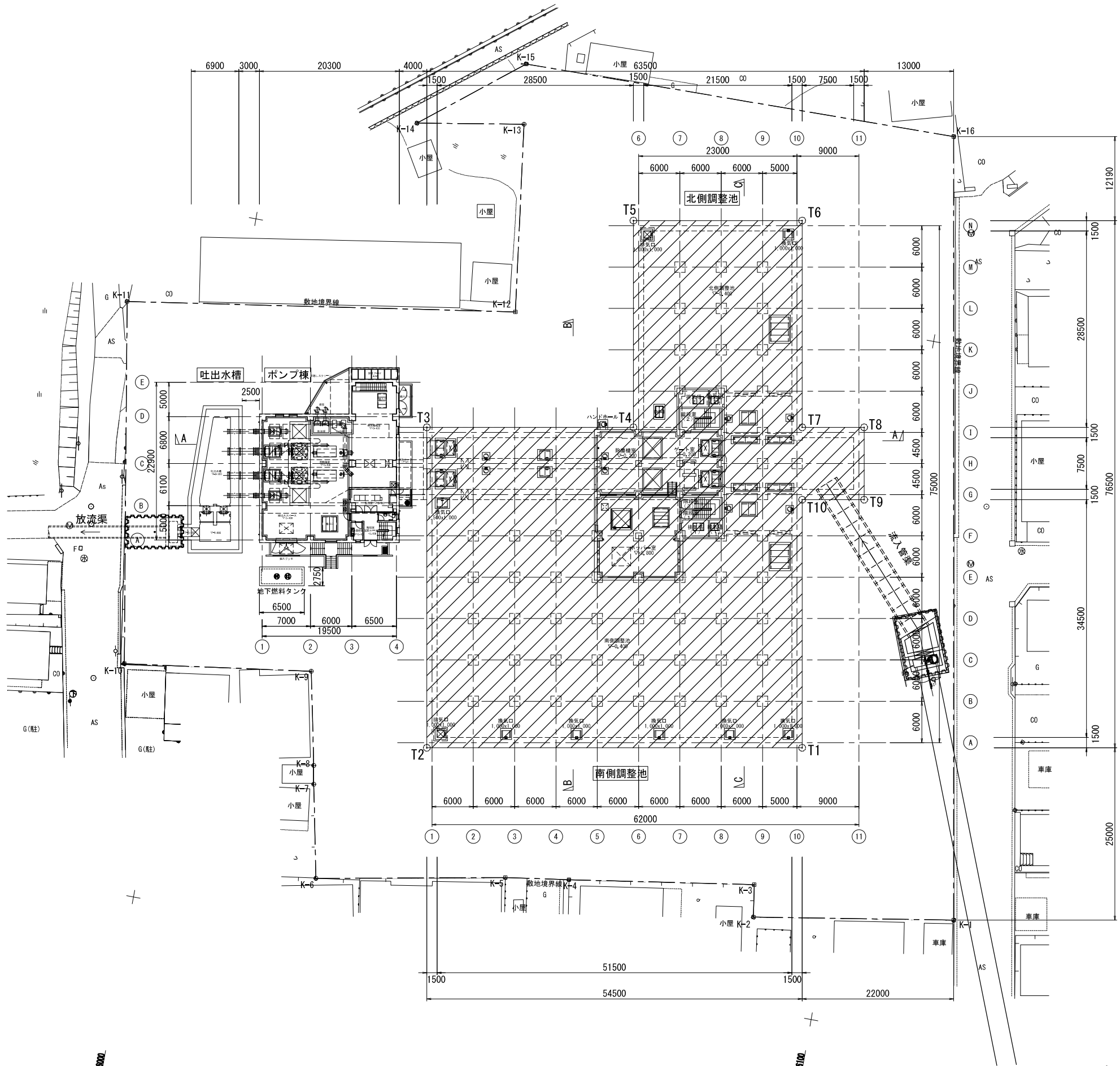
S=1/5,000



松浜雨水ポンプ場  
新潟市北区内

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	案内図				
縮尺	1/5,000	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-1
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

全体配置図 S=1/300



境界座標リスト

	X	Y
K-1	217,617.889	56,117.798
K-2	217,613.147	56,089.116
K-3	217,617.801	56,088.382
K-4	217,613.721	56,061.790
K-5	217,612.382	56,052.627
K-6	217,607.377	56,025.598
K-7	217,620.756	56,022.860
K-8	217,623.453	56,022.372
K-9	217,636.827	56,019.588
K-10	217,633.079	55,992.675
K-11	217,684.875	55,983.728
K-12	217,693.409	56,039.473
K-13	217,720.438	56,035.874
K-14	217,717.831	56,020.549
K-15	217,729.088	56,034.623
K-16	217,729.771	56,097.576

今回対象施設座標リスト

	X	Y
T1	217,638.577	56,091.702
T2	217,628.884	56,038.071
T3	217,674.643	56,029.801
T4	217,679.978	56,059.322
T5	217,709.500	56,053.986
T6	217,713.858	56,078.096
T7	217,684.336	56,083.432
T8	217,685.937	56,092.288
T9	217,675.604	56,094.156
T10	217,674.003	56,085.299

凡例  
今回対象施設

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	全体配置図				
縮尺	1/300	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-2
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

※計画堤防高、現況堤防高、計画高水位、計画河床高は「平成28年度 阿賀野川定期縦横断測量」成果より。  
計画堤防高、計画高水位、計画河床高は日本測地系である。現況堤防高は世界測地系である。  
吐口位置RNo. 2+28. 7m地点における河川の諸元は、RNo. 2とRNo. 4の測点値から距離按分により算出。

	RNo. 2測点値	RNo. 4測点値 (RNo. 2+215m)	吐口位置 RNo. 2+28. 7m
計画堤防高	+4. 22	+4. 39	+4. 24
現況堤防高（右岸）	+3. 238	+3. 682	+3. 297
計画高水位	+2. 02	+2. 25	+2. 05
計画河床高	-3. 16	-3. 12	-3. 15

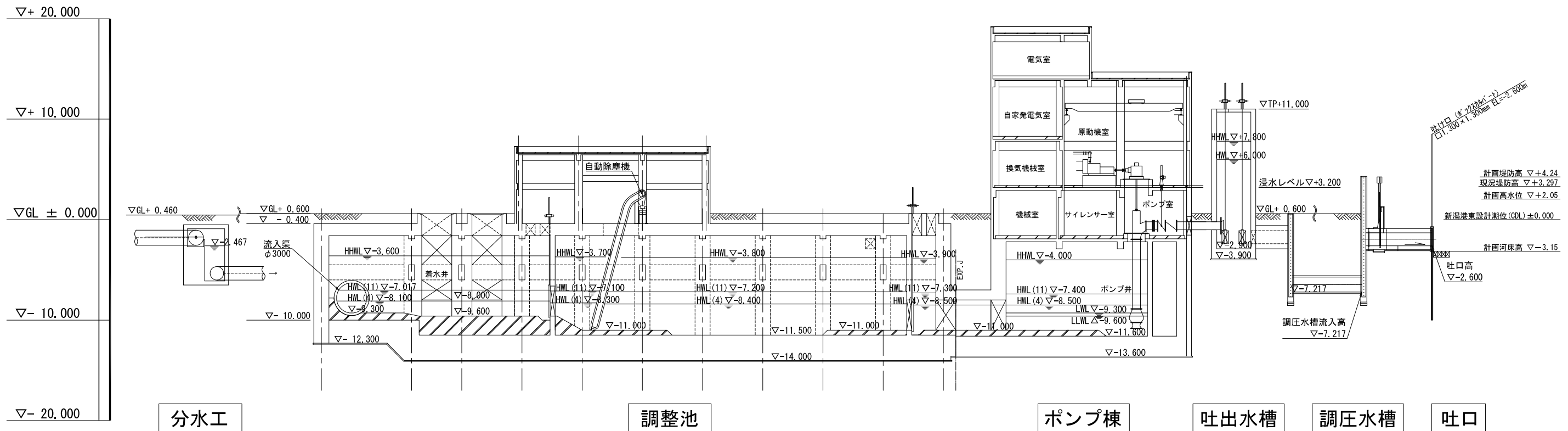
※河川BMと下水道BMには16mmの差異がある。  
河川関連施設の高さを下水道計画に整合させるためには、河川諸元の高さを16mm減じる必要がある。

※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。

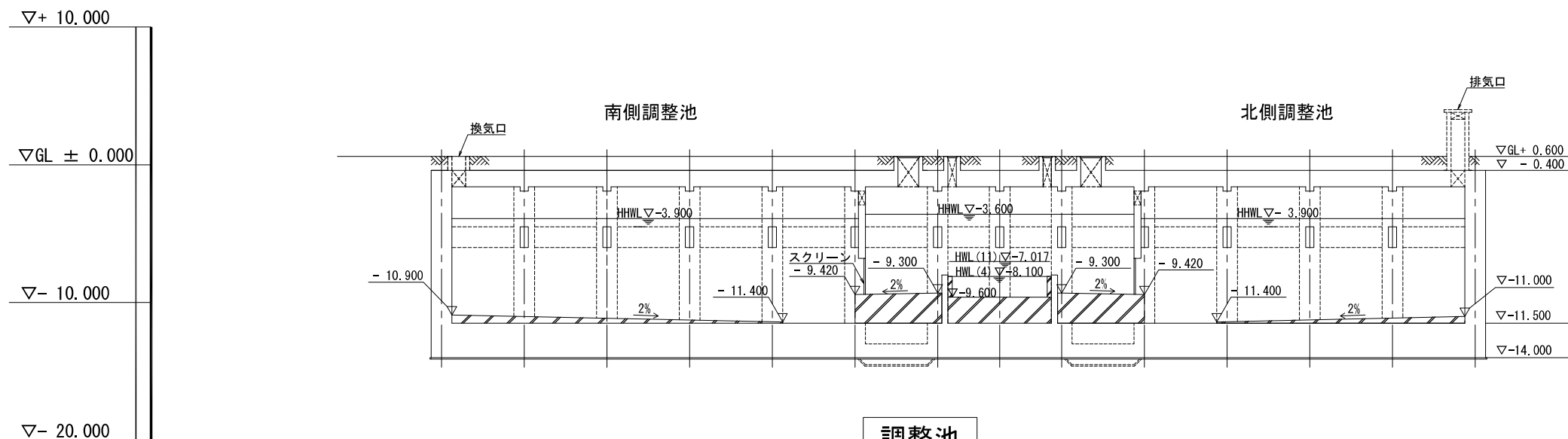
凡例

HHWL：雨水調整池満水時  
HWL(11)：時間最大雨水量(11. 007m<sup>3</sup>/S 49. 9mm/h降雨)  
HWL(4)：ポンプ場能力(4. 00m<sup>3</sup>/S 18. 13mm/h降雨)

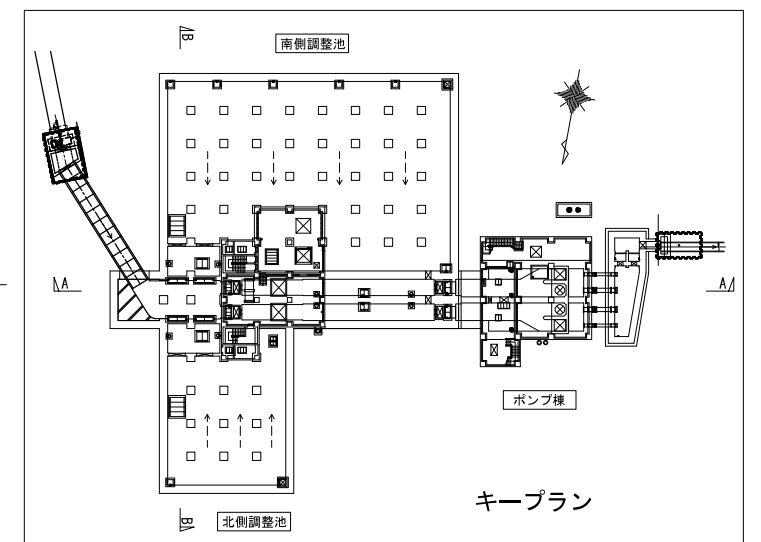
## 水位関係図(1) S=1/200



A-A 断面図



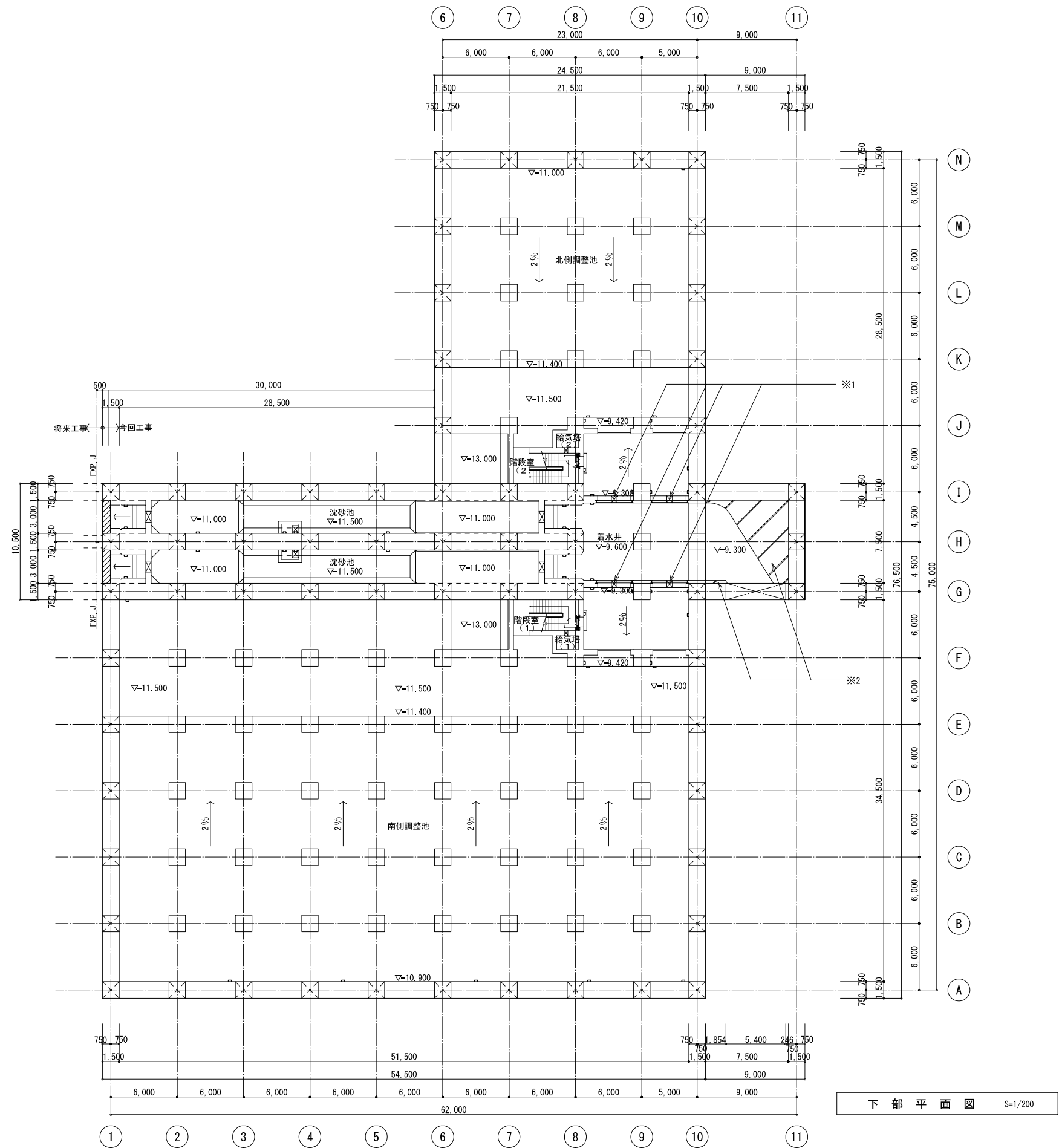
B-B 断面図



新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	水位関係図(1)				
縮尺	1/200	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-3
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

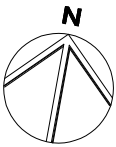
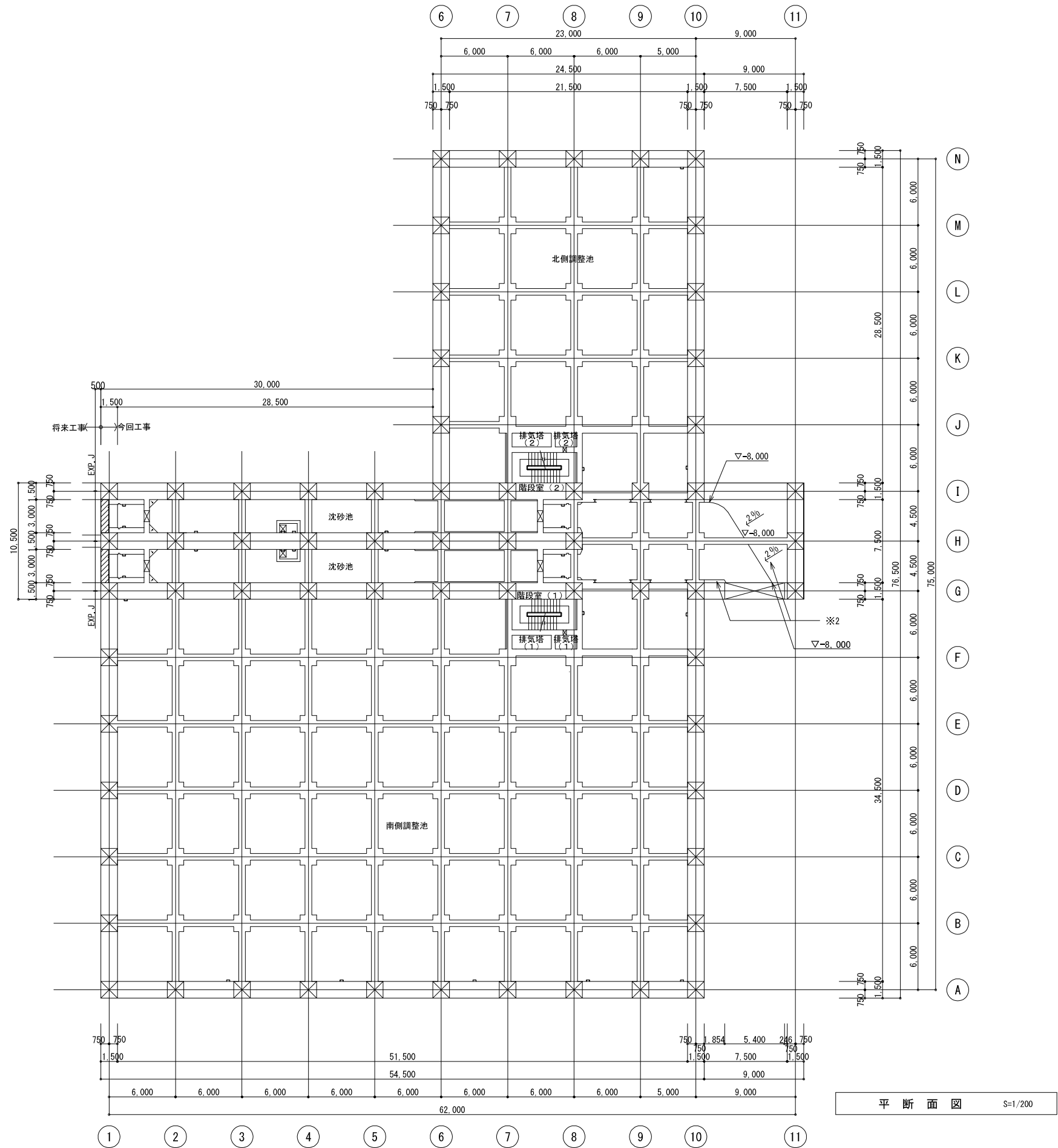
▽- 20.000

新 潟 市 公 共 下 水 道						
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称		水位関係図(2)				
縮 尺		1/100	調 整 年月日		令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-	
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理						



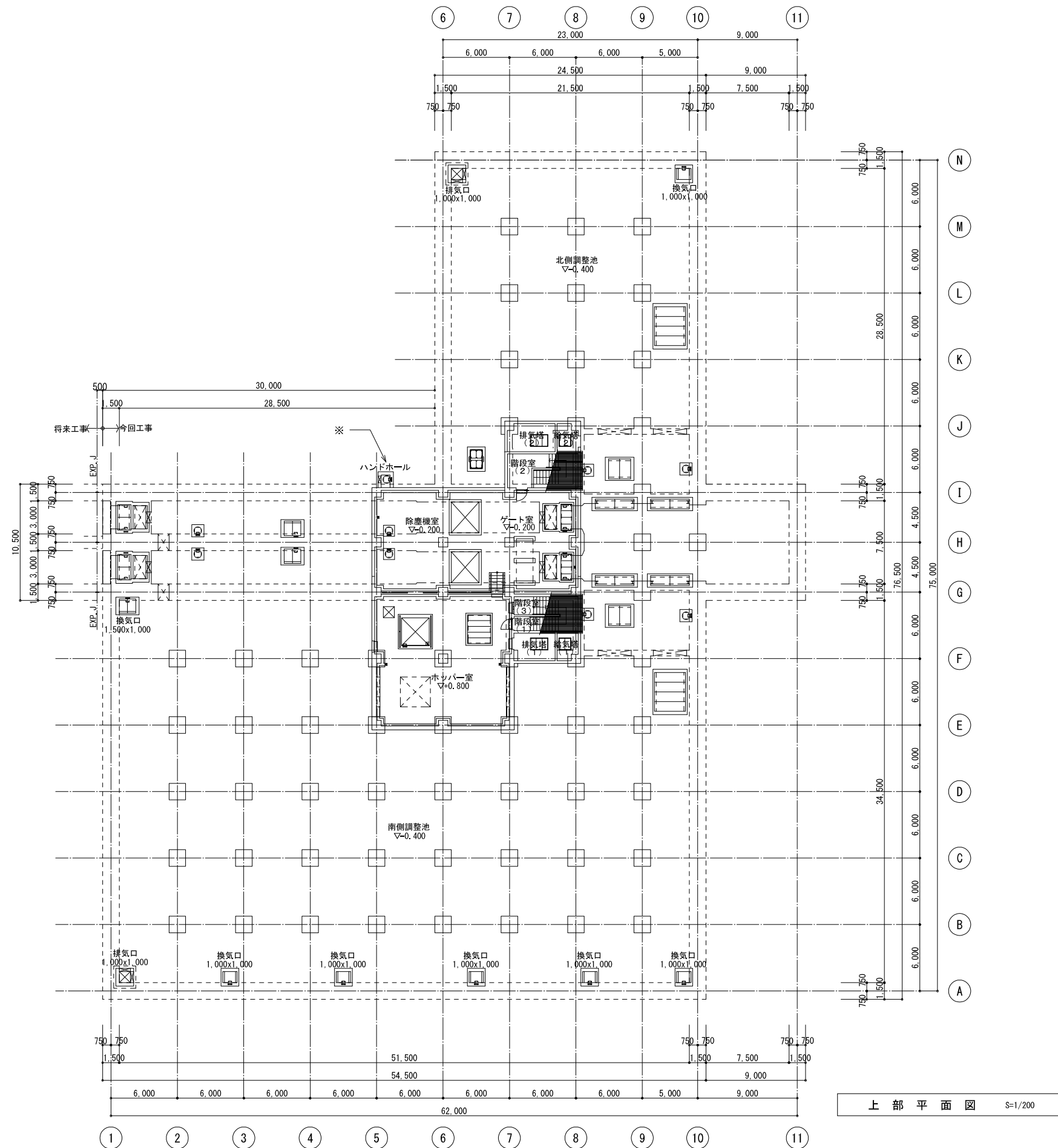
※1: 堰下開口部(500×500)については、  
ポンプ棟完成時(本運用時)には閉塞すること  
※2: インバートコンクリートは管渠工事とする

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 下部平面図				
縮尺	1/200	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-5
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



※2: インバートコンクリートは管渠工事とする

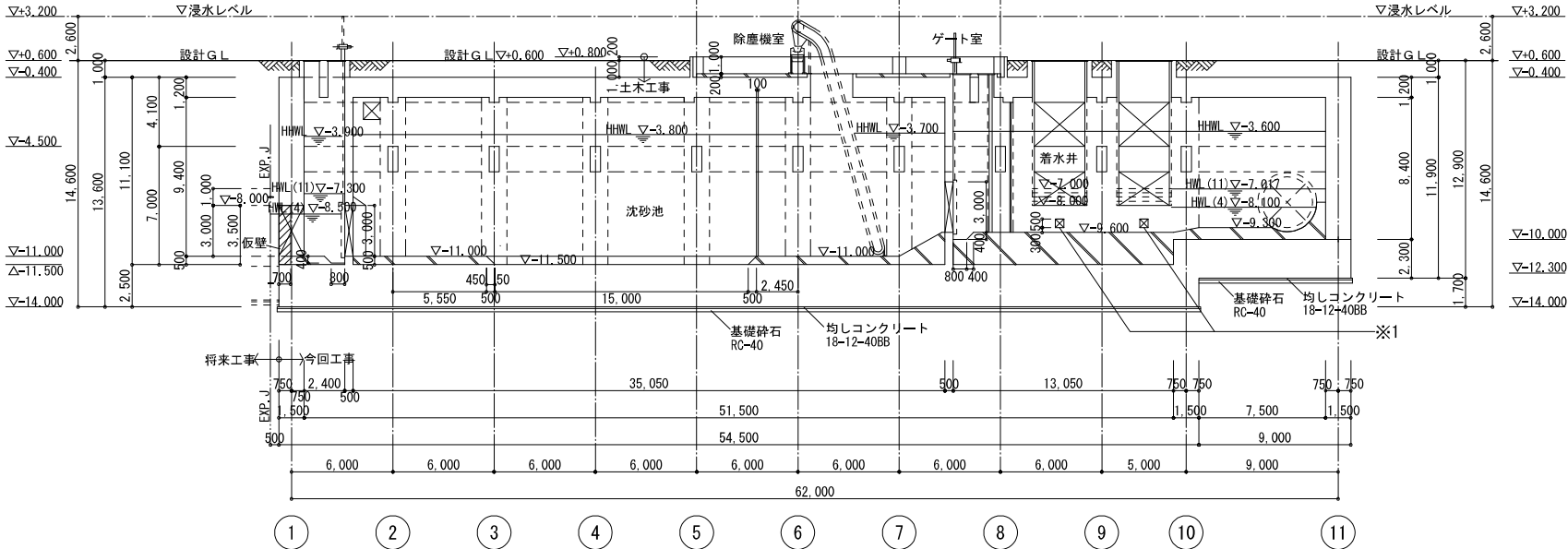
新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 平断面図				
縮尺	1/200	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-6
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



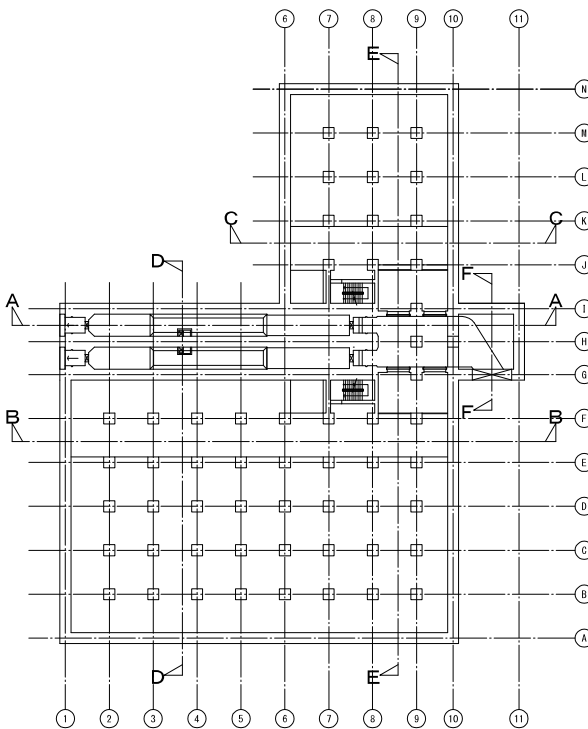
※:ハンドホールは別途工事とする

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 上 部 平 面 図				
縮 尺	1/200	調 整 年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-7
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

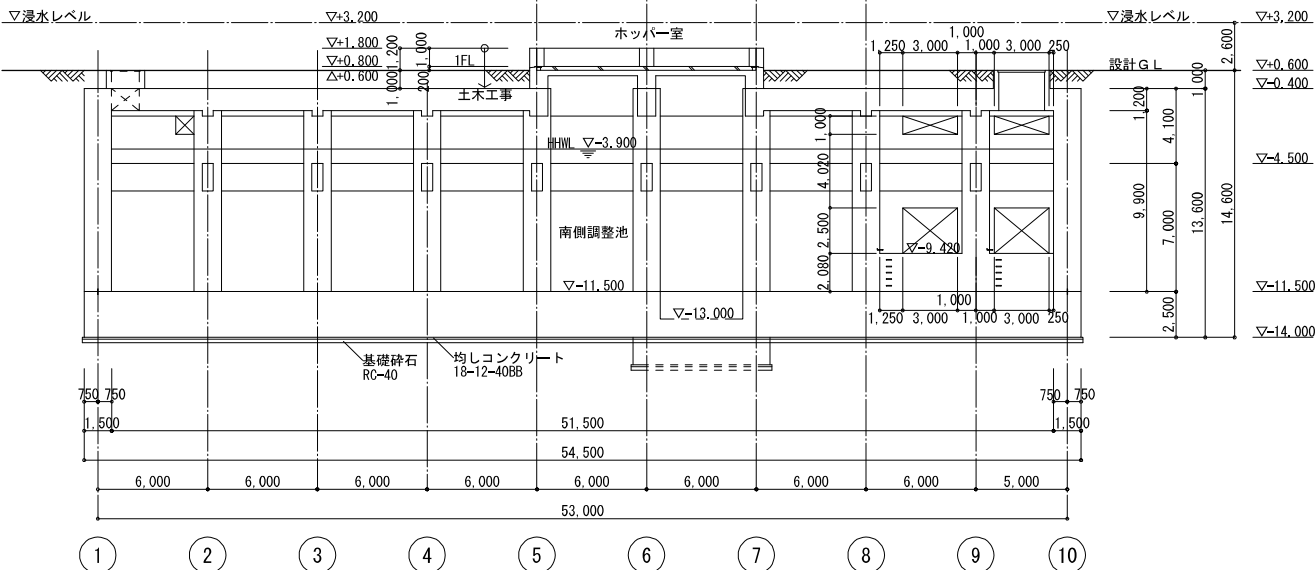
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



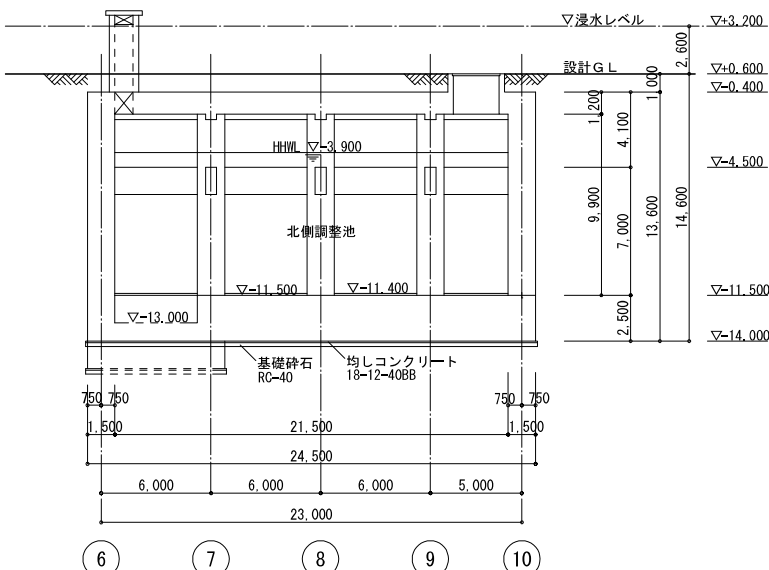
A-A 断面图 S=1/200



## KEYPLAN



B-B 断面图 S=1/200



C-C 断面图 S=1/200

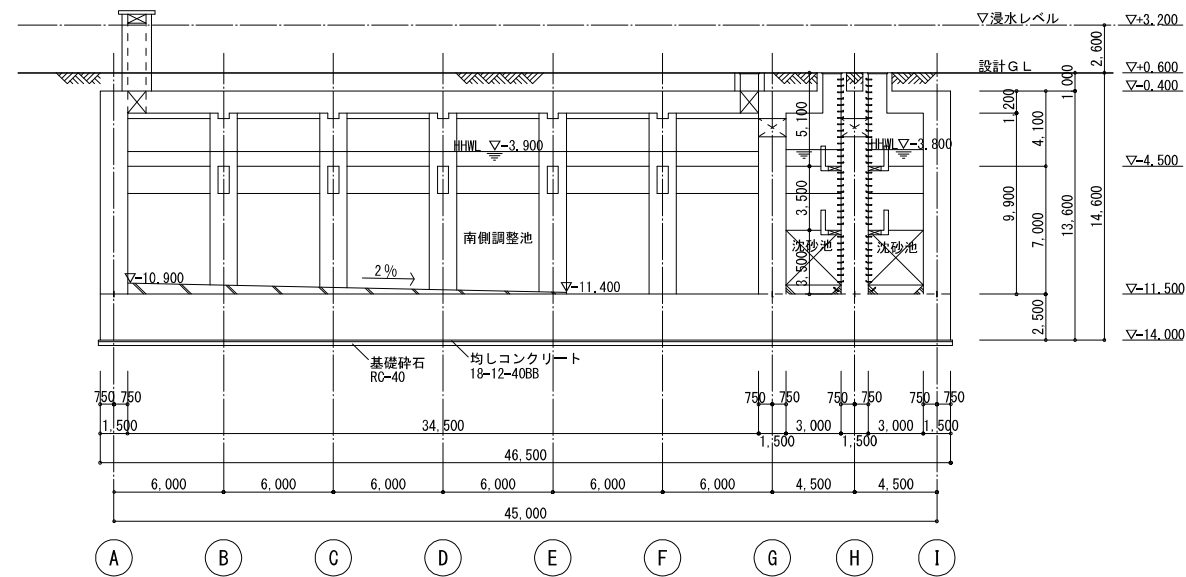
【凡例】

HHWL	:	雨水調整池満水時
HWL (11)	:	時間最大雨水量 (11.007m <sup>3</sup> /s 49.90mm/h 降雨)
HWL (4)	:	ポンプ能力 (4.00m <sup>3</sup> /s 18.13mm/h 降雨)

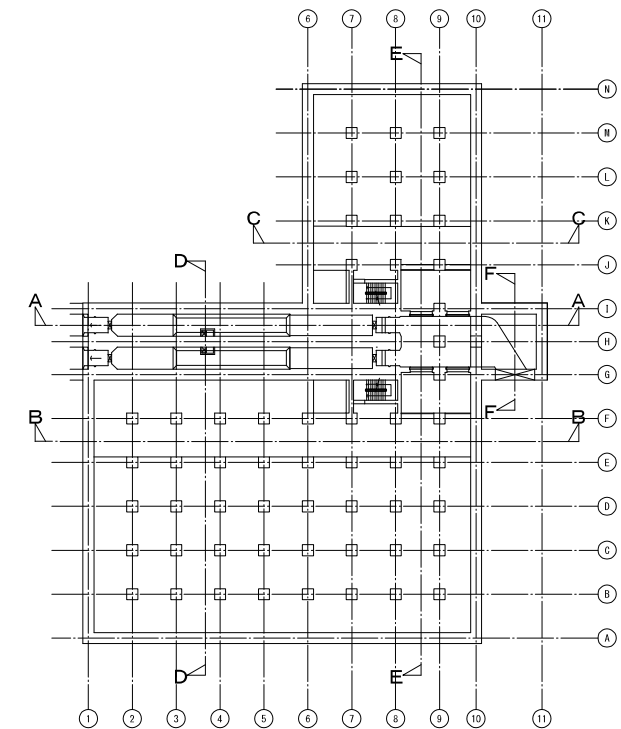
※1：堰下開口部(500×500)については、ポンプ棟  
完成時(本運用時)には閉塞すること

新 潟 市 公 共 下 水 道					
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称		調整池 断 面 図 (1)			
縮 尺		1/200	調 整 年月日		令和3年 月 日
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-8
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

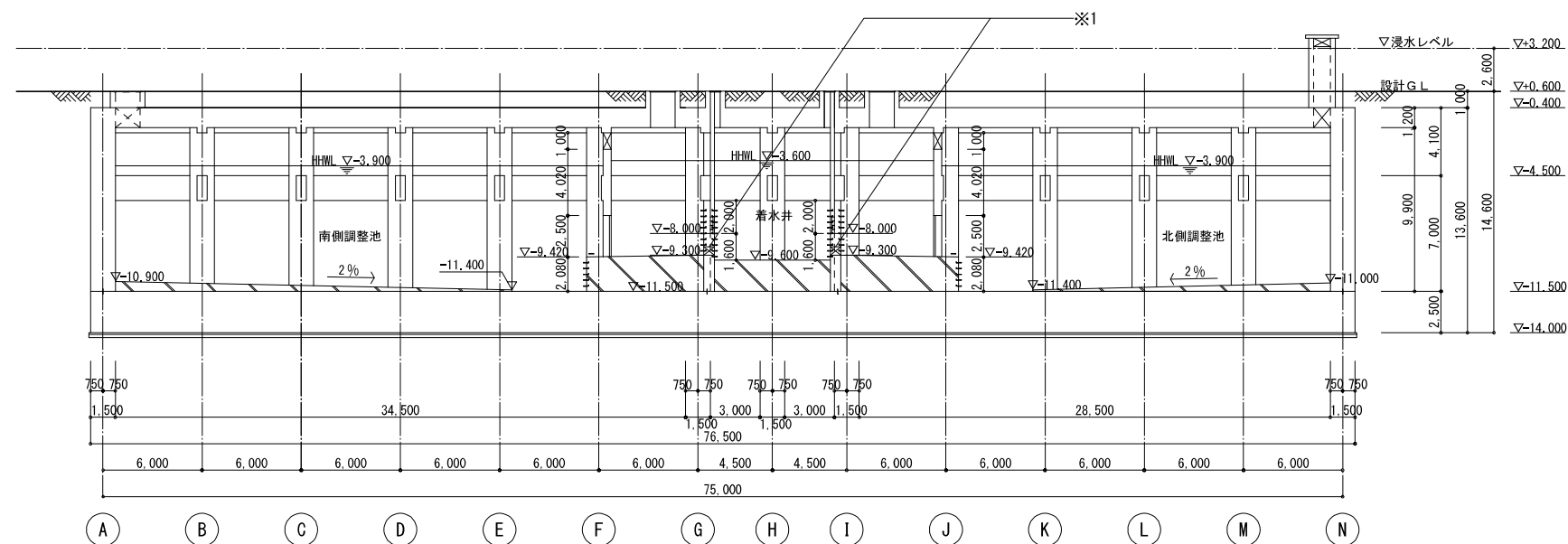
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



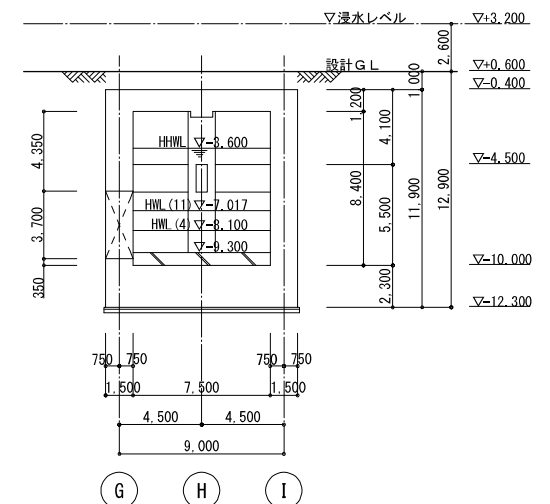
D-D 断面图	S=1/200
---------	---------



KEYPLAN



E-E 断面图 S=1/200



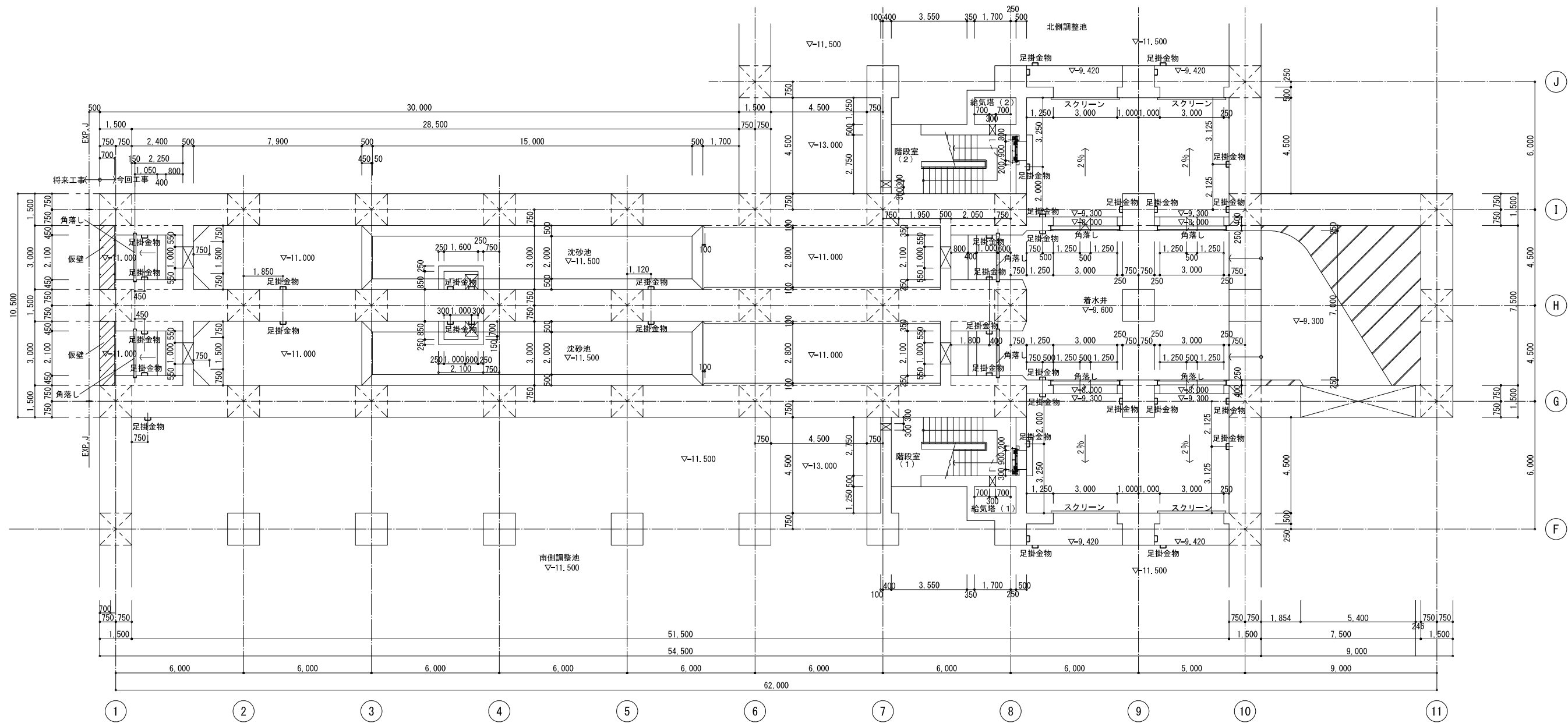
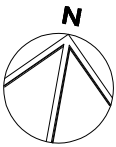
F—F 断面图	S=1/200
---------	---------

【凡例】

HHWL	:	雨水調整池満水時
HWL (11)	:	時間最大雨水量 (11.007m <sup>3</sup> /s 49.90mm/h 降雨)
HWL (4)	:	ポンプ能力 (4.00m <sup>3</sup> /s 18.13mm/h 降雨)

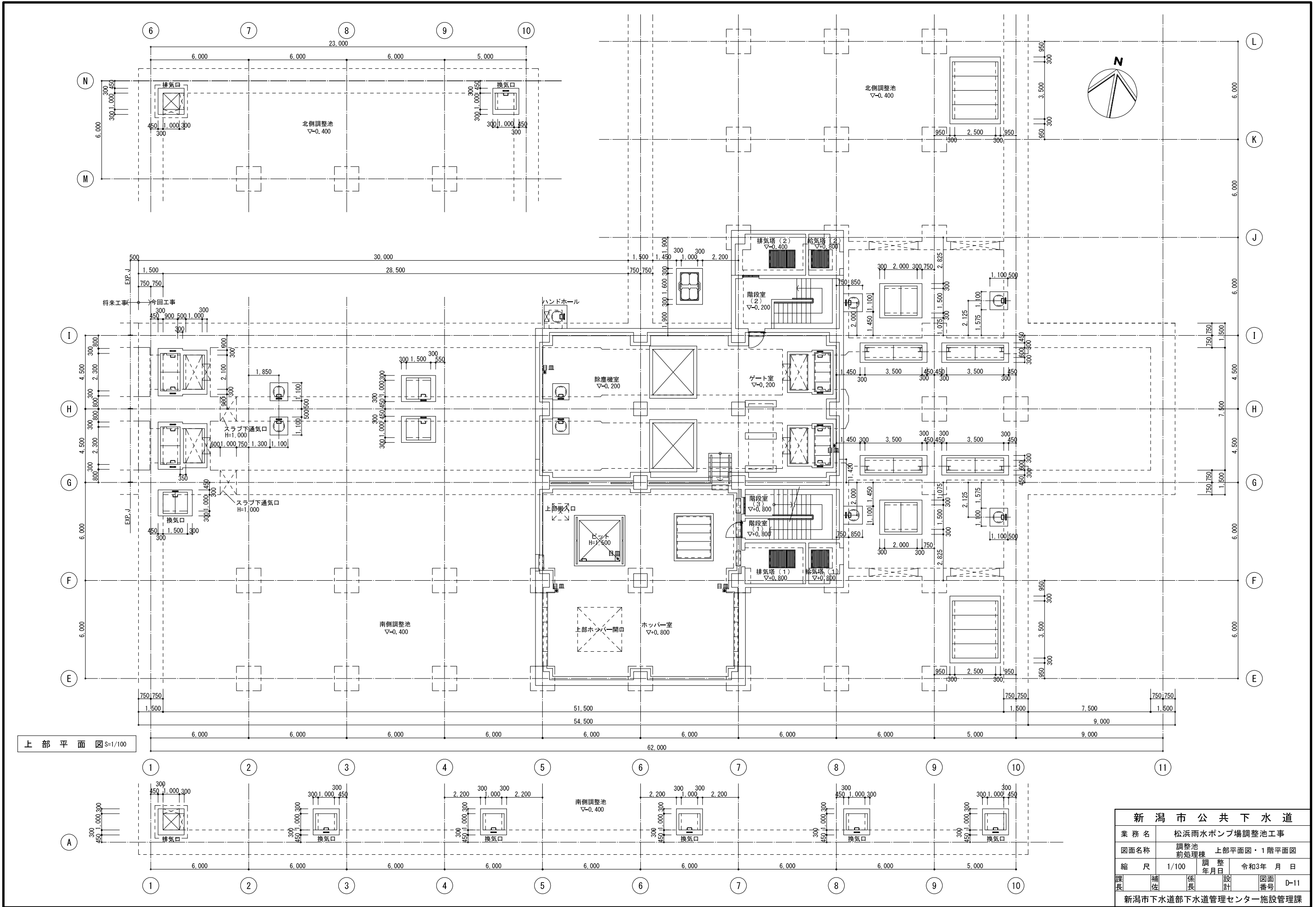
※1：堰下開口部(500×500)については、ポンプ棟  
完成時(本運用時)には閉塞すること

新 潟 市 公 共 下 水 道						
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称		調整池 断 面 図 (2)				
縮 尺		1/200	調 整 年 月 日		令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-9	
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課						



下部平面図 S=1/100

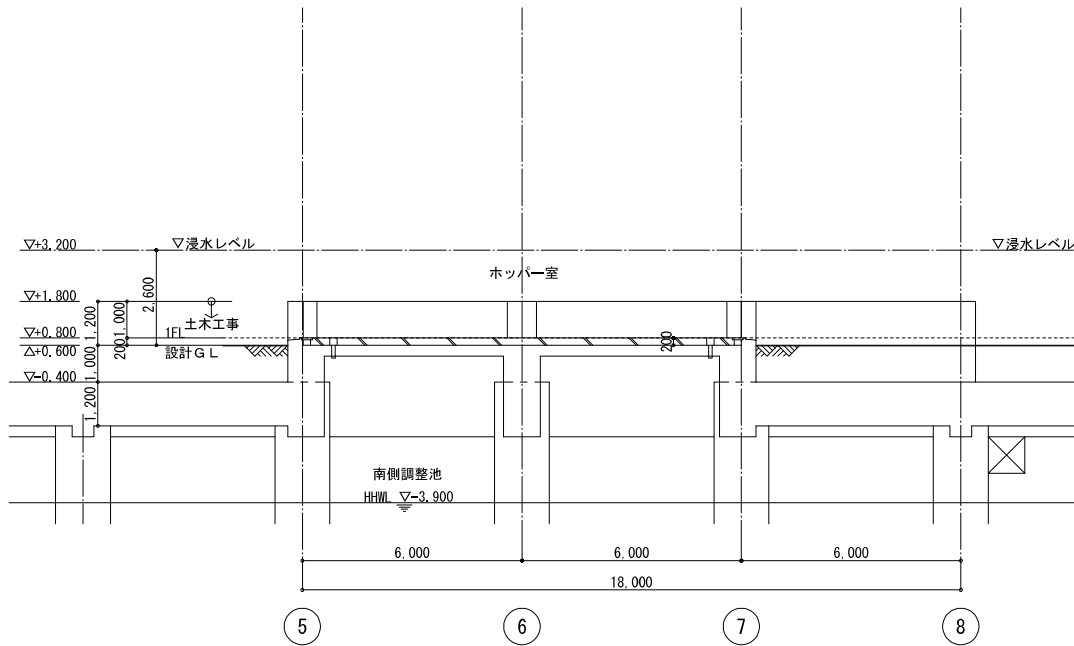
新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 下部平面図				
縮尺	1/100	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-10
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



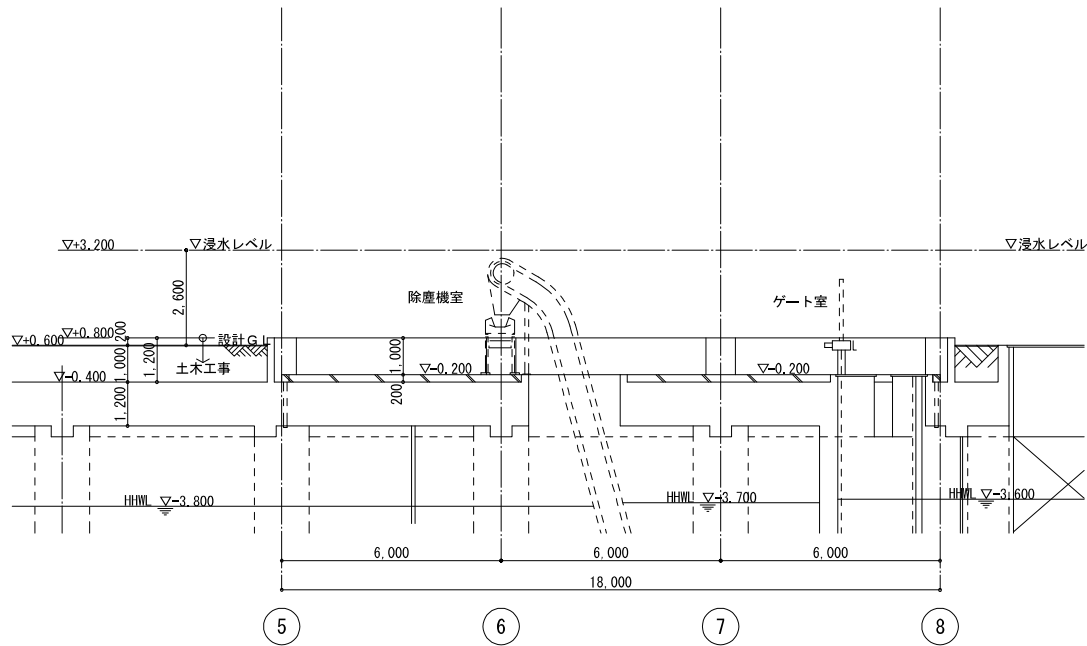
上部平面図 S=1/100

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池前処理棟 上部平面図・1階平面図				
縮尺	1/100	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-11
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

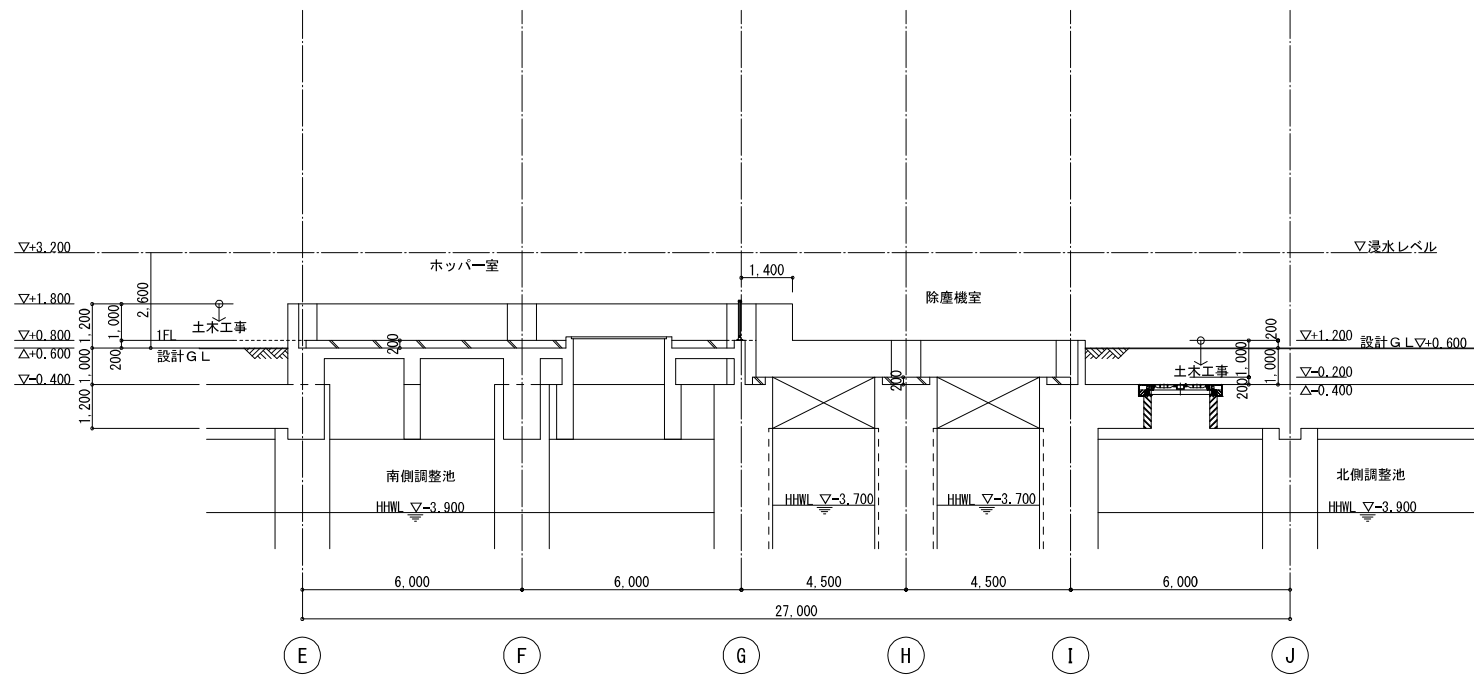
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



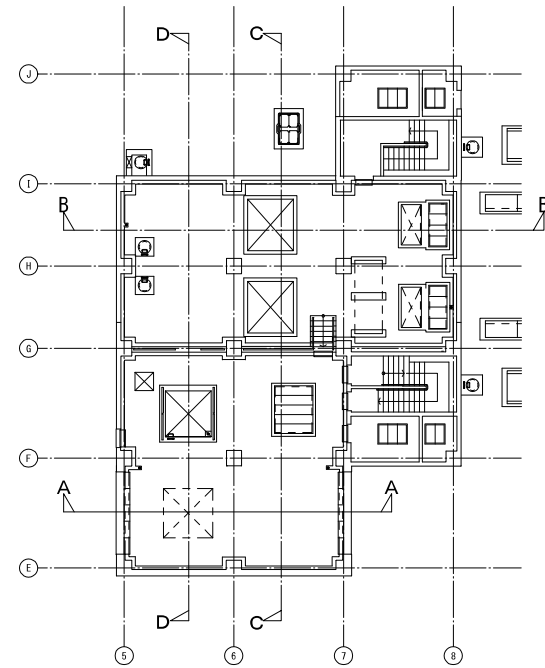
A-A 断面図 S=1/100



B-B 断面図 S=1/100



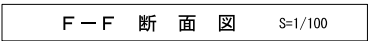
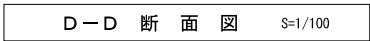
C-C 断面図 S=1/100



KEY PLAN

【凡例】  
HHWL : 雨水調整池満水時  
HWL (11) : 時間最大雨水量 (11.007m<sup>3</sup>/s 49.90mm/h 降雨)  
HWL (4) : ポンプ能力 (4.00m<sup>3</sup>/s 18.13mm/h 降雨)

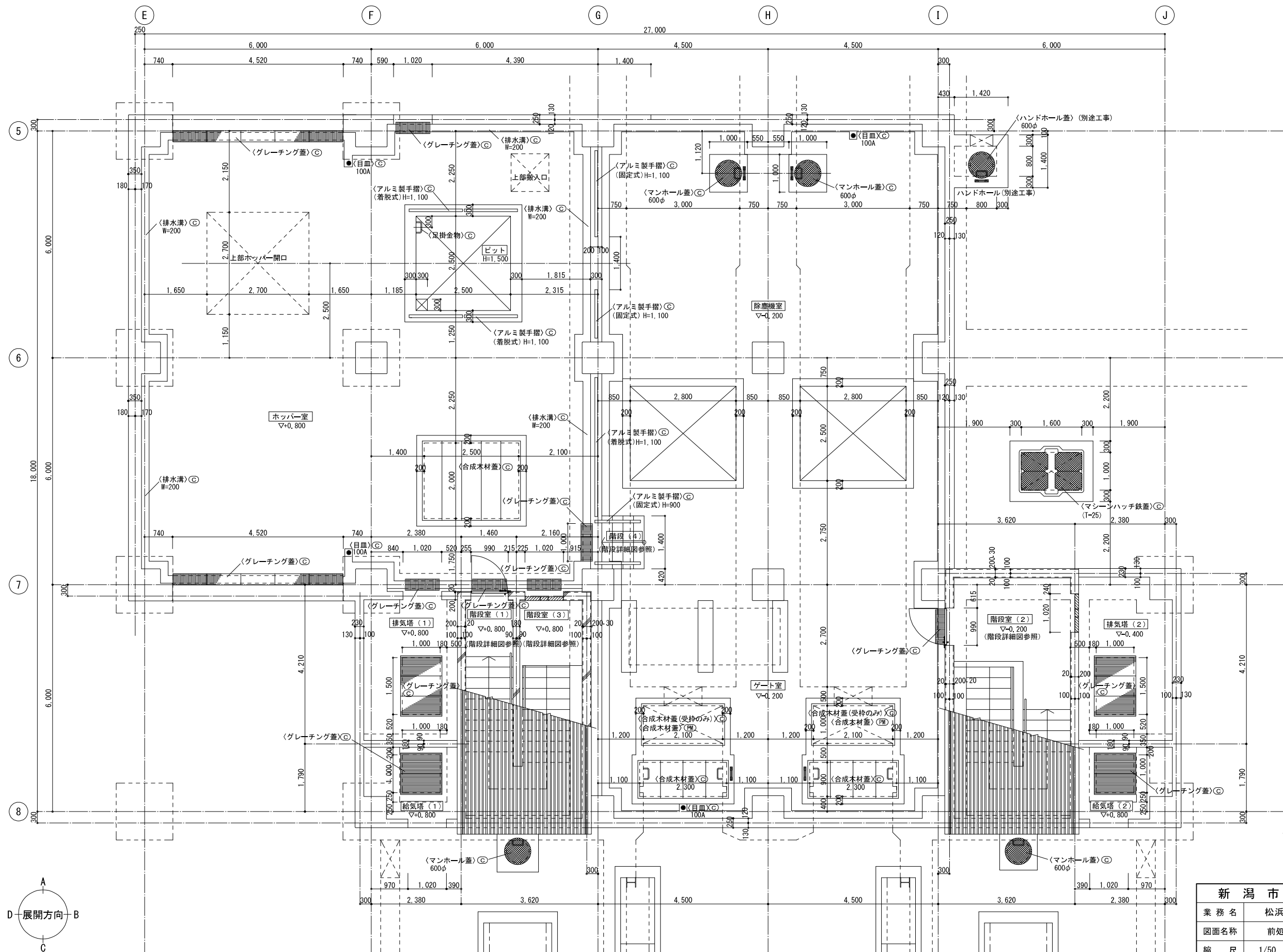
新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	前処理棟 断面図 (1)				
縮尺	1/100	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-12
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



(PM) : プラント機械設備工事

HWL : 雨水調整池満水時  
HWL (11) : 時間最大雨水量 (11.007m<sup>3</sup>/s 49.90mm/h 降雨)  
HWL (4) : ポンプ能力 (4.00m<sup>3</sup>/s 18.13mm/h 降雨)

新 潟 市 公 共 下 水 道				
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事		
図面名称		前処理棟 断 面 図 (2)		
縮 尺		1/100	調 整 年 月 日	令和3年 月 日
課長	補佐	係長	設計	図面 番号 D-13
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

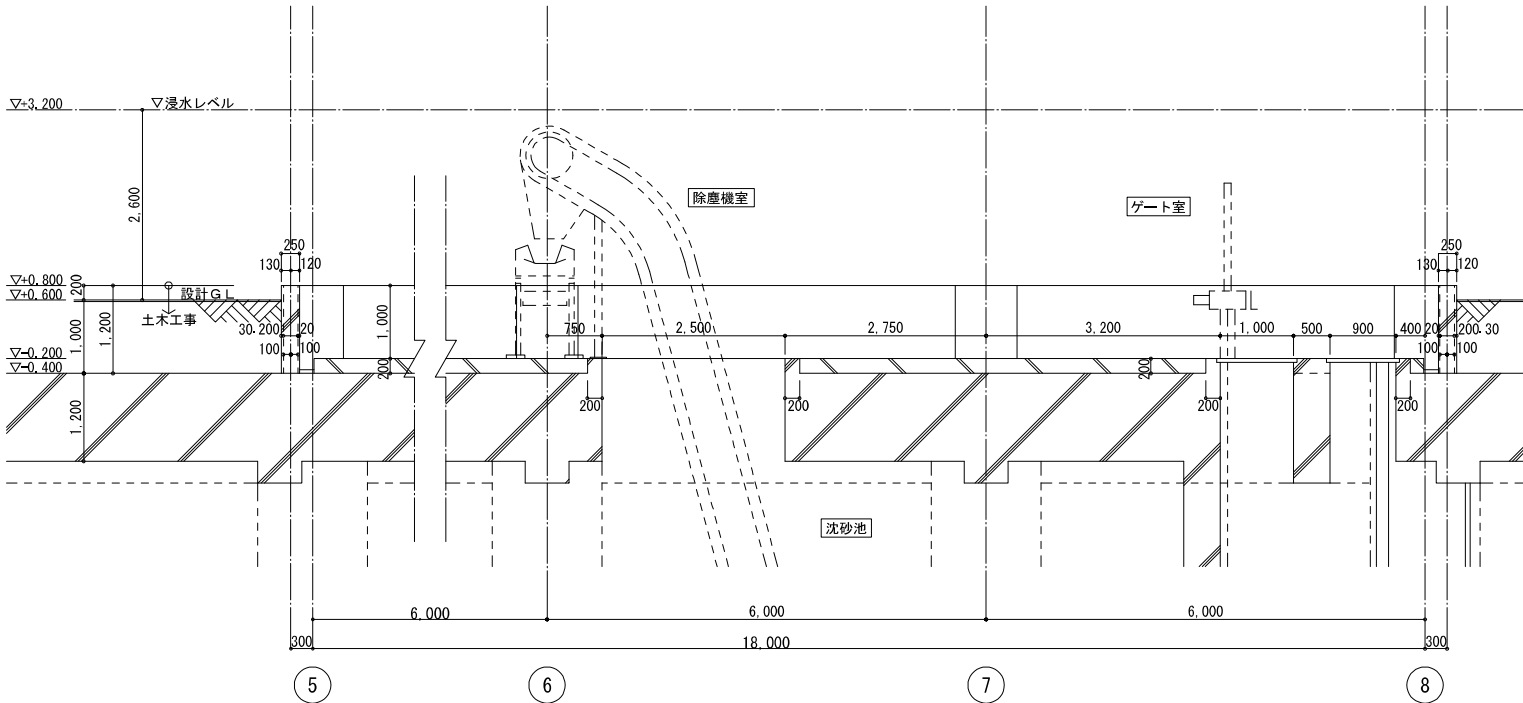


1階 平面詳細図 S=1/50

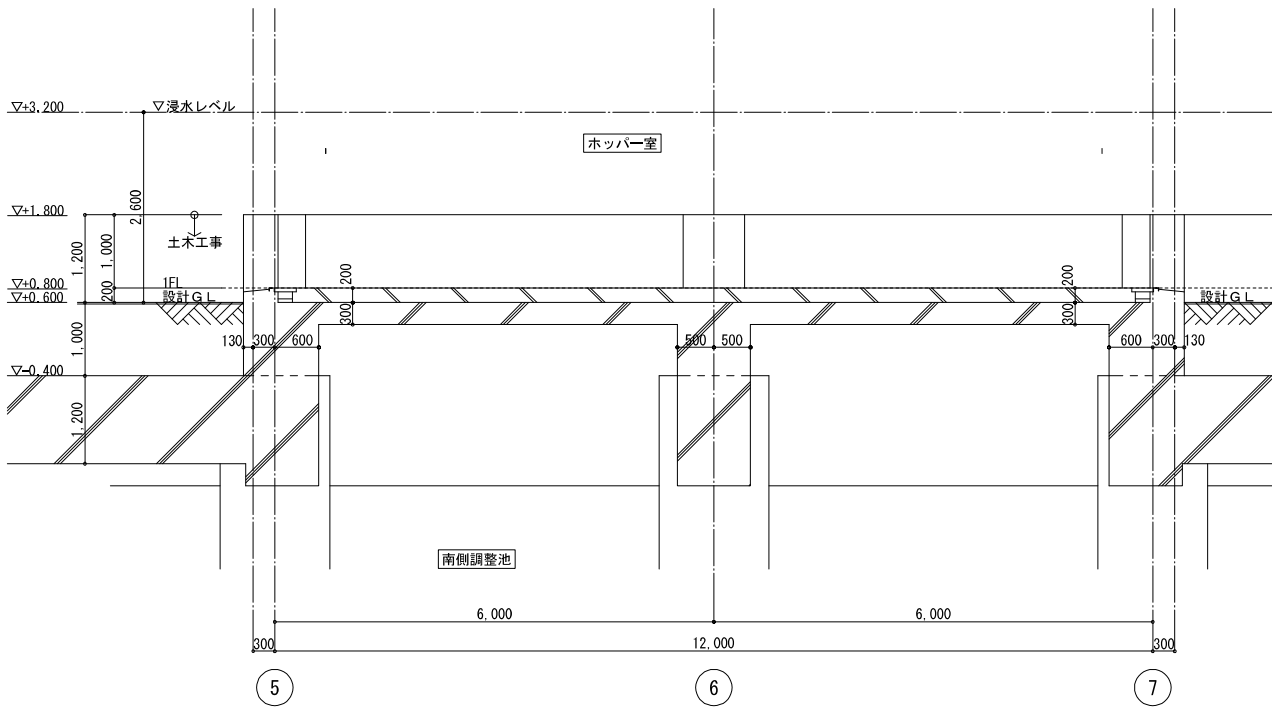
仕上げ等工事区分略号  
C : 土木工事  
PM : プラント機械設備工事

新潟市 公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	前処理棟 1階平面詳細図				
縮尺	1/50	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-14
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

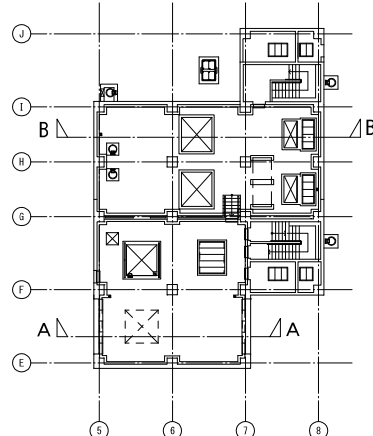
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



B-B 断面詳細図 S=1/50



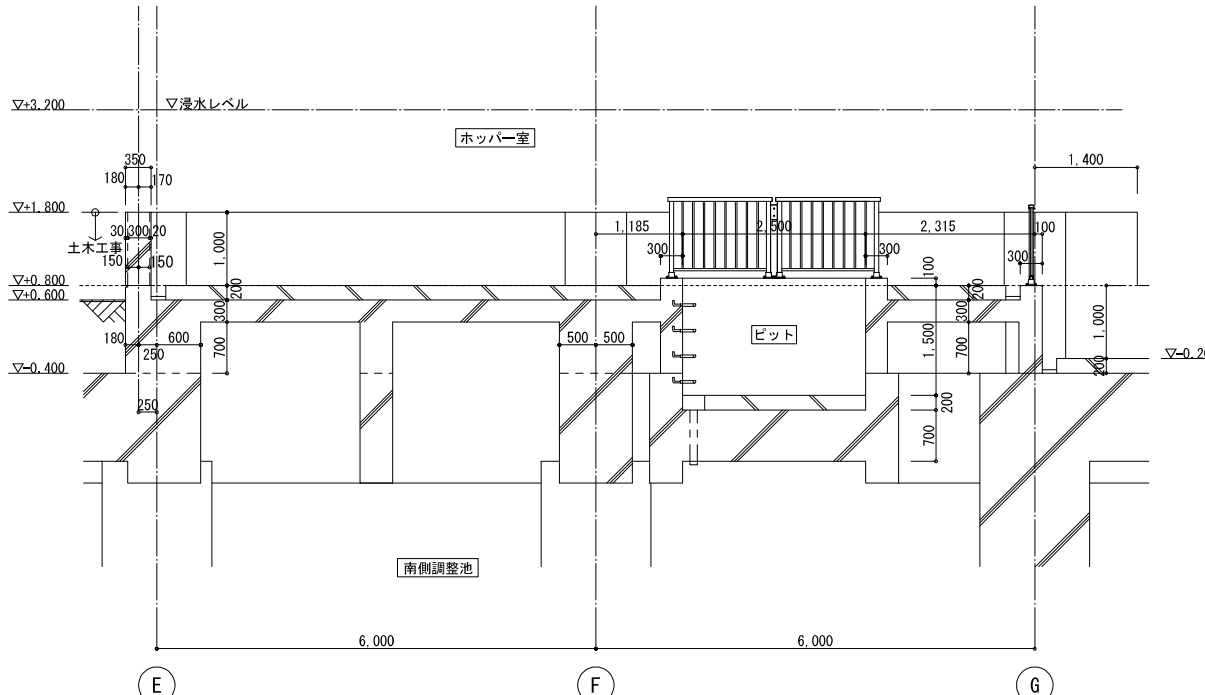
A-A 断面詳細図 S=1/50



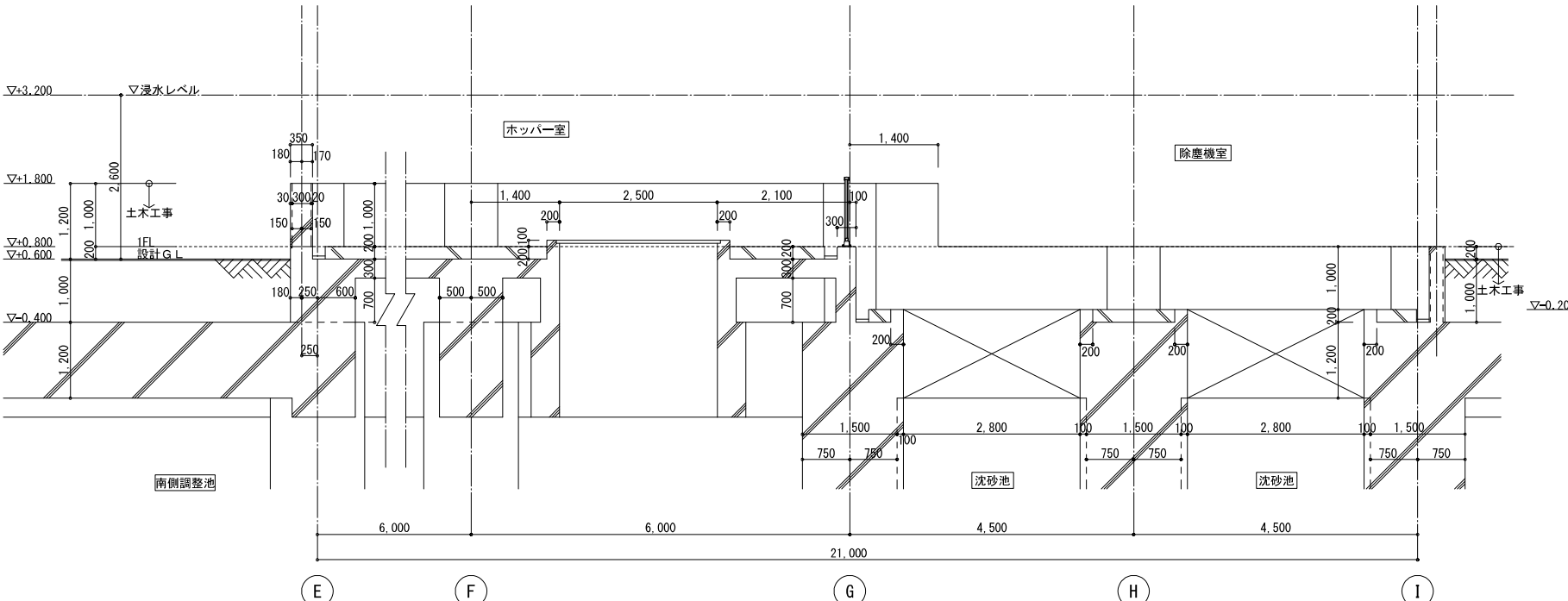
## KEYPLAN

新 潟 市 公 共 下 水 道						
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称		前処理棟 断面詳細図（１）				
縮 尺		1/50	調 整 年 月 日		令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計		図面 番号	D-15
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課						

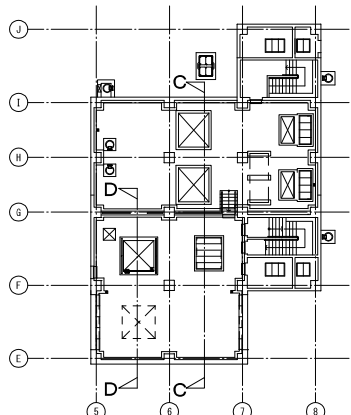
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



D-D 断面詳細図 S=1/50

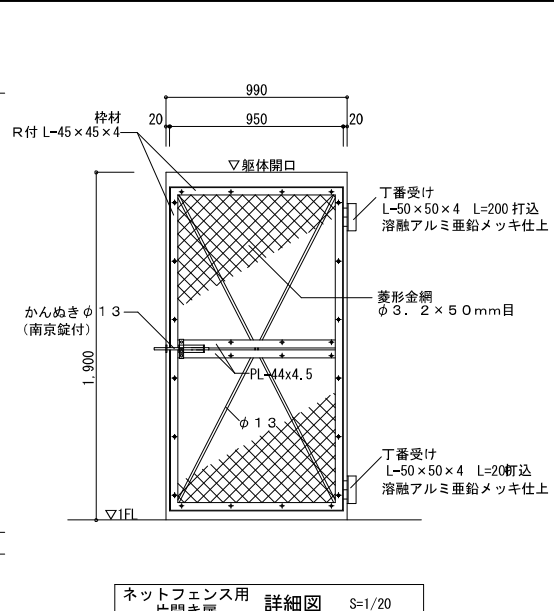
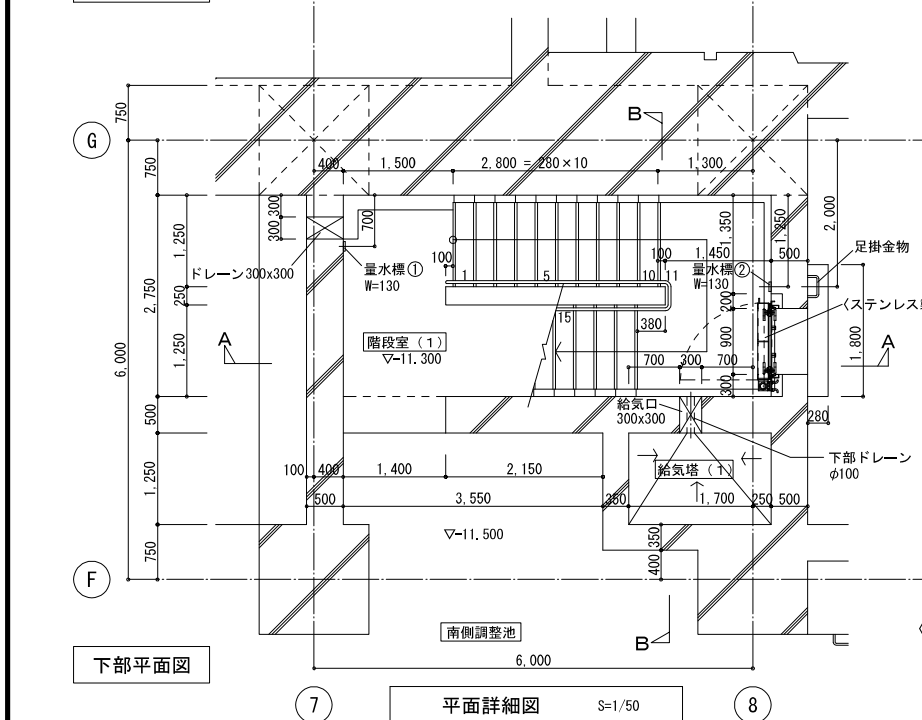
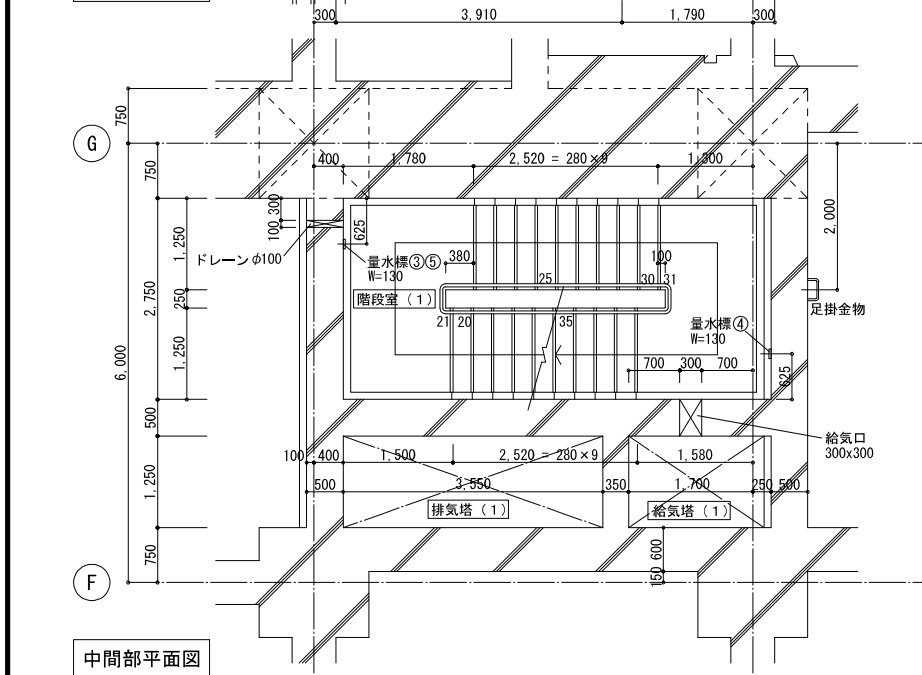
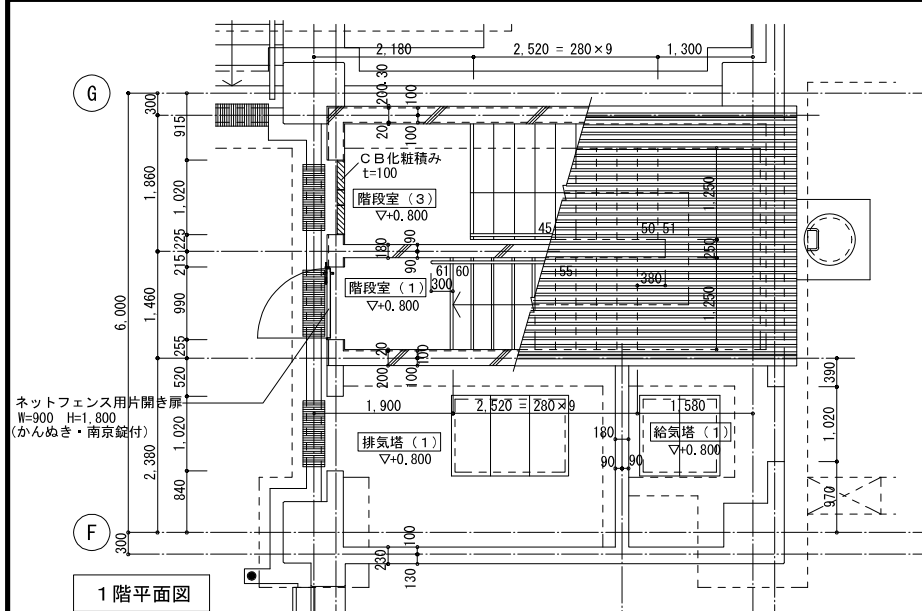


C-C 断面詳細図 S=1/50



## KEYPLAN

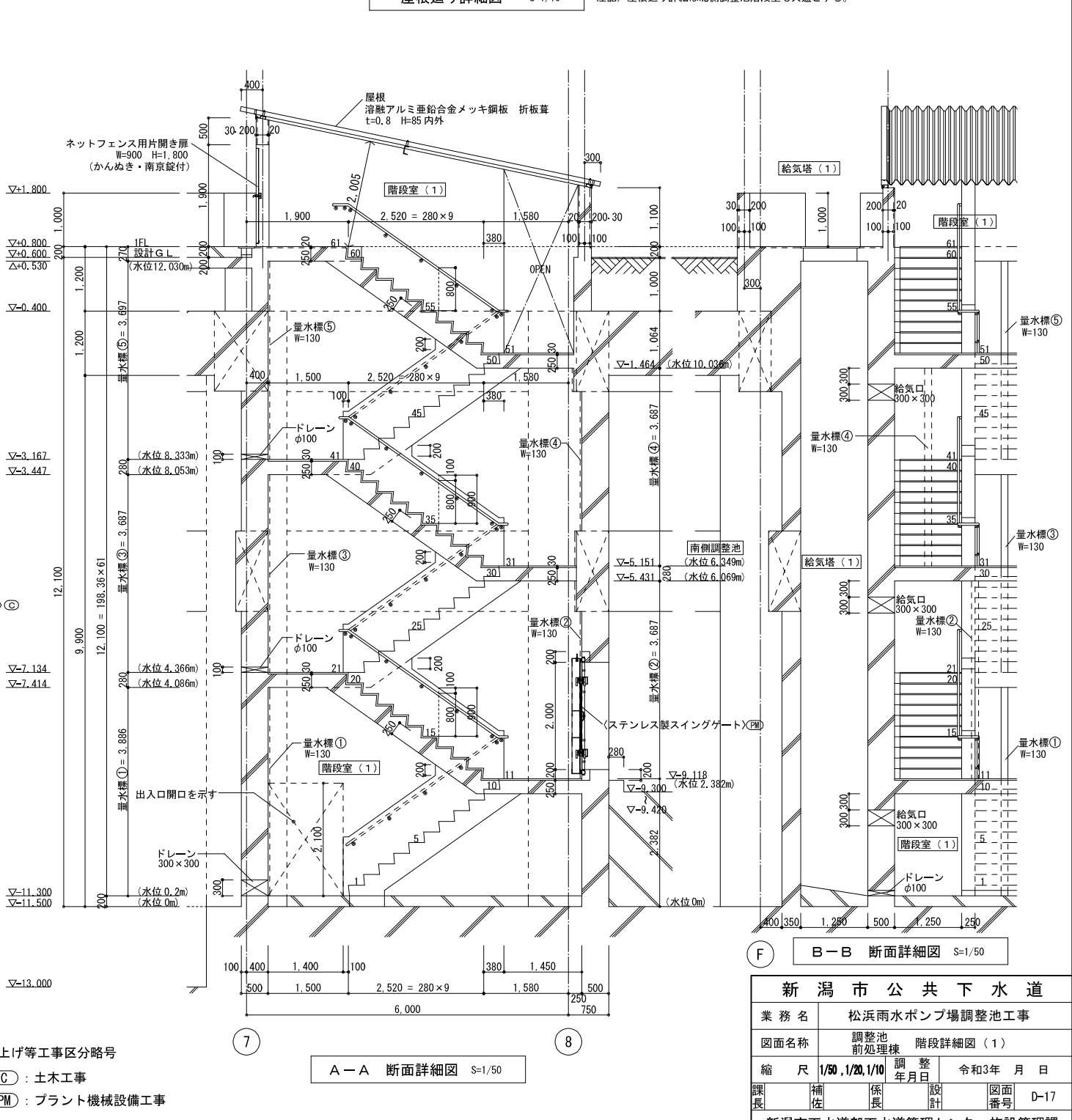
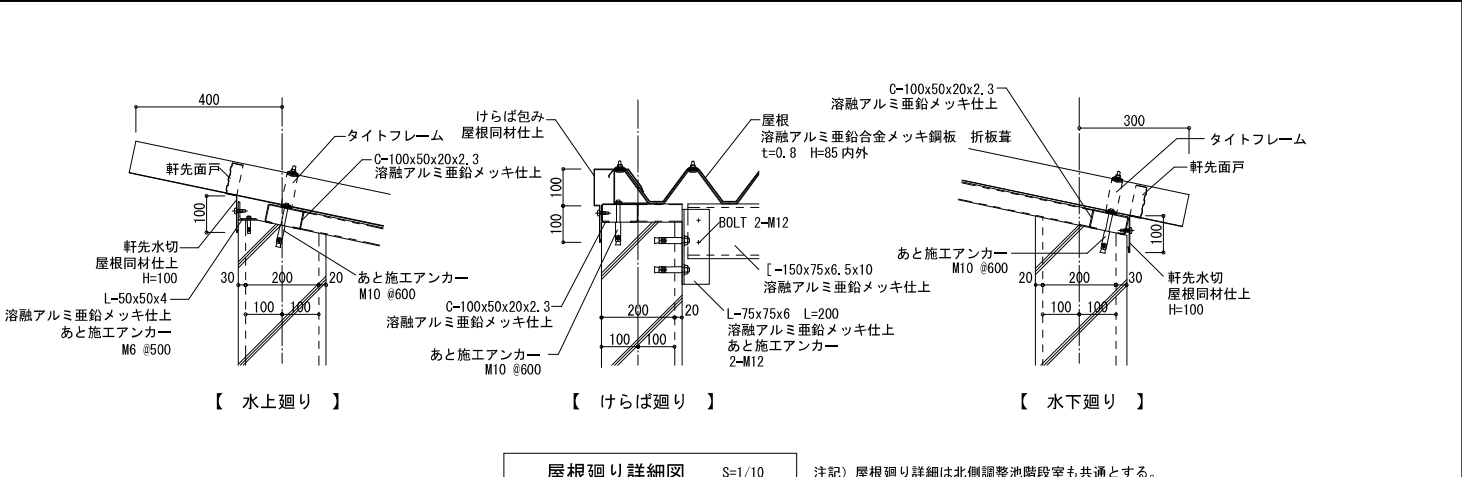
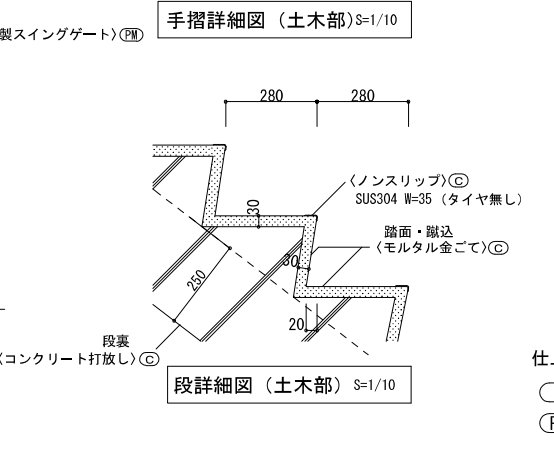
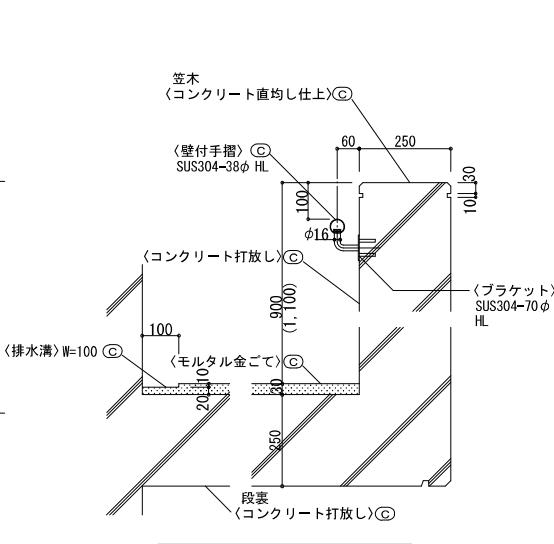
新 潟 市 公 共 下 水 道					
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称		前処理棟 断面詳細図（２）			
縮 尺		1/50	調 整 年 月 日		令和3年 月 日
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-16
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



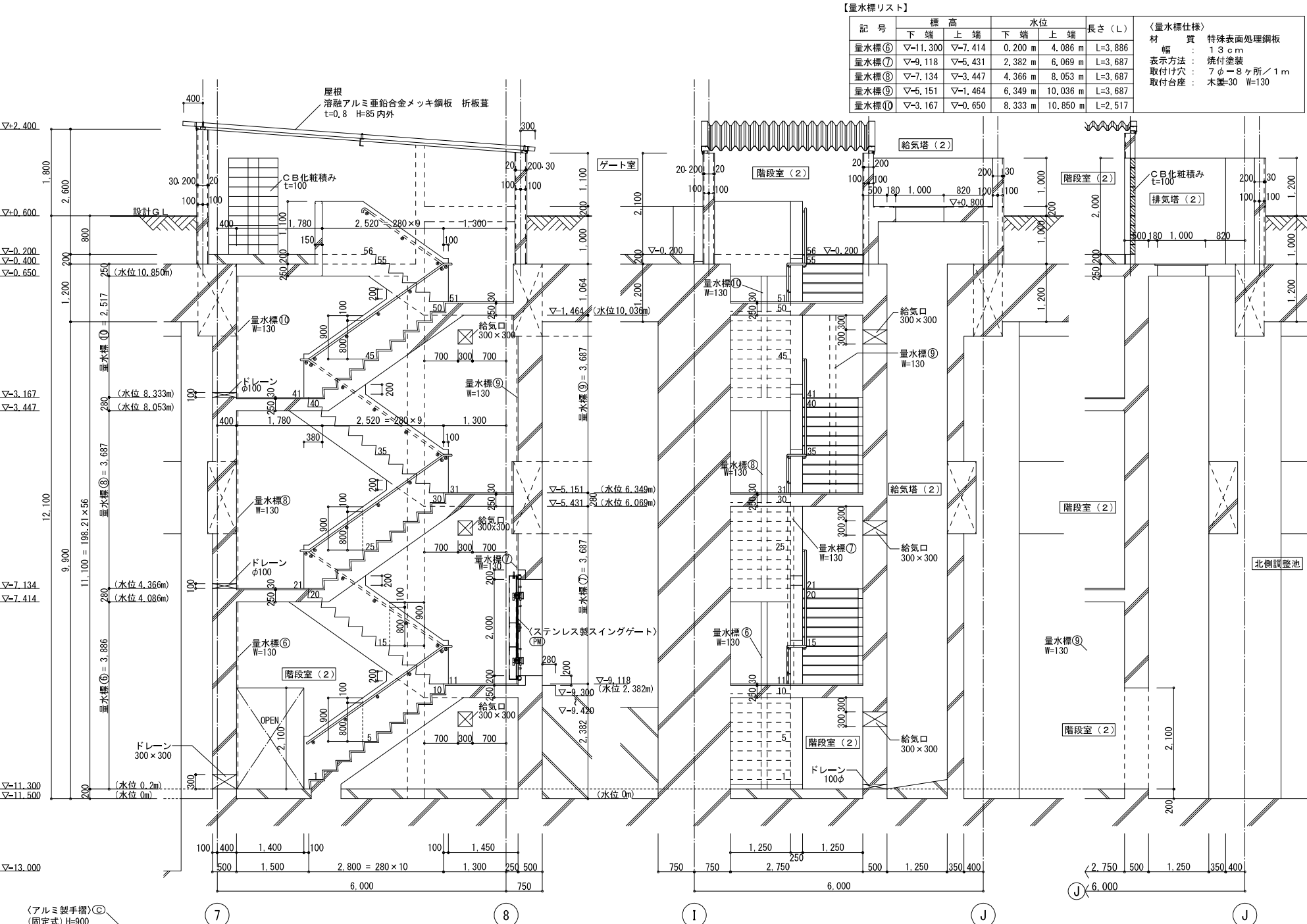
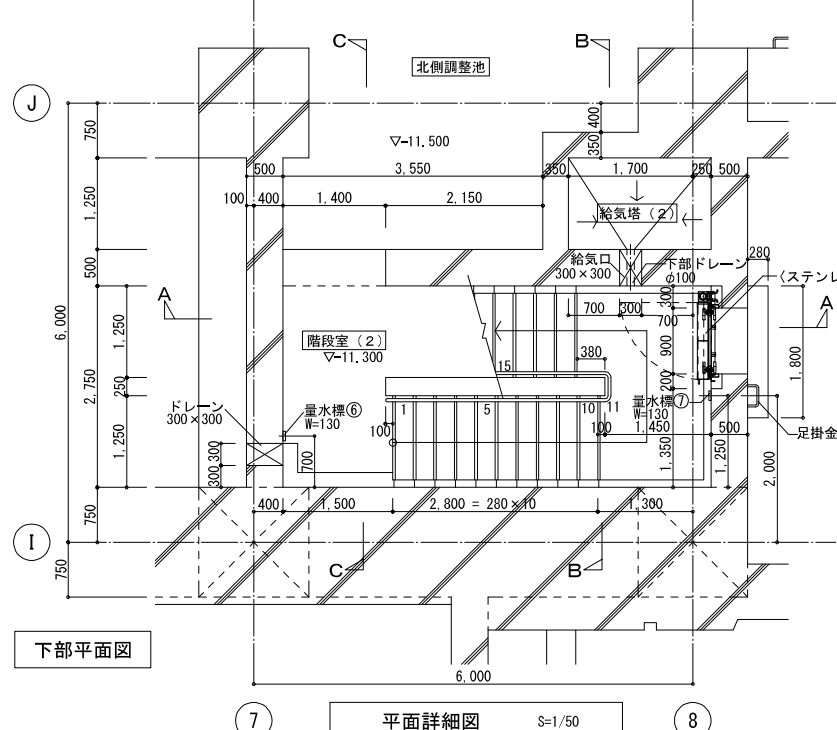
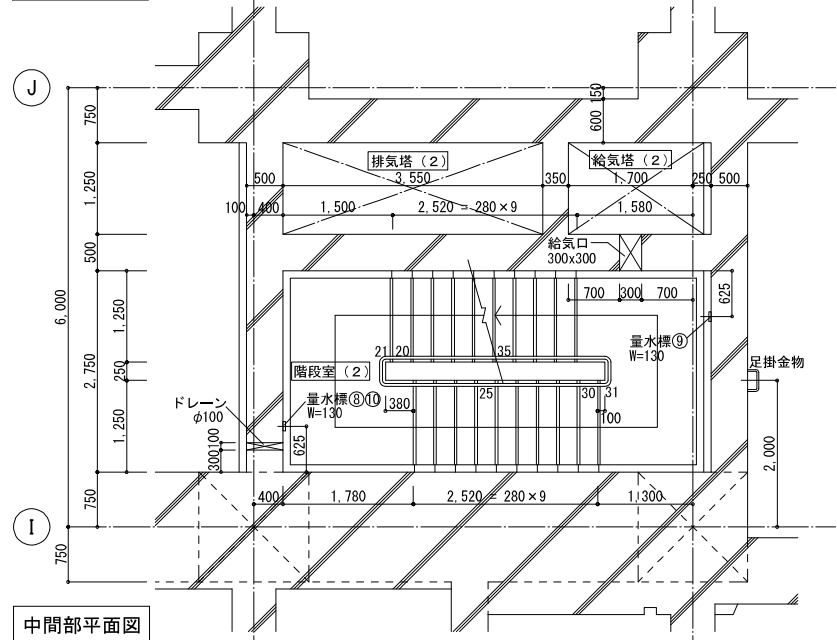
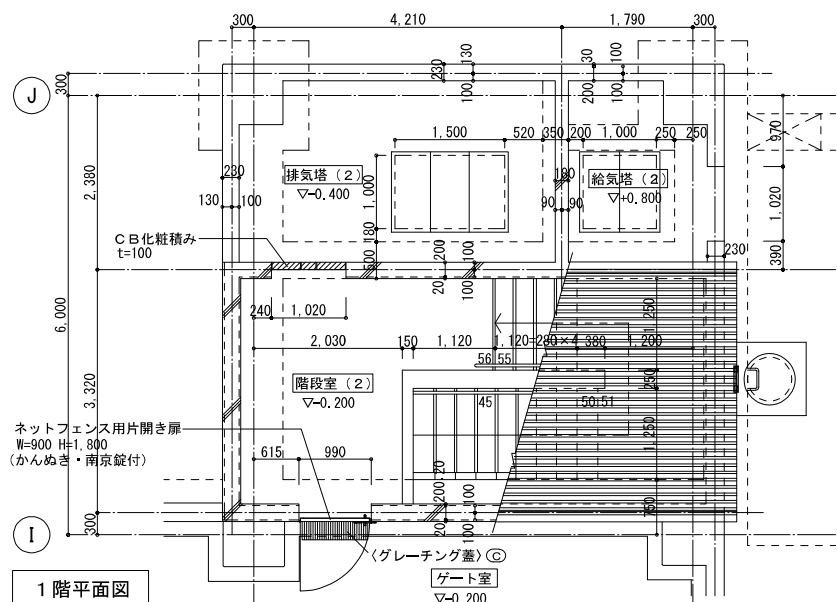
【量水標リスト】

記号	標高		水位		長さ(L)
	下端	上端	下端	上端	
量水標①	▽+11.300	▽+7.414	0.200 m	4.086 m	L=3.886
量水標②	▽+9.118	▽+5.431	2.382 m	6.069 m	L=3.687
量水標③	▽+7.134	▽+3.447	4.366 m	8.053 m	L=3.687
量水標④	▽+5.151	▽+1.464	6.349 m	10.036 m	L=3.687
量水標⑤	▽+3.167	▽+0.530	8.333 m	12.030 m	L=3.697

〈量水標仕様〉  
材質 特殊表面処理銅板  
幅 13cm  
表示方法 焼付塗装  
取付け穴 7φ-8ヶ所/1m  
取付け台座 木製30 W=130

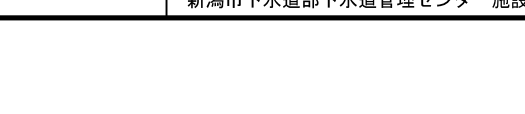
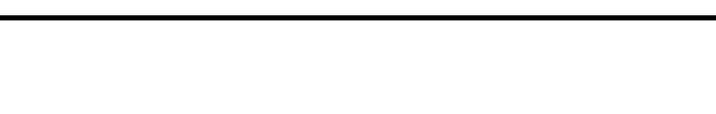
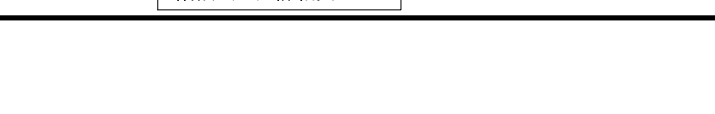
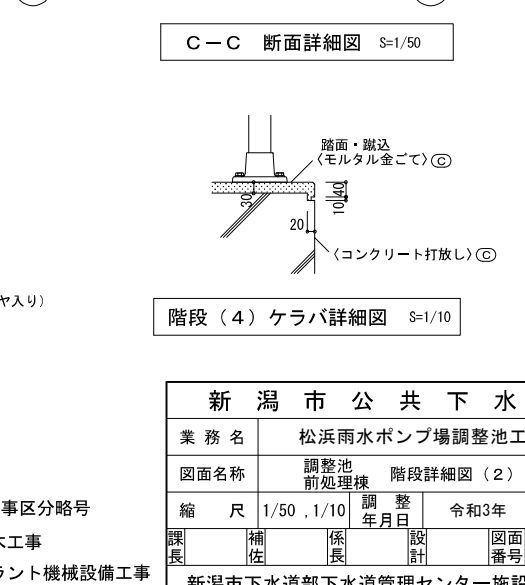
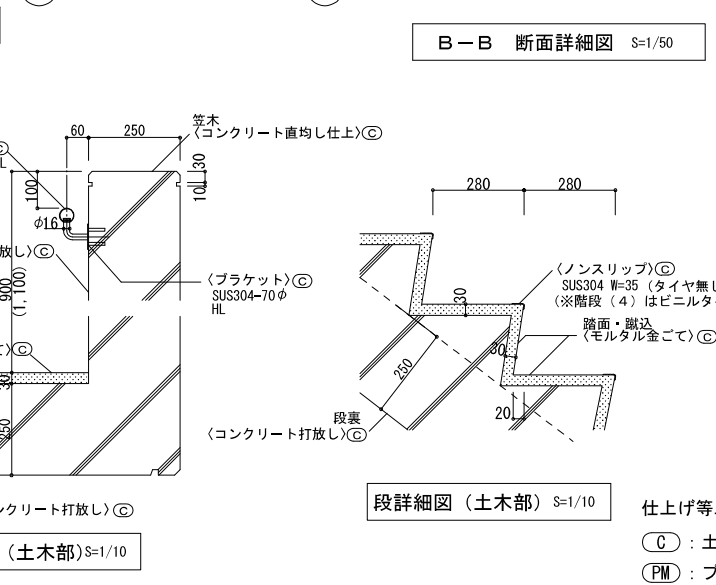
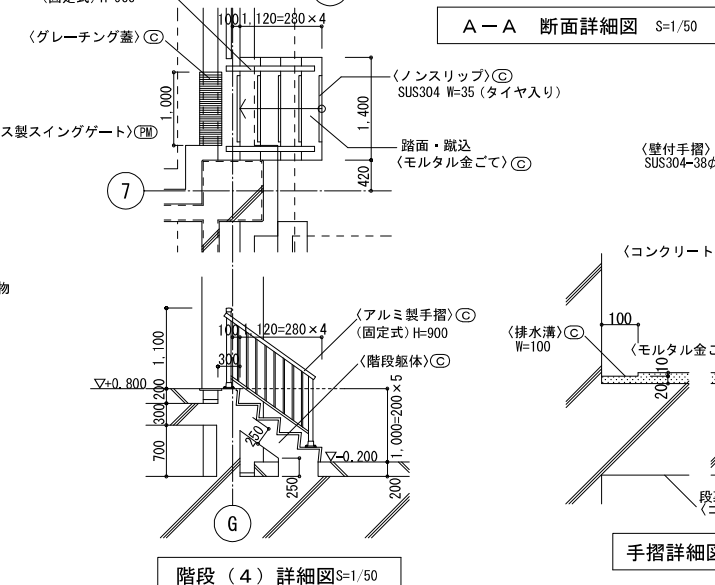


新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池前処理棟 階段詳細図 (1)				
縮尺	1/50, 1/20, 1/10	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-17
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

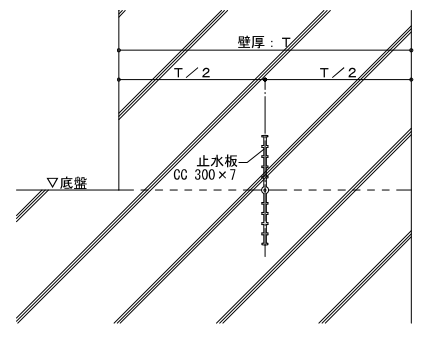
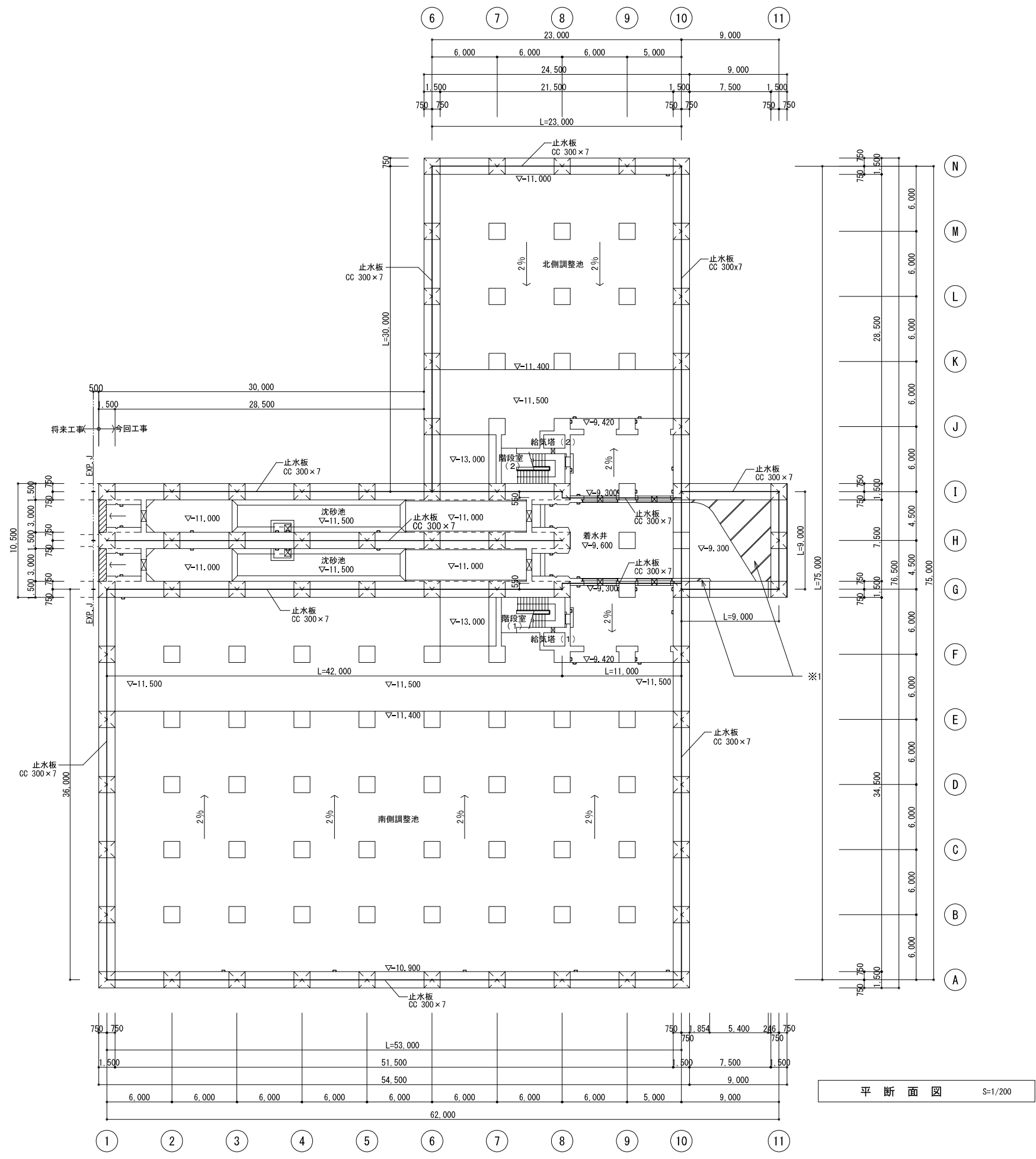


【量水標リスト】

記号	標高		水位		長さ(L)	〈量水標仕様〉 材 質 特殊表面処理鋼板 幅 : 13cm 表示方法 : 焼付塗装 取付け穴 : 7φ-8ヶ所/1m 取付台座 : 木製30 W=130
	下 端	上 端	下 端	上 端		
量水標⑥	▽-1.300	▽-7.414	0.200 m	4.086 m	L=3.886	
量水標⑦	▽-9.118	▽-5.431	2.382 m	6.069 m	L=3.687	
量水標⑧	▽-7.134	▽-3.447	4.366 m	8.053 m	L=3.687	
量水標⑨	▽-5.151	▽-1.464	6.349 m	10.036 m	L=3.687	
量水標⑩	▽-3.167	▽-0.650	8.333 m	10.850 m	L=2.517	



新潟市 公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池前処理棟 階段詳細図 (2)				
縮 尺	1/50	1/10	調 整	年 月 日	令和3年 月 日
課 長	補 佐	係 長	設 計	図 面	番 号
					D-18
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



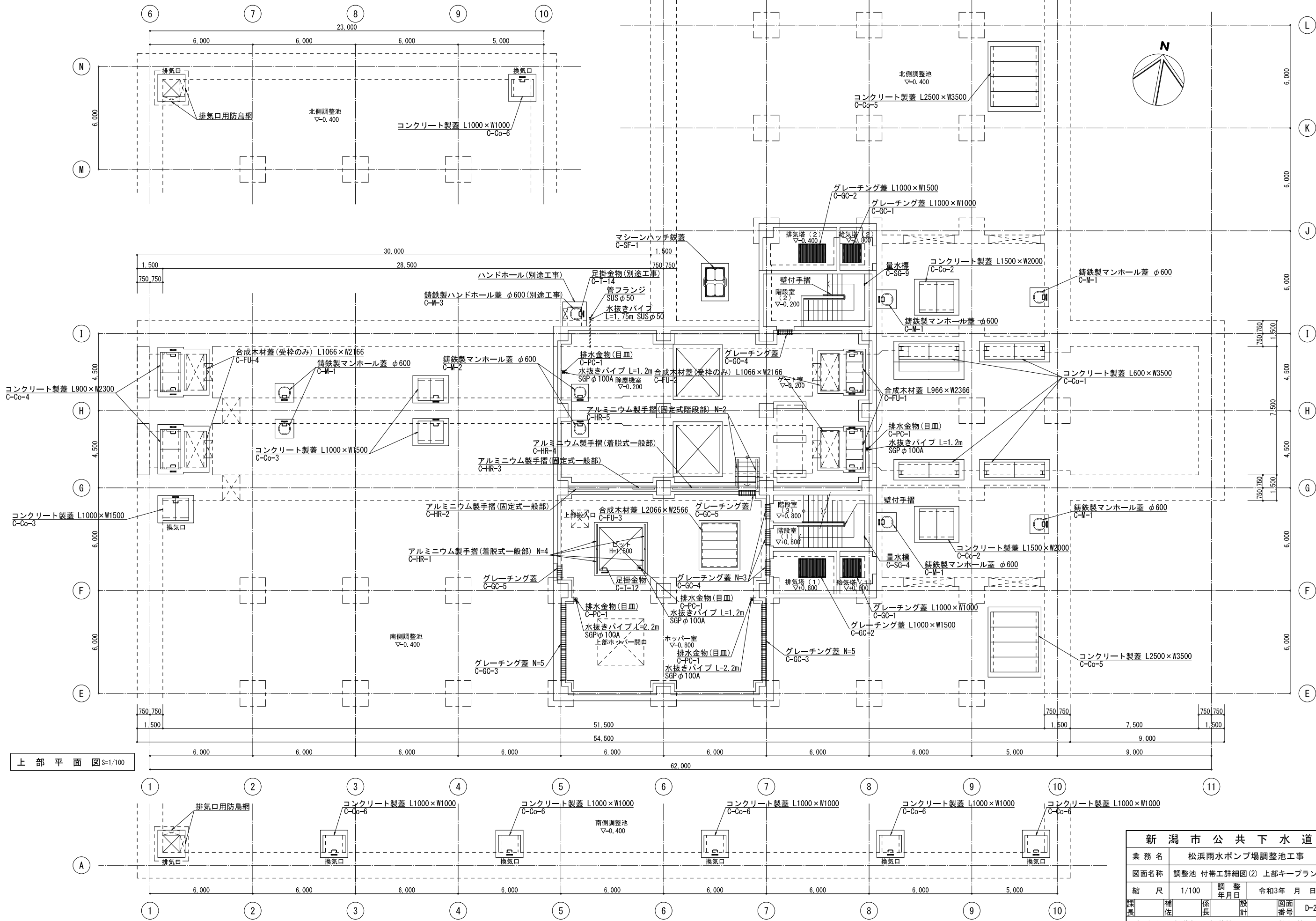
止水板 取付詳細図 S=1/10

※1: インパートコンクリートは管渠工事とする

平断面図 S=1/200

新潟市公共下水道					
業 務 名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 止水板設置位置図				
縮 尺	1/200, 1/10	調 整 年月日	令和3年 月 日		
課 長	補 佐	保 長	設 計	図 面 番号	D-19
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					





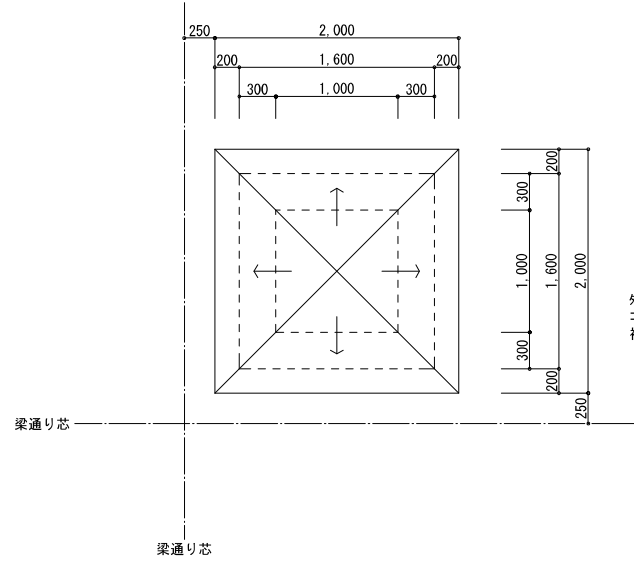
上部平面図 S=1/100

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 付帯工詳細図(2) 上部キープラン				
縮尺	1/100	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-21
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

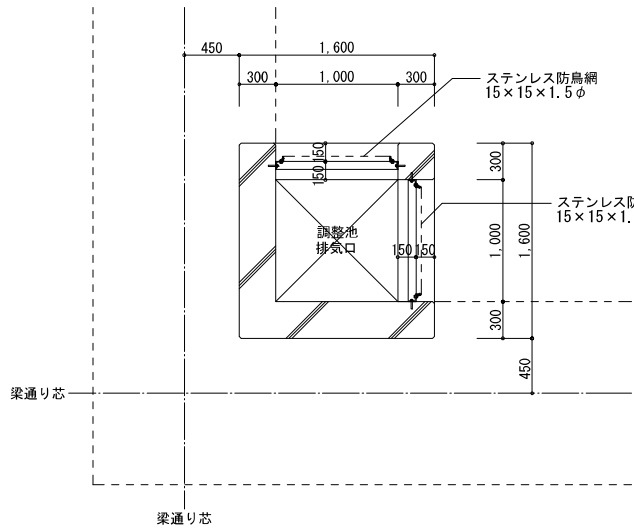






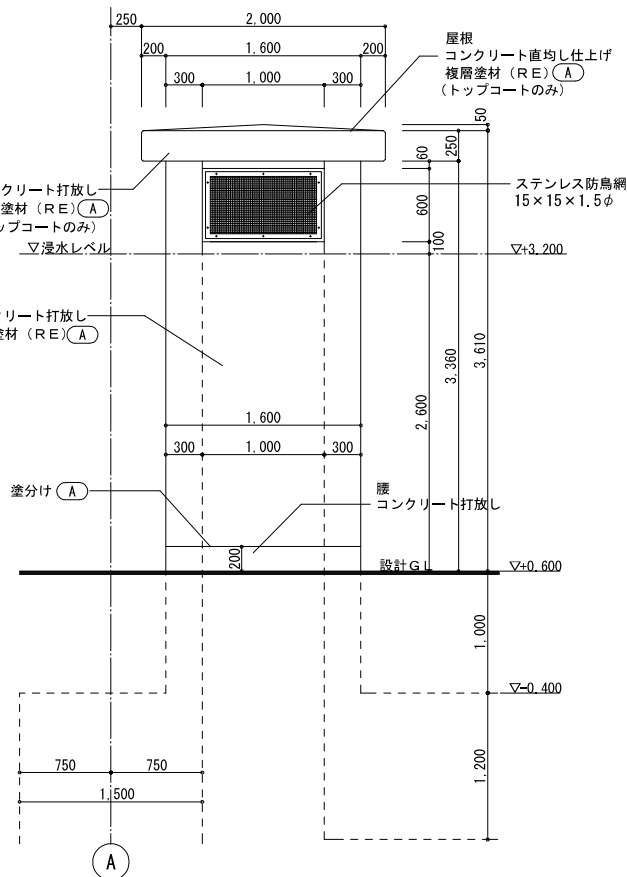


屋根伏図 S=1/30

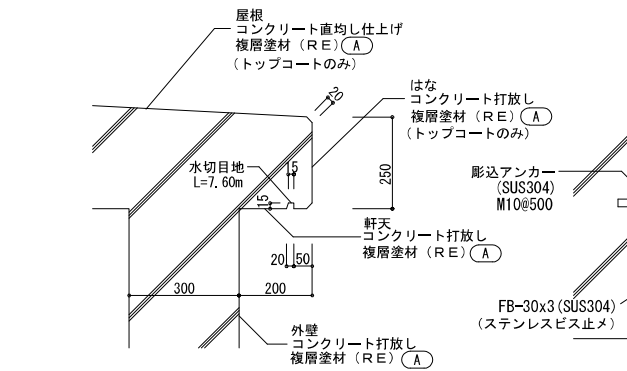


平面詳細図 S=1/30

注記) 北側調整池排気口も共通とする。

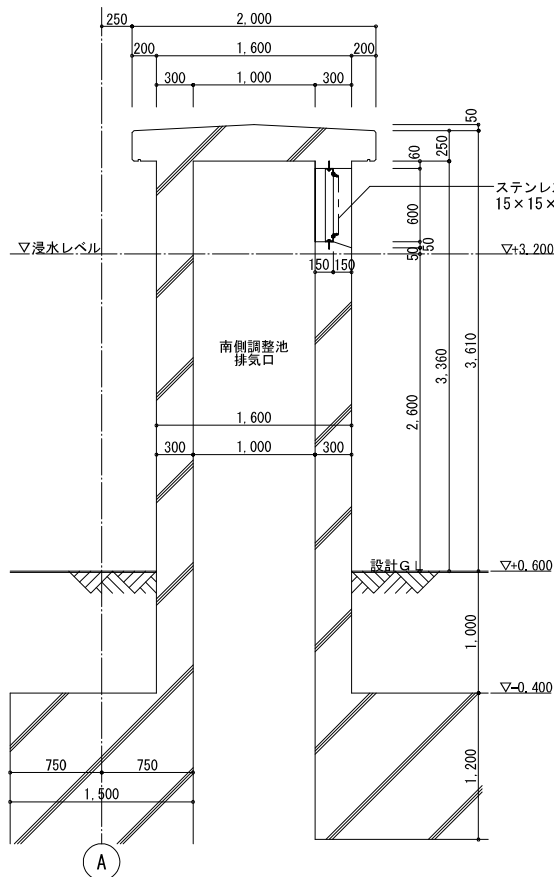


東側立面図 S=1/30

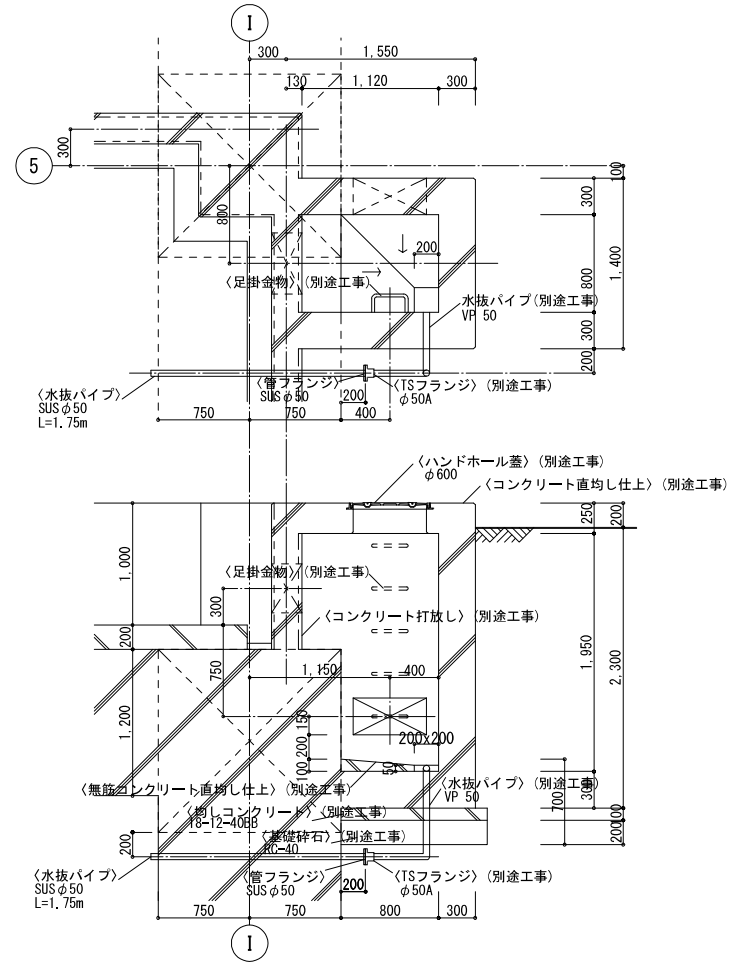


軒先廻り詳細図 S=1/10

※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



断面詳細図 S=1/30



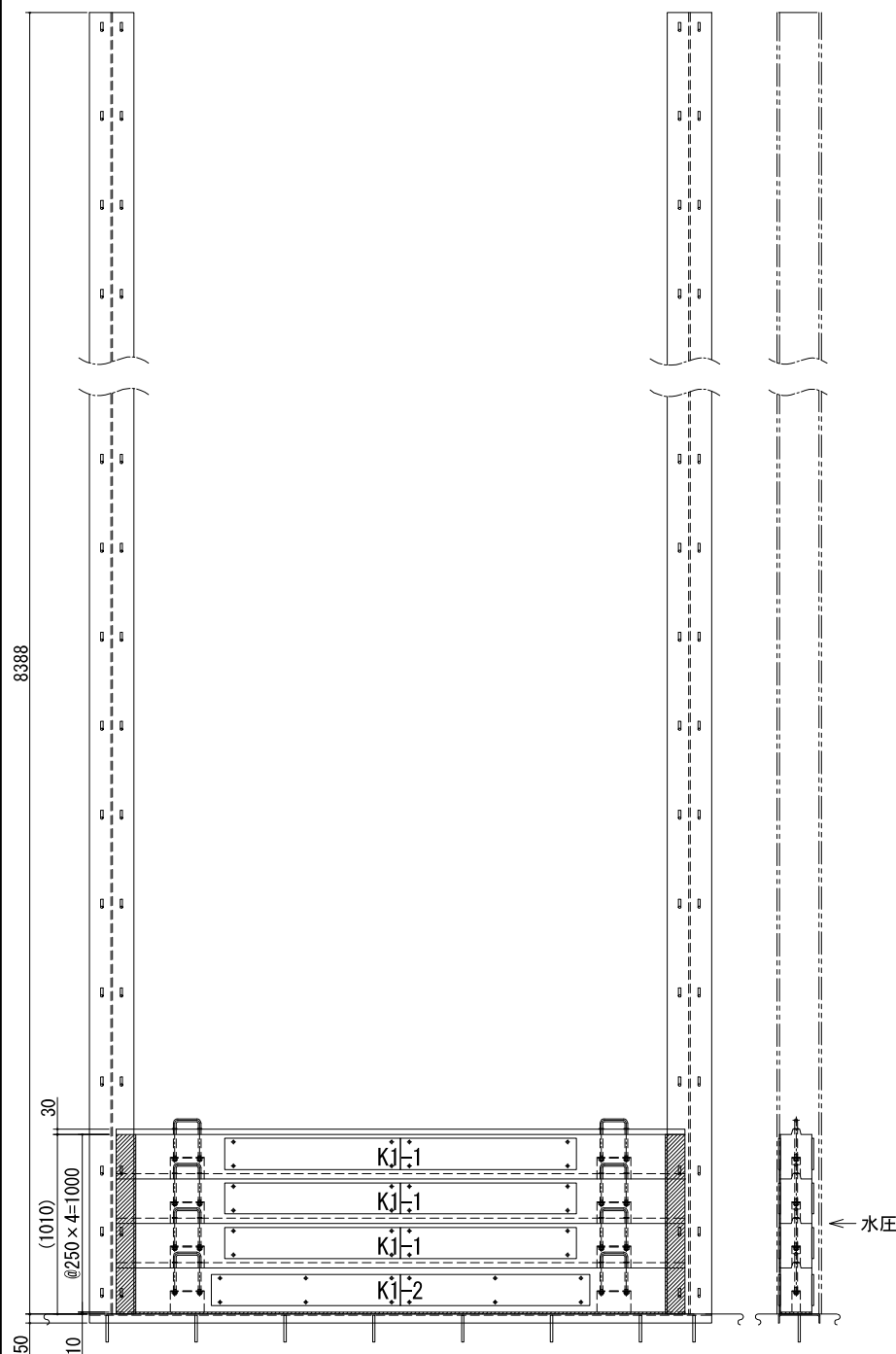
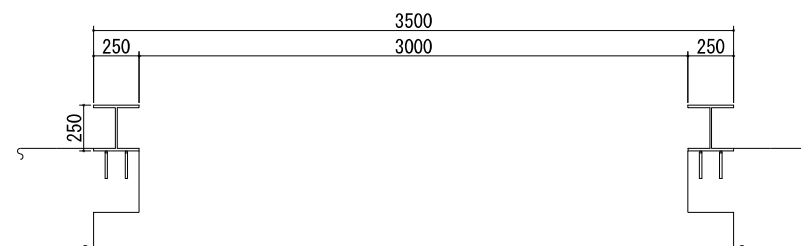
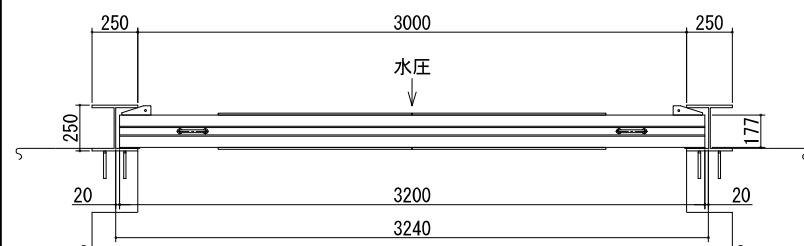
建具リスト S=1/50			
符号	・ 名称 ・ 個数	ステンレス防鳥網	4
場所		南側調整池排気口・北側調整池排気口	
仕上（枠共）		SUS304	
建具	見込（ランマ）		
	硝子（ランマ）	ステンレス防鳥網 15x15x1.5φ	
	ガラリ		
建具枠	見込取合 吝措	L-65x65x6 (SUS304) , L-40x40x3 (SUS304)	
枠記号 吝措（水切）記号			
建具金物		附属金物一式	
その他		開口率70%	
形状・寸法			

※ (A) : 仕上げ等は建築工事、今回工事含まず

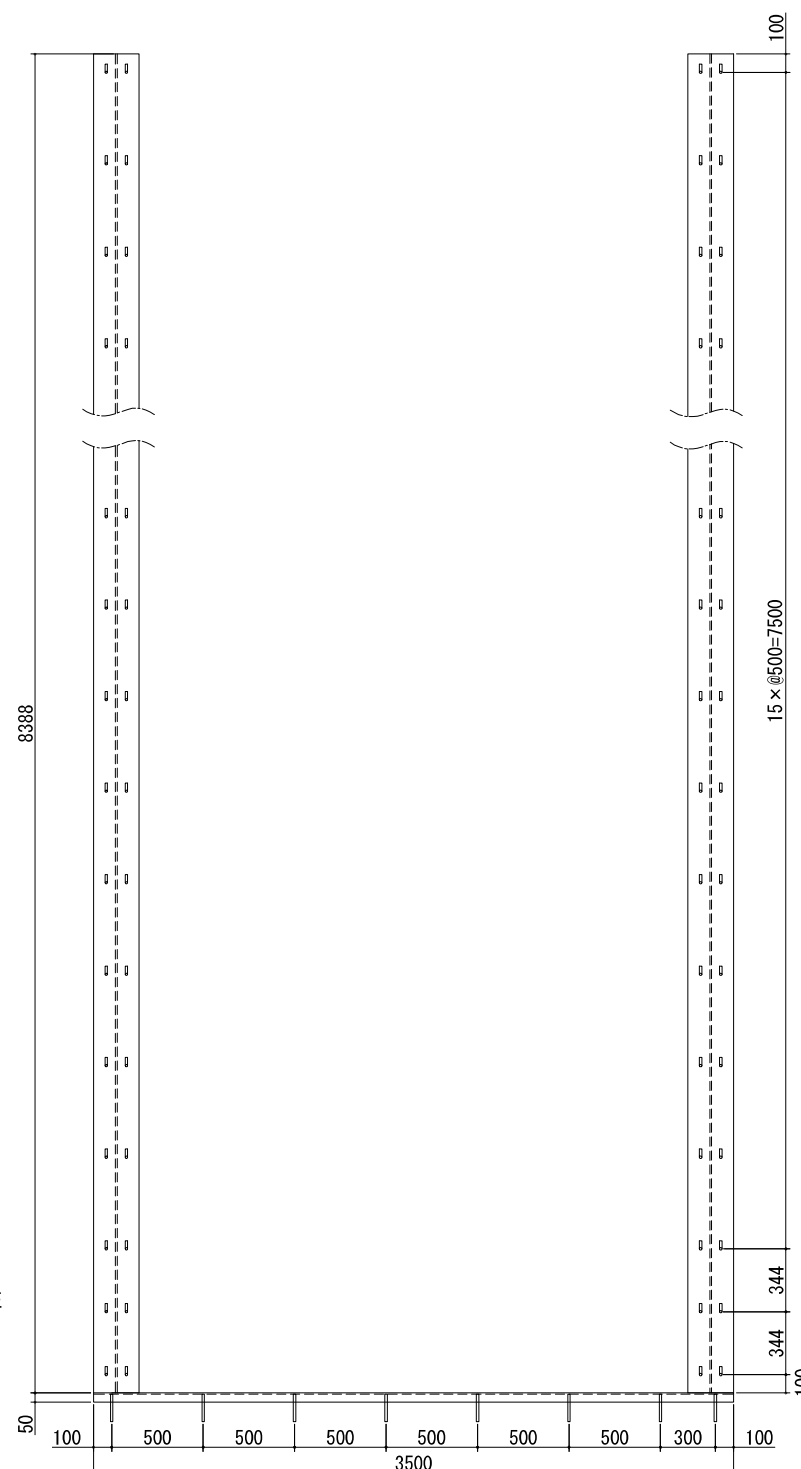
新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 付帯工詳細図(6)				
縮尺	図示	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	D-25
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

調整池流入部

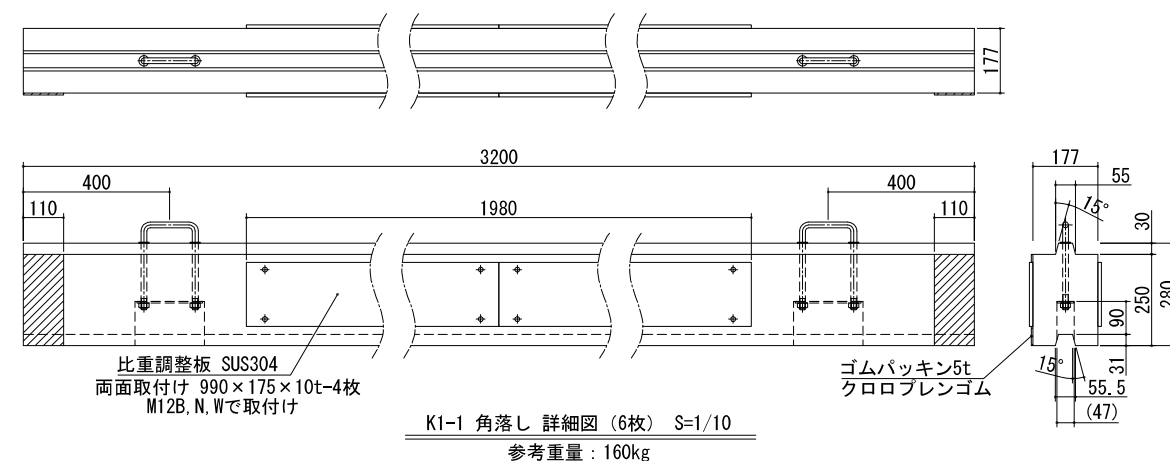
K1 呼称180  
 角落し本体 2箇所  
 受枠 4箇所  
 W3200×H1000×t177



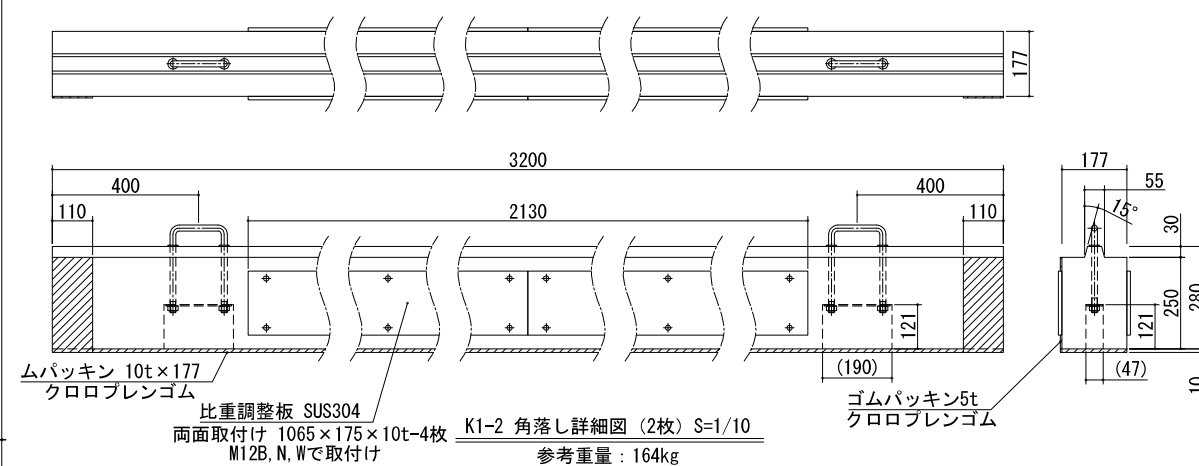
角落し 全体図  
 S=1/20



角 落 し 受 枠 詳 細 図  
 S=1/20



K1-1 角落し 詳細図 (6枚) S=1/10  
参考重量 : 160kg

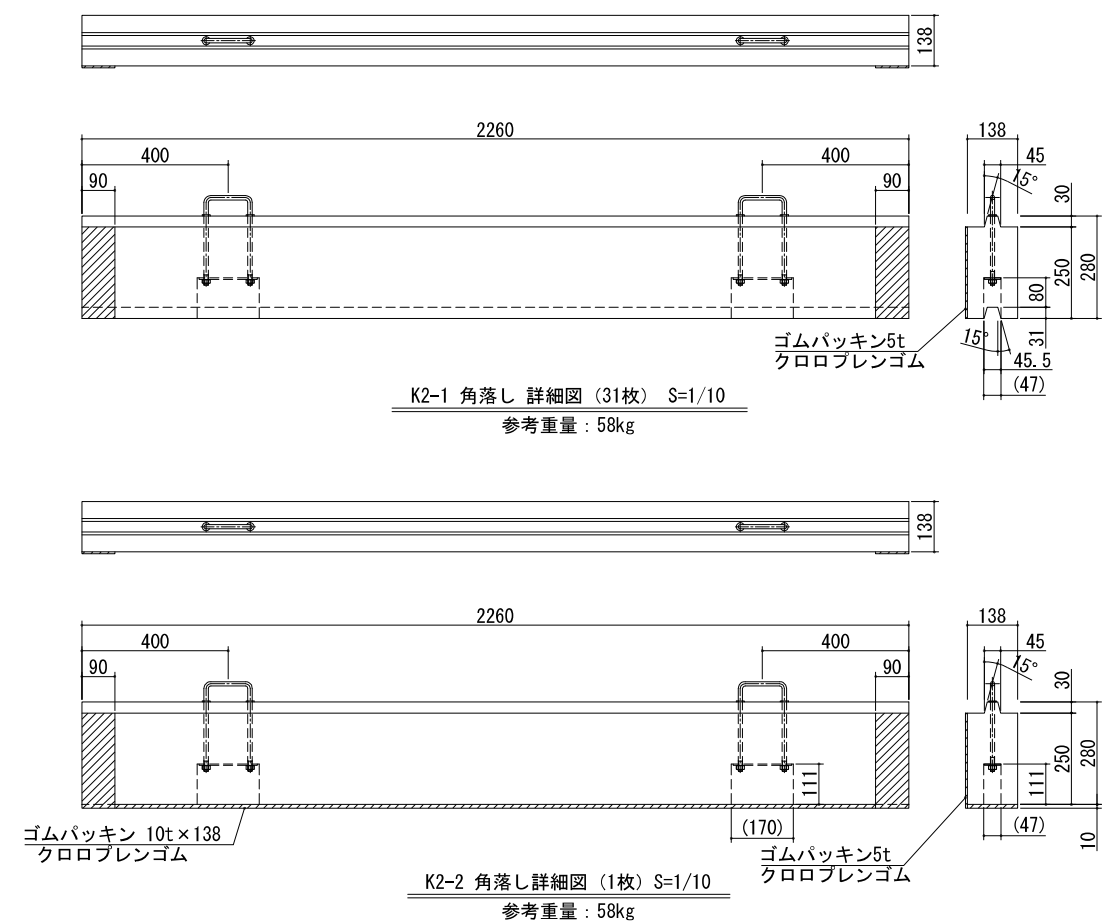
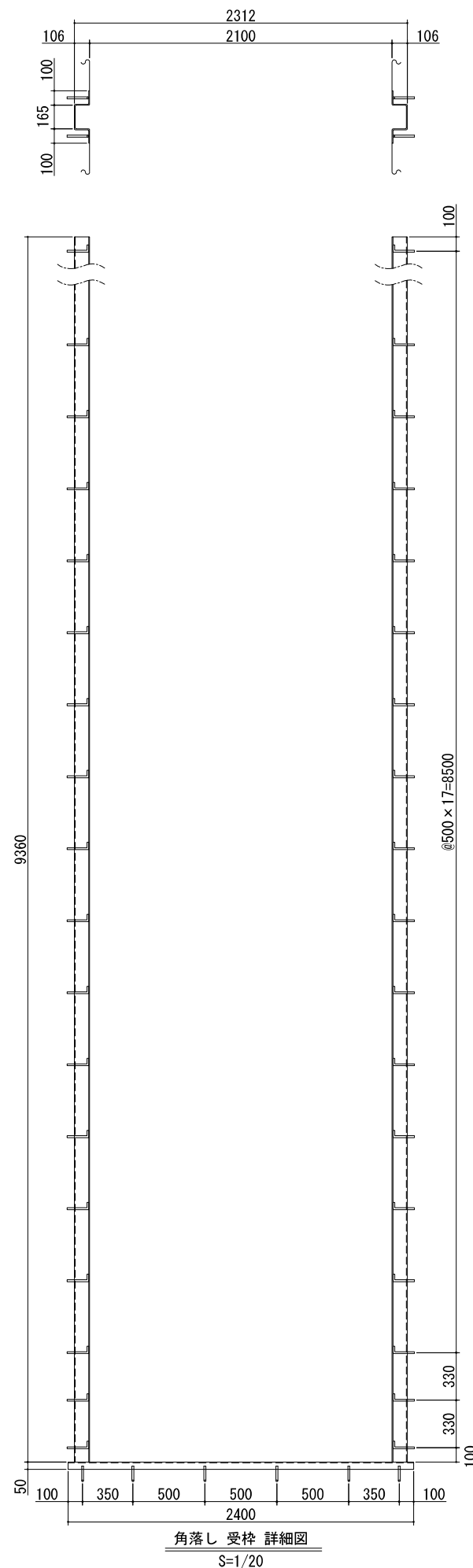
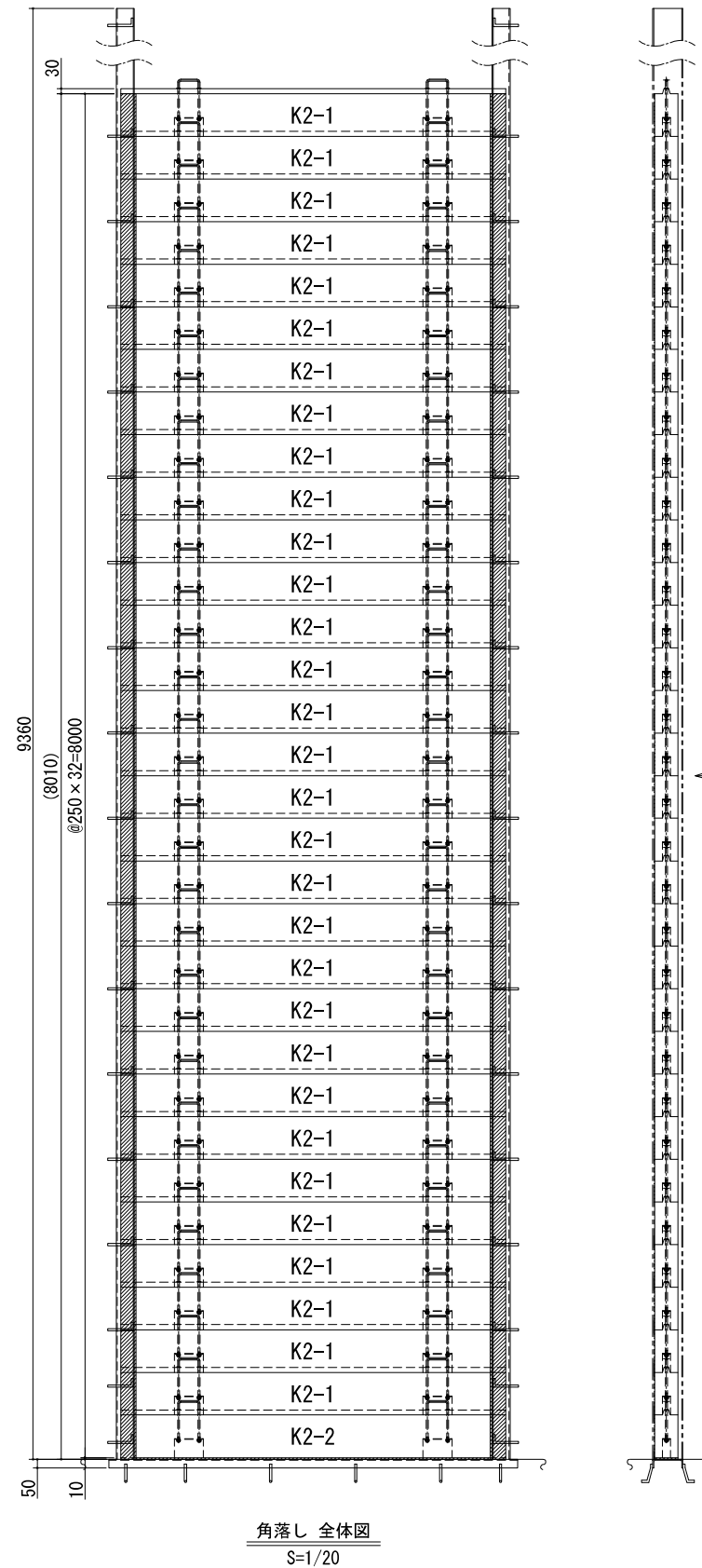
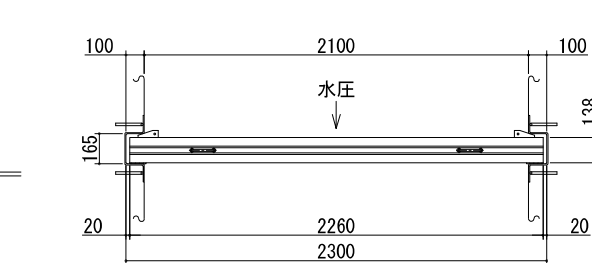


枚 K1-2 角落し詳細図 (2枚) S=1/10  
参考重量 : 164kg

新 潟 市 公 共 下 水 道					
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称		調整池 付帯工詳細図(7) (参考)			
縮 尺		1/10.20	調 整 年月日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-26

新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課

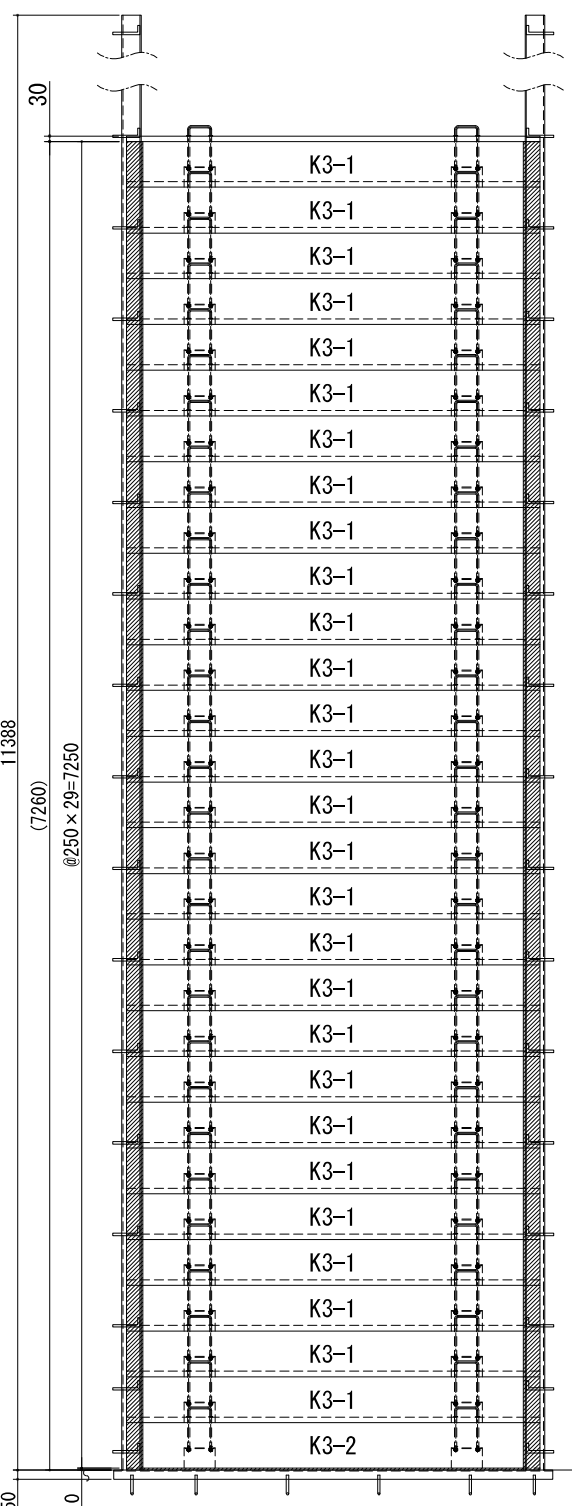
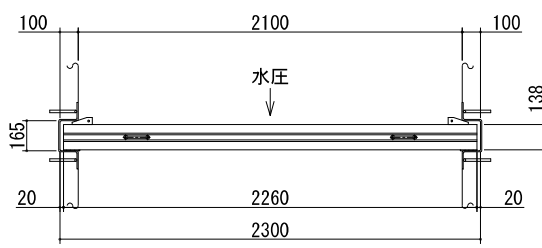
K2 呼称140  
 角落し本体 1箇所  
 受枠 2箇所  
 W2260×H8000×t138



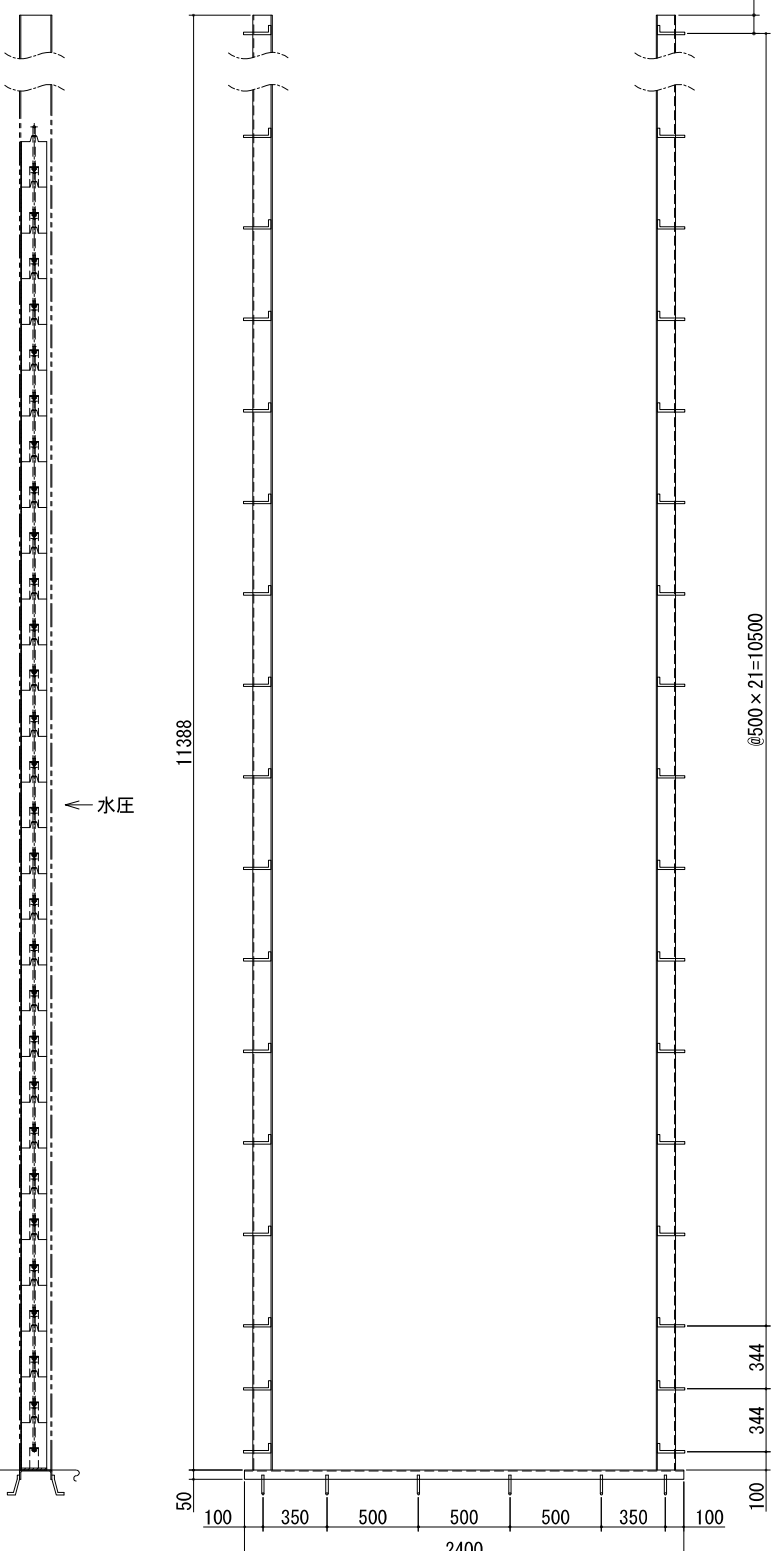
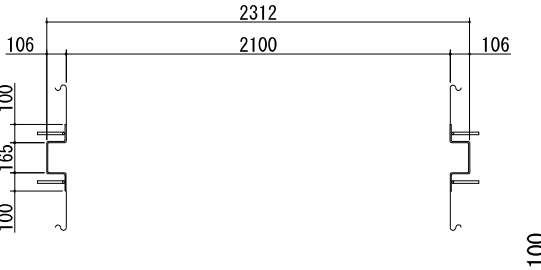
新 潟 市 公 共 下 水 道					
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称		調整池 付帯工詳細図(8) (参考)			
縮 尺		1/10.20	調 整 年 月 日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	D-27
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

流出ゲート

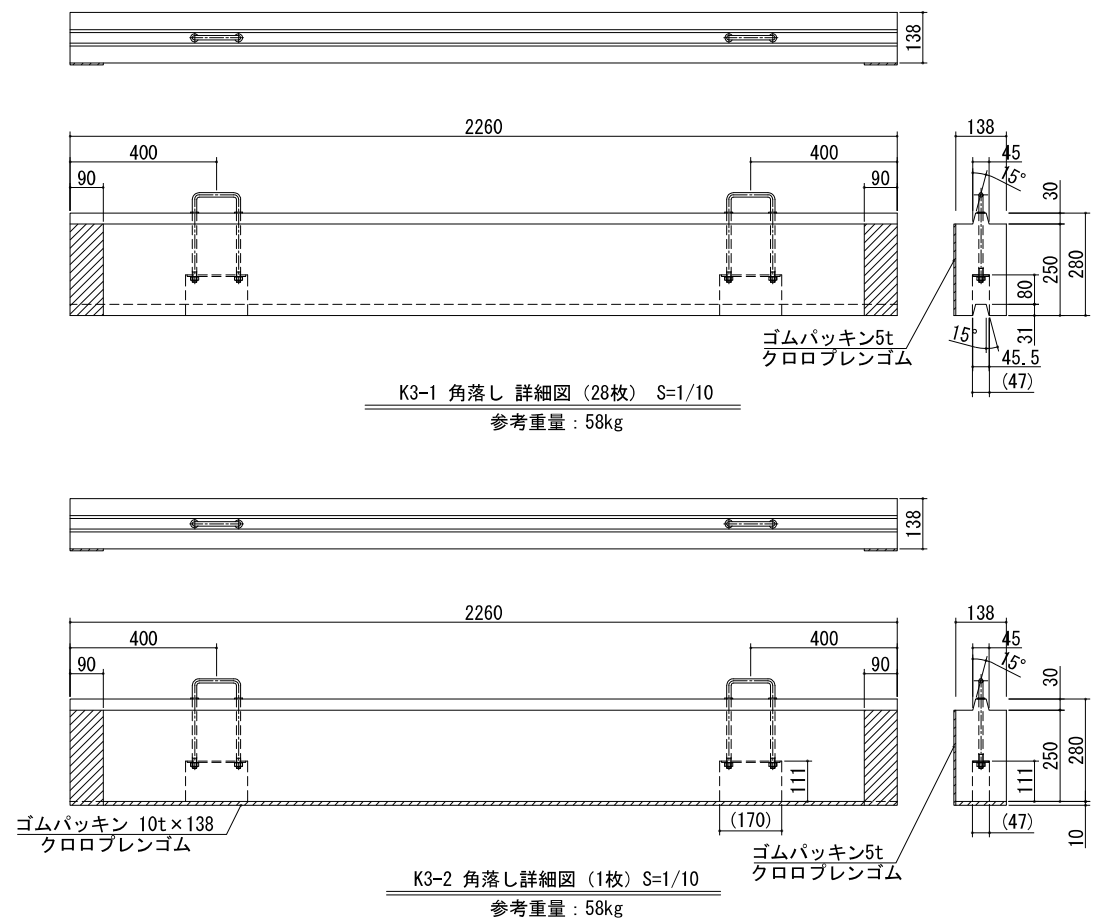
K3 呼称140  
 角落し本体 1箇所  
 受枠 2箇所  
 W2260×H7250×t138



角 落 し 全 体 図  
 S=1/20

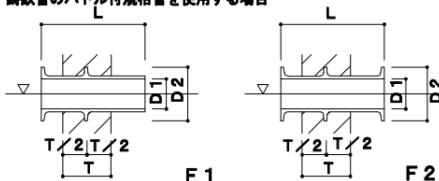
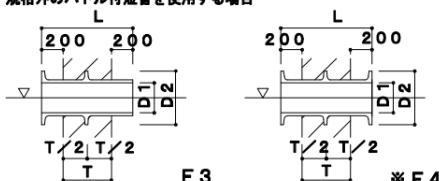
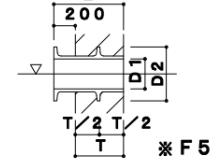
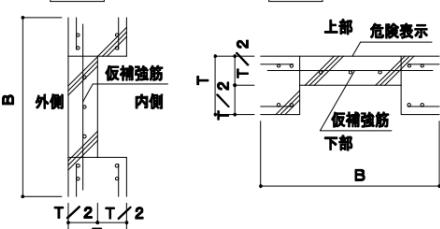
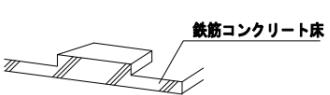
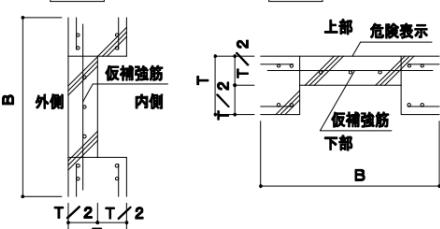
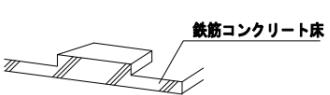
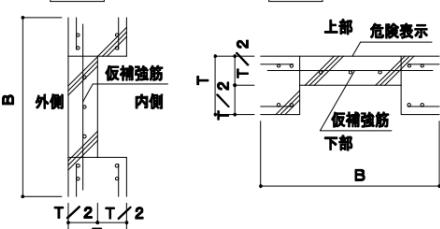
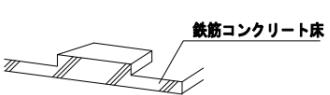


角 落 し 受 枠 詳 細 図  
 S=1/20

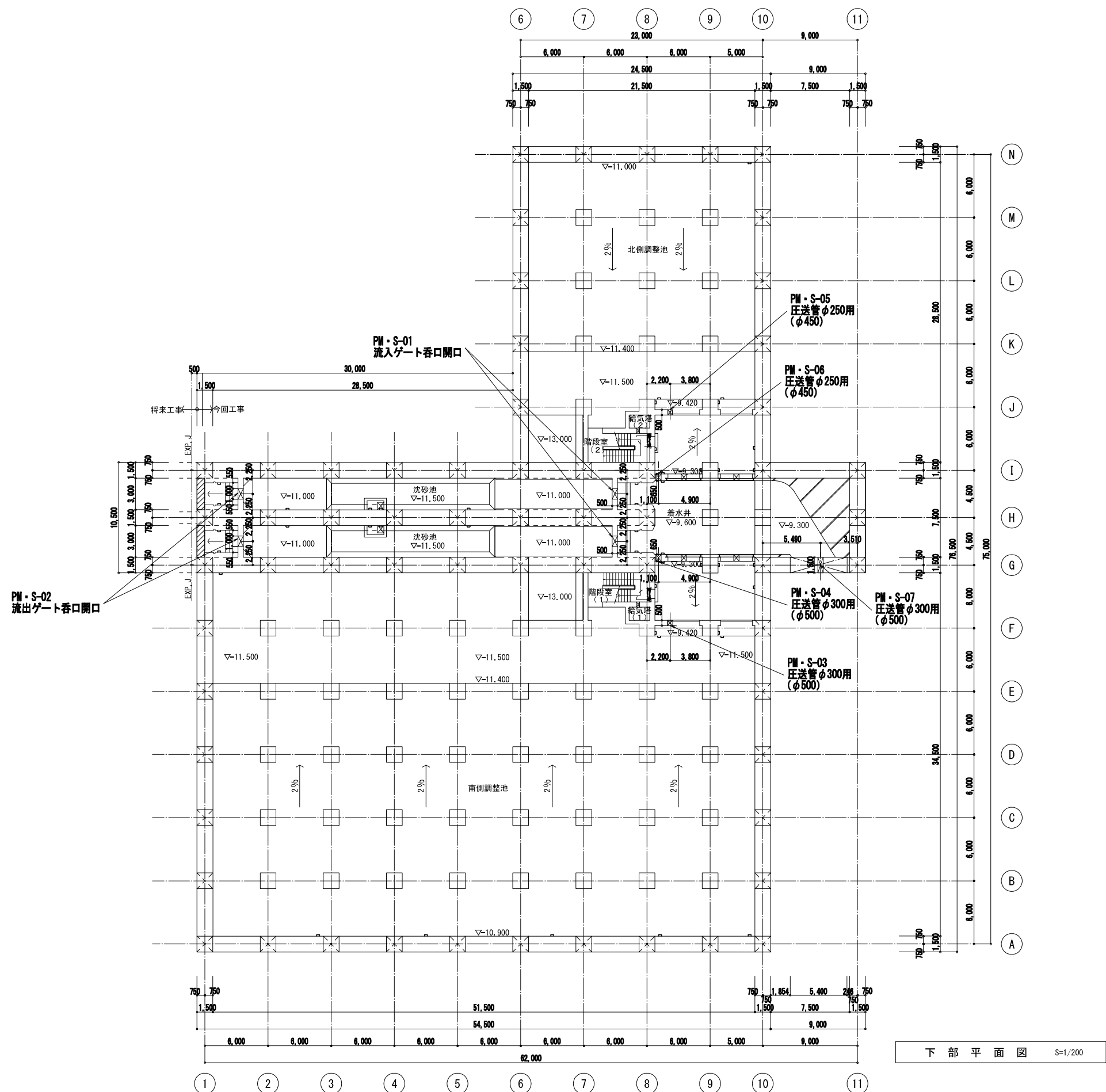


新 潟 市 公 共 下 水 道						
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称		調整池 付帯工詳細図(9) (参考)				
縮 尺		1/10.20	調 整 年 月 日		令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計		図面 番号	D-28
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課						



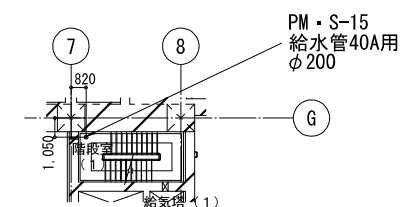
貫通孔、埋込管 及び 機器基礎仕様書																																																																																																																																																																																				
節	項目	特記事項	節	項目	特記事項																																																																																																																																																																															
一般事項	1. 適用基準	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事共通仕様書」平成 31 年版（以下、書という） 別図 各部配筋（以下、別図という）による。	埋込管	3. 2. 埋込管の形式	a) 鋼鉄管のパドル付規格管を使用する場合  F 1                  F 2 b) 規格外のパドル付短管を使用する場合  F 3                  ※ F 4  F 6      F 7 ※ F 5 c) フランジ穴取付け位置は、下表による。 <table border="1"><thead><tr><th></th><th>口 径</th><th>θ</th><th></th><th>ボルトの呼び径</th><th>ボルト本数</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="5">鋼</td><td>φ75～100</td><td>45°</td><td rowspan="5">φ75～200</td><td>M16</td><td>4</td></tr><tr><td>φ150</td><td>30°</td><td></td><td>6</td></tr><tr><td>φ200～250</td><td>22° 5'</td><td>φ250～300 M20</td><td>8</td></tr><tr><td>φ300～350</td><td>18°</td><td>φ350～400 M22</td><td>10</td></tr><tr><td>φ400～500</td><td>15°</td><td>φ450～600 M24</td><td>12</td></tr><tr><td rowspan="5">鉄</td><td>φ600～700</td><td>11° 25'</td><td rowspan="3">φ700～φ1100</td><td>M30</td><td>16</td></tr><tr><td>φ800～900</td><td>9°</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>φ1000～1100</td><td>7° 5'</td><td></td><td>24</td></tr><tr><td>10～65A</td><td>45°</td><td rowspan="2">ステンレス管・鋼管</td><td>10～20A M12</td><td>4</td></tr><tr><td>80～150A</td><td>22° 5'</td><td>25～100A M16</td><td>8</td></tr><tr><td>貫通孔</td><td>2. 次期工事の貫通孔処理</td><td>a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 </td><td>機 器 基 礎</td><td>4. 1. 分類</td><td>a) 基礎の分類は下記による 基礎の分類 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>形状</th></tr></thead><tbody><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></tbody></table>  B 1                  鉄筋コンクリート床  B 2                  無筋コンクリート床等  B 3                  鉄筋コンクリート床  B 4                  防水押えコンクリート</td></tr><tr><td>b) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>※P 1</th><th>P 2</th><th>※P 3</th><th>※P 4</th><th>P 5</th><th>P 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>銅管</td><td>鋼鉄管</td><td>塩ビ管</td><td>亜鉛鉄管</td><td>鋼製電線管（厚鋼）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>P 7</td></tr></tbody></table> 合成樹脂管とう電線管</td></tr><tr><td>1) ステンレス管・・・ JIS G 3459 JIS 10K 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20 ・ C-2 sch 40</td></tr><tr><td>2) 銅 管・・・ JIS G ※ 3452 (SGP) ※3442 (SGPW)</td></tr><tr><td>3) 鋼鉄管・・・ ※ JSWAS G -1 ・JDPAG 1025 1026</td></tr><tr><td>4) 塩ビ管・・・ JIS K 6741 ※ VP ・VU</td></tr><tr><td>5) 亜鉛鉄管・・・ JIS G 3302 ※ 4mm以上 ・6mm以上</td></tr><tr><td>7. 特記事項</td><td>a) ◎印のついたものを適用する。◎印のない場合は※印のあるものを適用する。又、◎印と※印のある場合は共に適用する。</td></tr><tr><td>貫通孔</td><td>2. 1. 材料、材質</td><td>a) 貫通孔に用いる材料は 書 6－8－2 による。 b) 貫通孔の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>S 1</th><th>S 2</th><th>S 3</th><th>S 4</th><th>S 5</th><th>S 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>熔融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木型枠</td></tr></tbody></table></td><td>機 器 基 礎</td><td>5. 1. リスト記入方法</td><td>a) 符号は 1. 一般事項 4. 符号による。 b) 寸 法 1) 貫通孔については、形状寸法を記入する。 （例）400φ 300L×500W 2) 埋込管については、形状寸法を記入する。 （例）400φ × 800L 3) 基礎については、形状寸法及び仕上り面よりの立ち上り高さを記入する。又、B 4 無筋コンクリートを抜く場合は、形状寸法及び無筋コンクリート厚さを記入する。 （例）500W×400L×100H c) 材料－形式は一印の前に材料を指示し、後に形式を指示する。 （例）S1－ P1－FI －B1 d) 床・壁の区分 1) 壁部分は壁に○印を、床部分の場合は床に○印を記入する。 e) 位置の表示は、下記による。 1) 壁部分の位置・・・平面は、最寄り通り芯よりの寸法を記入し高さは、基準面（※TP ・YP ・AP）より高さ表示とする。 （例）②→① 800 ○→○ +8, 500 2) 床部分の位置表示は、最寄り通り芯よりの寸法を記入する。 （例）A →B 2, 400 ③→② 800 3) 位置の表示は、それぞれの施工芯表示とする。 f) 備考欄には配管系統等を記入する。</td></tr><tr><td>3. 1. 材料、材質</td><td>a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>※P 1</th><th>P 2</th><th>※P 3</th><th>※P 4</th><th>P 5</th><th>P 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>銅管</td><td>鋼鉄管</td><td>塩ビ管</td><td>亜鉛鉄管</td><td>鋼製電線管（厚鋼）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>P 7</td></tr></tbody></table> 合成樹脂管とう電線管 b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・ JIS G 3459 JIS 10K 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20 ・ C-2 sch 40 2) 銅 管・・・ JIS G ※ 3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋼鉄管・・・ ※ JSWAS G -1 ・JDPAG 1025 1026 4) 塩ビ管・・・ JIS K 6741 ※ VP ・VU 5) 亜鉛鉄管・・・ JIS G 3302 ※ 4mm以上 ・6mm以上 c) 使用する材質が重複する場合は、リストの備考欄に明記の事。</td></tr><tr><td colspan="6">新潟市公共下水道</td></tr><tr><td colspan="2">業 務 名</td><td colspan="4">松浜雨水ポンプ場調整池工事</td></tr><tr><td colspan="2">図面名称</td><td colspan="4">前処理棟・調整槽 箱抜き仕様書</td></tr><tr><td colspan="2">縮 尺</td><td>—</td><td>調 整 年月日</td><td colspan="2">令和3年 月 日</td></tr><tr><td>課長</td><td>補佐</td><td>係長</td><td>設計</td><td>図面番号</td><td>H-1</td></tr><tr><td colspan="6">新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課</td></tr></tbody></table>		口 径	θ		ボルトの呼び径	ボルト本数	鋼	φ75～100	45°	φ75～200	M16	4	φ150	30°		6	φ200～250	22° 5'	φ250～300 M20	8	φ300～350	18°	φ350～400 M22	10	φ400～500	15°	φ450～600 M24	12	鉄	φ600～700	11° 25'	φ700～φ1100	M30	16	φ800～900	9°		20	φ1000～1100	7° 5'		24	10～65A	45°	ステンレス管・鋼管	10～20A M12	4	80～150A	22° 5'	25～100A M16	8	貫通孔	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 	機 器 基 礎	4. 1. 分類	a) 基礎の分類は下記による 基礎の分類 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>形状</th></tr></thead><tbody><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></tbody></table>  B 1                  鉄筋コンクリート床  B 2                  無筋コンクリート床等  B 3                  鉄筋コンクリート床  B 4                  防水押えコンクリート	記号	形状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合	b) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>※P 1</th><th>P 2</th><th>※P 3</th><th>※P 4</th><th>P 5</th><th>P 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>銅管</td><td>鋼鉄管</td><td>塩ビ管</td><td>亜鉛鉄管</td><td>鋼製電線管（厚鋼）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>P 7</td></tr></tbody></table> 合成樹脂管とう電線管	記号	※P 1	P 2	※P 3	※P 4	P 5	P 6	材料	ステンレス管	銅管	鋼鉄管	塩ビ管	亜鉛鉄管	鋼製電線管（厚鋼）							P 7	1) ステンレス管・・・ JIS G 3459 JIS 10K 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20 ・ C-2 sch 40	2) 銅 管・・・ JIS G ※ 3452 (SGP) ※3442 (SGPW)	3) 鋼鉄管・・・ ※ JSWAS G -1 ・JDPAG 1025 1026	4) 塩ビ管・・・ JIS K 6741 ※ VP ・VU	5) 亜鉛鉄管・・・ JIS G 3302 ※ 4mm以上 ・6mm以上	7. 特記事項	a) ◎印のついたものを適用する。◎印のない場合は※印のあるものを適用する。又、◎印と※印のある場合は共に適用する。	貫通孔	2. 1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は 書 6－8－2 による。 b) 貫通孔の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>S 1</th><th>S 2</th><th>S 3</th><th>S 4</th><th>S 5</th><th>S 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>熔融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木型枠</td></tr></tbody></table>	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	熔融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木型枠	機 器 基 礎	5. 1. リスト記入方法	a) 符号は 1. 一般事項 4. 符号による。 b) 寸 法 1) 貫通孔については、形状寸法を記入する。 （例）400φ 300L×500W 2) 埋込管については、形状寸法を記入する。 （例）400φ × 800L 3) 基礎については、形状寸法及び仕上り面よりの立ち上り高さを記入する。又、B 4 無筋コンクリートを抜く場合は、形状寸法及び無筋コンクリート厚さを記入する。 （例）500W×400L×100H c) 材料－形式は一印の前に材料を指示し、後に形式を指示する。 （例）S1－ P1－FI －B1 d) 床・壁の区分 1) 壁部分は壁に○印を、床部分の場合は床に○印を記入する。 e) 位置の表示は、下記による。 1) 壁部分の位置・・・平面は、最寄り通り芯よりの寸法を記入し高さは、基準面（※TP ・YP ・AP）より高さ表示とする。 （例）②→① 800 ○→○ +8, 500 2) 床部分の位置表示は、最寄り通り芯よりの寸法を記入する。 （例）A →B 2, 400 ③→② 800 3) 位置の表示は、それぞれの施工芯表示とする。 f) 備考欄には配管系統等を記入する。	3. 1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>※P 1</th><th>P 2</th><th>※P 3</th><th>※P 4</th><th>P 5</th><th>P 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>銅管</td><td>鋼鉄管</td><td>塩ビ管</td><td>亜鉛鉄管</td><td>鋼製電線管（厚鋼）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>P 7</td></tr></tbody></table> 合成樹脂管とう電線管 b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・ JIS G 3459 JIS 10K 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20 ・ C-2 sch 40 2) 銅 管・・・ JIS G ※ 3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋼鉄管・・・ ※ JSWAS G -1 ・JDPAG 1025 1026 4) 塩ビ管・・・ JIS K 6741 ※ VP ・VU 5) 亜鉛鉄管・・・ JIS G 3302 ※ 4mm以上 ・6mm以上 c) 使用する材質が重複する場合は、リストの備考欄に明記の事。	記号	※P 1	P 2	※P 3	※P 4	P 5	P 6	材料	ステンレス管	銅管	鋼鉄管	塩ビ管	亜鉛鉄管	鋼製電線管（厚鋼）							P 7	新潟市公共下水道						業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				図面名称		前処理棟・調整槽 箱抜き仕様書				縮 尺		—	調 整 年月日	令和3年 月 日		課長	補佐	係長	設計	図面番号	H-1	新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					
	口 径	θ		ボルトの呼び径	ボルト本数																																																																																																																																																																															
鋼	φ75～100	45°	φ75～200	M16	4																																																																																																																																																																															
	φ150	30°			6																																																																																																																																																																															
	φ200～250	22° 5'		φ250～300 M20	8																																																																																																																																																																															
	φ300～350	18°		φ350～400 M22	10																																																																																																																																																																															
	φ400～500	15°		φ450～600 M24	12																																																																																																																																																																															
鉄	φ600～700	11° 25'	φ700～φ1100	M30	16																																																																																																																																																																															
	φ800～900	9°			20																																																																																																																																																																															
	φ1000～1100	7° 5'			24																																																																																																																																																																															
	10～65A	45°	ステンレス管・鋼管	10～20A M12	4																																																																																																																																																																															
	80～150A	22° 5'		25～100A M16	8																																																																																																																																																																															
貫通孔	2. 次期工事の貫通孔処理	a) 次期発注の外壁・床版貫通孔及び仮補強筋は、下記による。 	機 器 基 礎	4. 1. 分類	a) 基礎の分類は下記による 基礎の分類 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>形状</th></tr></thead><tbody><tr><td>B 1</td><td>鉄筋コンクリート立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 2</td><td>無筋コンクリート部分等の基礎</td></tr><tr><td>B 3</td><td>防水層部分の立ち上り基礎</td></tr><tr><td>B 4</td><td>土木・建築で差し筋のみを施す場合</td></tr></tbody></table>  B 1                  鉄筋コンクリート床  B 2                  無筋コンクリート床等  B 3                  鉄筋コンクリート床  B 4                  防水押えコンクリート	記号	形状	B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎	B 2	無筋コンクリート部分等の基礎	B 3	防水層部分の立ち上り基礎	B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																																																																																																																																																					
記号	形状																																																																																																																																																																																			
B 1	鉄筋コンクリート立ち上り基礎																																																																																																																																																																																			
B 2	無筋コンクリート部分等の基礎																																																																																																																																																																																			
B 3	防水層部分の立ち上り基礎																																																																																																																																																																																			
B 4	土木・建築で差し筋のみを施す場合																																																																																																																																																																																			
b) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>※P 1</th><th>P 2</th><th>※P 3</th><th>※P 4</th><th>P 5</th><th>P 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>銅管</td><td>鋼鉄管</td><td>塩ビ管</td><td>亜鉛鉄管</td><td>鋼製電線管（厚鋼）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>P 7</td></tr></tbody></table> 合成樹脂管とう電線管	記号	※P 1	P 2	※P 3	※P 4	P 5	P 6	材料	ステンレス管	銅管	鋼鉄管	塩ビ管	亜鉛鉄管	鋼製電線管（厚鋼）							P 7																																																																																																																																																															
記号	※P 1	P 2	※P 3	※P 4	P 5	P 6																																																																																																																																																																														
材料	ステンレス管	銅管	鋼鉄管	塩ビ管	亜鉛鉄管	鋼製電線管（厚鋼）																																																																																																																																																																														
						P 7																																																																																																																																																																														
1) ステンレス管・・・ JIS G 3459 JIS 10K 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20 ・ C-2 sch 40																																																																																																																																																																																				
2) 銅 管・・・ JIS G ※ 3452 (SGP) ※3442 (SGPW)																																																																																																																																																																																				
3) 鋼鉄管・・・ ※ JSWAS G -1 ・JDPAG 1025 1026																																																																																																																																																																																				
4) 塩ビ管・・・ JIS K 6741 ※ VP ・VU																																																																																																																																																																																				
5) 亜鉛鉄管・・・ JIS G 3302 ※ 4mm以上 ・6mm以上																																																																																																																																																																																				
7. 特記事項	a) ◎印のついたものを適用する。◎印のない場合は※印のあるものを適用する。又、◎印と※印のある場合は共に適用する。																																																																																																																																																																																			
貫通孔	2. 1. 材料、材質	a) 貫通孔に用いる材料は 書 6－8－2 による。 b) 貫通孔の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>S 1</th><th>S 2</th><th>S 3</th><th>S 4</th><th>S 5</th><th>S 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>鋼管</td><td>硬質塩ビ管</td><td>熔融亜鉛めっき鋼板</td><td>つば付鋼板</td><td>紙チューブ</td><td>木型枠</td></tr></tbody></table>	記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	材料	鋼管	硬質塩ビ管	熔融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木型枠	機 器 基 礎	5. 1. リスト記入方法	a) 符号は 1. 一般事項 4. 符号による。 b) 寸 法 1) 貫通孔については、形状寸法を記入する。 （例）400φ 300L×500W 2) 埋込管については、形状寸法を記入する。 （例）400φ × 800L 3) 基礎については、形状寸法及び仕上り面よりの立ち上り高さを記入する。又、B 4 無筋コンクリートを抜く場合は、形状寸法及び無筋コンクリート厚さを記入する。 （例）500W×400L×100H c) 材料－形式は一印の前に材料を指示し、後に形式を指示する。 （例）S1－ P1－FI －B1 d) 床・壁の区分 1) 壁部分は壁に○印を、床部分の場合は床に○印を記入する。 e) 位置の表示は、下記による。 1) 壁部分の位置・・・平面は、最寄り通り芯よりの寸法を記入し高さは、基準面（※TP ・YP ・AP）より高さ表示とする。 （例）②→① 800 ○→○ +8, 500 2) 床部分の位置表示は、最寄り通り芯よりの寸法を記入する。 （例）A →B 2, 400 ③→② 800 3) 位置の表示は、それぞれの施工芯表示とする。 f) 備考欄には配管系統等を記入する。																																																																																																																																																																	
記号	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6																																																																																																																																																																														
材料	鋼管	硬質塩ビ管	熔融亜鉛めっき鋼板	つば付鋼板	紙チューブ	木型枠																																																																																																																																																																														
3. 1. 材料、材質	a) 埋込管に用いる材料は、下記のものとする。 埋込管の材料 <table border="1"><thead><tr><th>記号</th><th>※P 1</th><th>P 2</th><th>※P 3</th><th>※P 4</th><th>P 5</th><th>P 6</th></tr></thead><tbody><tr><td>材料</td><td>ステンレス管</td><td>銅管</td><td>鋼鉄管</td><td>塩ビ管</td><td>亜鉛鉄管</td><td>鋼製電線管（厚鋼）</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>P 7</td></tr></tbody></table> 合成樹脂管とう電線管 b) 埋込管の材質については、下記による。 1) ステンレス管・・・ JIS G 3459 JIS 10K 鋼管差し込み溶接フランジ規格 ※ C-1 sch 20 ・ C-2 sch 40 2) 銅 管・・・ JIS G ※ 3452 (SGP) ※3442 (SGPW) 3) 鋼鉄管・・・ ※ JSWAS G -1 ・JDPAG 1025 1026 4) 塩ビ管・・・ JIS K 6741 ※ VP ・VU 5) 亜鉛鉄管・・・ JIS G 3302 ※ 4mm以上 ・6mm以上 c) 使用する材質が重複する場合は、リストの備考欄に明記の事。	記号	※P 1	P 2	※P 3	※P 4	P 5	P 6	材料	ステンレス管	銅管	鋼鉄管	塩ビ管	亜鉛鉄管	鋼製電線管（厚鋼）							P 7																																																																																																																																																														
記号	※P 1	P 2	※P 3	※P 4	P 5	P 6																																																																																																																																																																														
材料	ステンレス管	銅管	鋼鉄管	塩ビ管	亜鉛鉄管	鋼製電線管（厚鋼）																																																																																																																																																																														
						P 7																																																																																																																																																																														
新潟市公共下水道																																																																																																																																																																																				
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事																																																																																																																																																																																		
図面名称		前処理棟・調整槽 箱抜き仕様書																																																																																																																																																																																		
縮 尺		—	調 整 年月日	令和3年 月 日																																																																																																																																																																																
課長	補佐	係長	設計	図面番号	H-1																																																																																																																																																																															
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課																																																																																																																																																																																				

貫通孔、埋込管 及び 機器基礎リスト																	
符 号	形 状 寸 法	壁	床	用 途	材料-形式	位 置		備 考	符 号	形 状 寸 法	壁	床	用 途	材料-形式	位 置		備 考
調整槽・前処理棟																	
PM・S-01	1000W × 3000H	○	・	流入ゲート呑口開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	CL-8.100 × 2	AM・S-201	750 × 750	・	○	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	
PM・S-02	1000W × 3000H	○	・	流出ゲート呑口開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	CL-9.500 × 2	AM・S-202	750 × 750	・	○	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	
PM・S-03	φ500 × 500L	○	・	圧送管φ300用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-4.000	AM・S-203	1350 × 500	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-04	φ500 × 650L	○	・	圧送管φ300用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-4.000	AM・S-204	1350 × 500	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-05	φ450 × 500L	○	・	圧送管φ250用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-4.000	AM・S-205	450 × 350	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-06	φ450 × 650L	○	・	圧送管φ250用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-4.000	AM・S-206	450 × 350	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-07	φ500 × 1500L	○	・	圧送管φ300用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2.750	AM・S-207	500 × 450	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-08	φ200 × 220L	○	・	給水管40A用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-0.300	AM・S-208	500 × 450	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-09	φ200 × 230L	○	・	給水管40A用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP+1.600 × 2	AM・S-209	450 × 350	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
									AM・S-210	1350 × 500	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-11	1000W×2100L×1500H	・	○	流入ゲート開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	1階 (▽-0.400) × 2	AM・S-211	300 × 250	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-12	2500W×2800L×1200H	・	○	自動除塵機開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	1階 (▽-0.400) × 2	AM・S-212	300 × 250	○	・	換気ダクト	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	COP-2FL+2.950
PM・S-13	1000W×2100L×2200H	・	○	流出ゲート開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	GL (▽+0.600) × 2									
PM・S-14	2500W×2500L×1800H	・	○	し道スキップホイストピット	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	1階 (▽+0.900)									
PM・S-15	φ200 × 280H	・	○	給水管40A用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	地下1階中間部 (▽-3.167)	AE・S-101	φ50 × 180 L	・	○	配線	S5 ー	Ⓔ → Ⓕ 2900	○ → ○	1FL +2460
PM・S-16	φ200 × 280H	・	○	給水管40A用	S5 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	地下1階中間部 (▽-7.134)	AE・S-201	200 × 100	○	・	配線	S6 ー	Ⓔ → Ⓕ 1525	⑦ → ⑥ 1100	
									AE・S-202	200 × 100	・	○	配線	S5 ー	○ → ○	⑦ → ⑥ 600	2FL +3000
PM・S-21	2000W×2000L×1000H	・	○	し道スキップホイスト開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	2階 (▽+6.200)	AE・S-203	φ50 × 180 L	・	○	配線	S5 ー	Ⓔ → Ⓕ 1550	○ → ○	2FL +3000
PM・S-22	2700W×2700L×700H	・	○	し道ホッパ開口	S6 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	2階 (▽+6.400)	AE・S-204	φ50 × 180 L	・	○	配線	S5 ー	○ → ○	⑦ → ⑥ 1800	2FL +3000
PM・B-11	1900W×400L×500H	・	○	プラント用水受水槽基礎	B4 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	× 3									
PM・B-12	520W×780L×100H	・	○	給水ユニット基礎	B4 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による										
PM・B-21	2400W×700L×300H	・	○	し道スキップホイスト基礎	B4 ー	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による										
PE・S-1	φ350	・	○	流入渠水位	S5	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	地表面まで立上げ									
PE・S-2	φ350	・	○	ポンプピット水位	S5	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による										
PE・S-3	φ350	・	○	ポンプピット水位	S5	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による										
PE・S-4	500W × 400H	○	・	配線用	S6	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による										
PE・S-5	600W × 300H	○	・	配線用	S6	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	マンホール内									
PE・S-6	φ150	○	・	沈砂池水位	S5	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	搬入口側面									
PE・S-7	φ150	○	・	沈砂池水位	S5	○ー○ 図示による	○ー○ 図示による	搬入口側面									



下部平面図 S=1/200

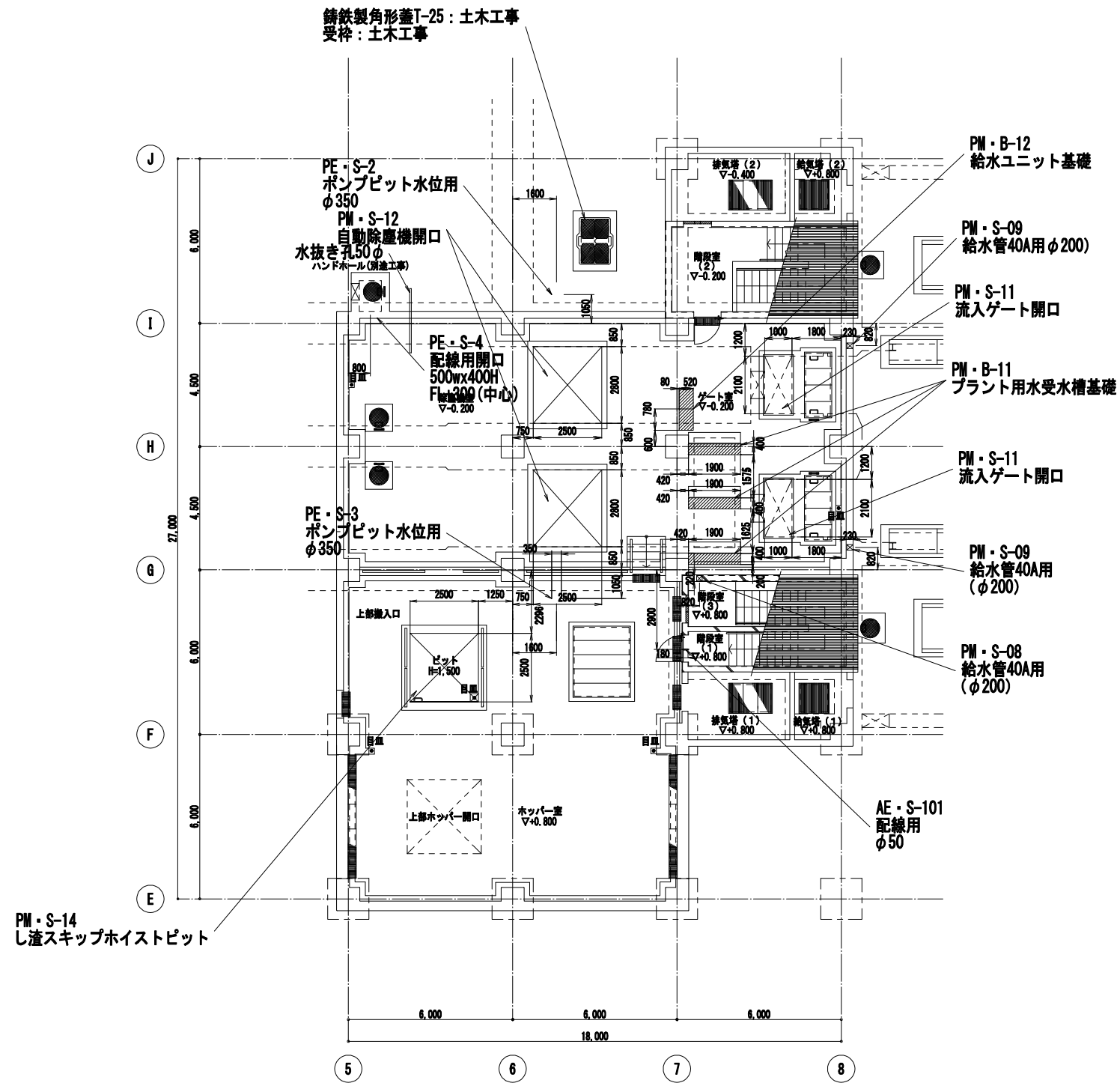
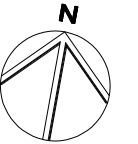
新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池 下部平面 箱抜図				
縮尺	1/200	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	H-3
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



階段部詳細図 (▽-3.617) S=1/200

上部平面图 S=1/200

新 潟 市 公 共 下 水 道									
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事							
図面名称		調整池 上部平面 箱抜図							
縮 尺		1/200		調 整 年 月 日		令和3年 月 日			
課長	補佐	係長	設計	図面 番号	H-4				
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課									

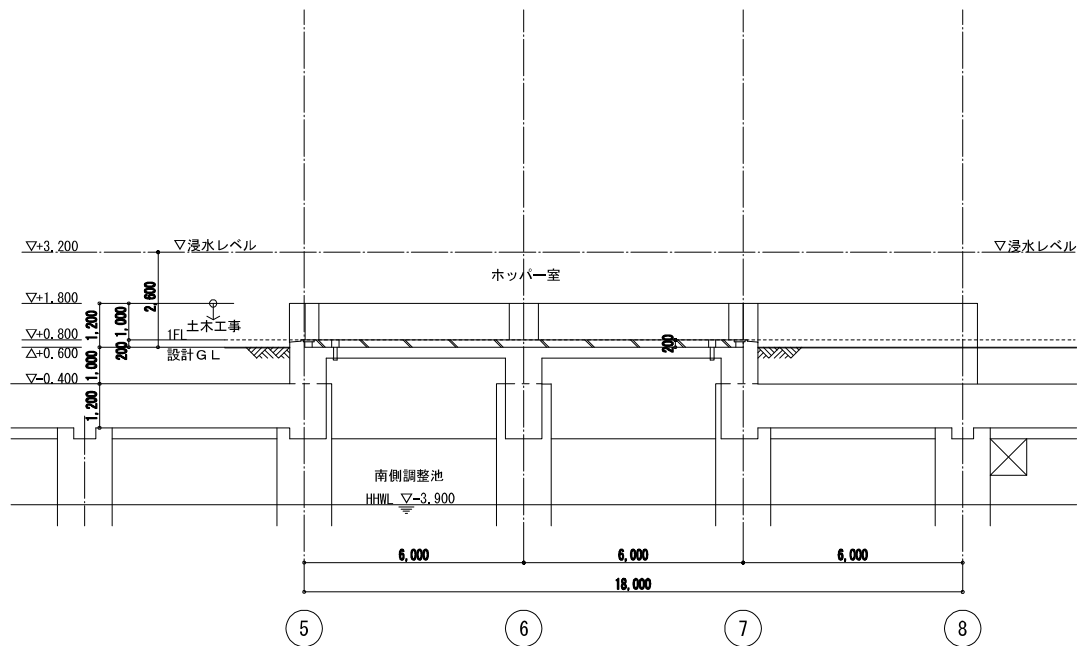


1 階 平 面 図 S=1/100

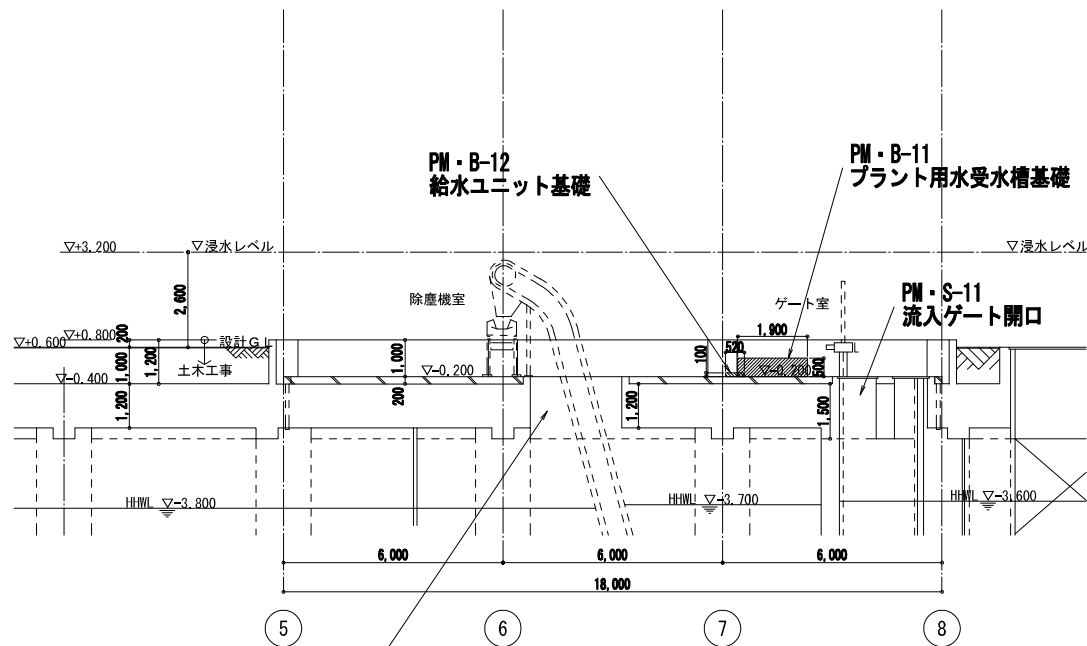
凡例  
■■■■ 機械基礎を示す

新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	前処理線 1階平面 縮放図				
縮尺	1/100	調 整 年 月 日	令和3年 月 日		
原 長	補 注	係 長	設 計	図 面 番 号	H-5
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

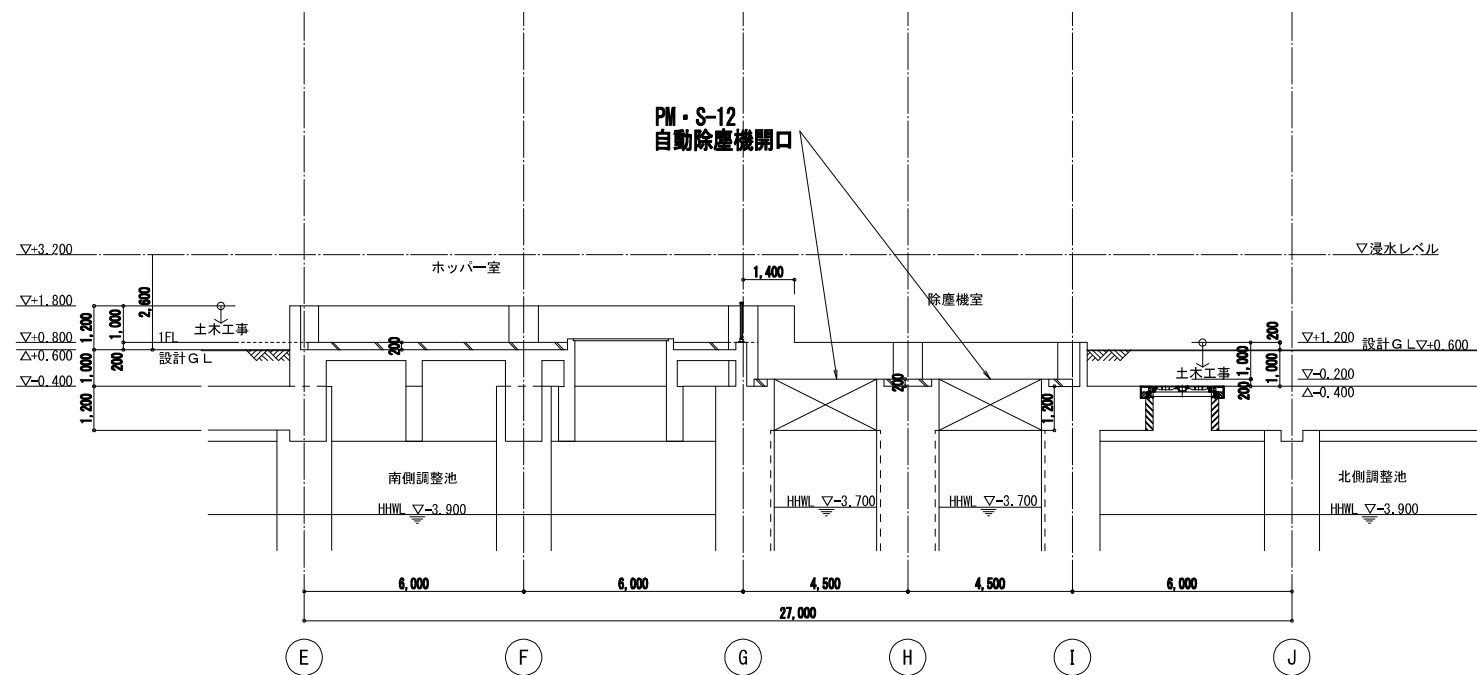
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



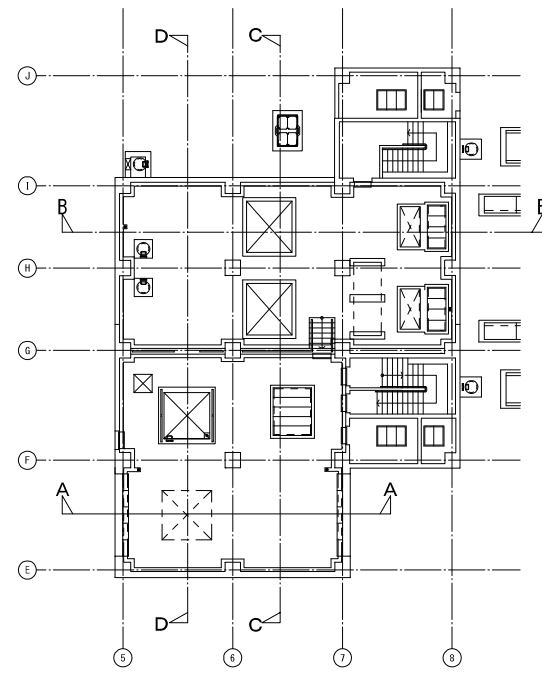
A-A 断面図 S=1/100



B-B 断面図 S=1/100



C-C 断面図 S=1/100

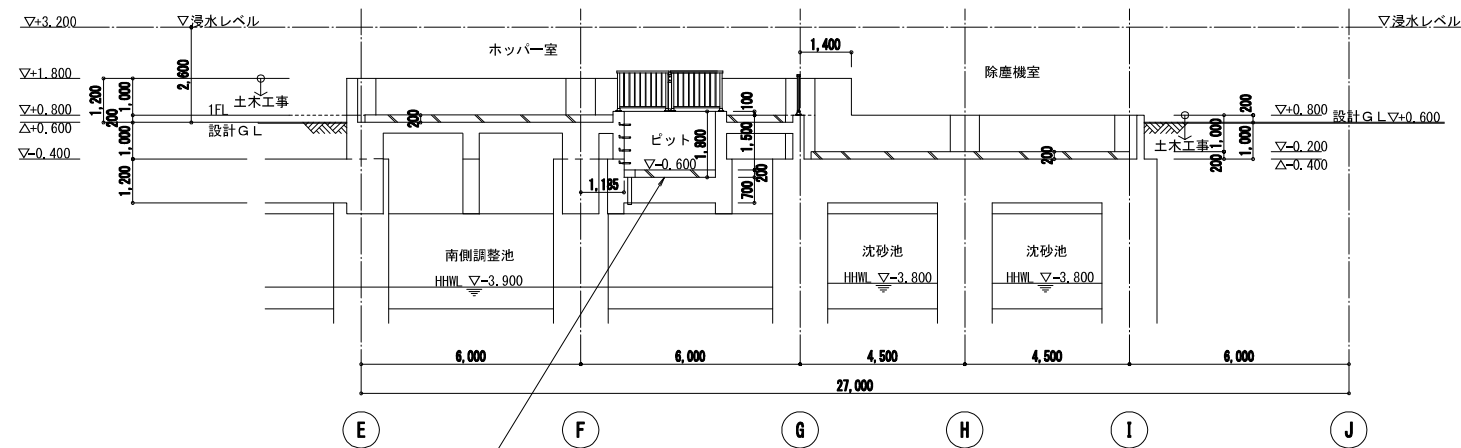


KEY PLAN

【凡例】  
HHWL : 雨水調整池満水時  
HWL (11) : 時間最大雨水量 (11.007m<sup>3</sup>/s 49.90mm/h 降雨)  
HWL (4) : ポンプ能力 (4.00m<sup>3</sup>/s 18.13mm/h 降雨)

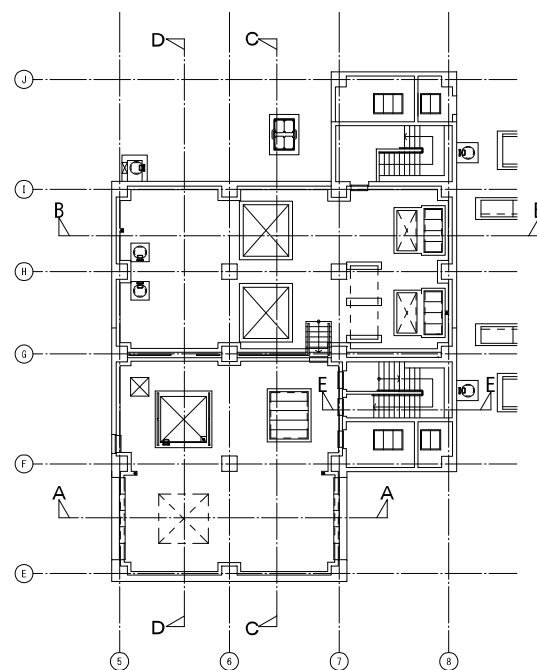
新潟市公共下水道					
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	前処理棟 箱抜断面図(1)				
縮尺	1/100	調整年月日	令和3年 月 日		
課長	補佐	係長	設計	図面番号	H-6
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。

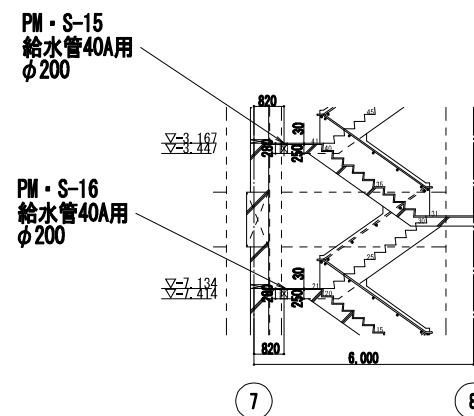


PM・S-14  
し渣スキップホイスストピット

D-D 断面图 S=1/100



KEYPLAN



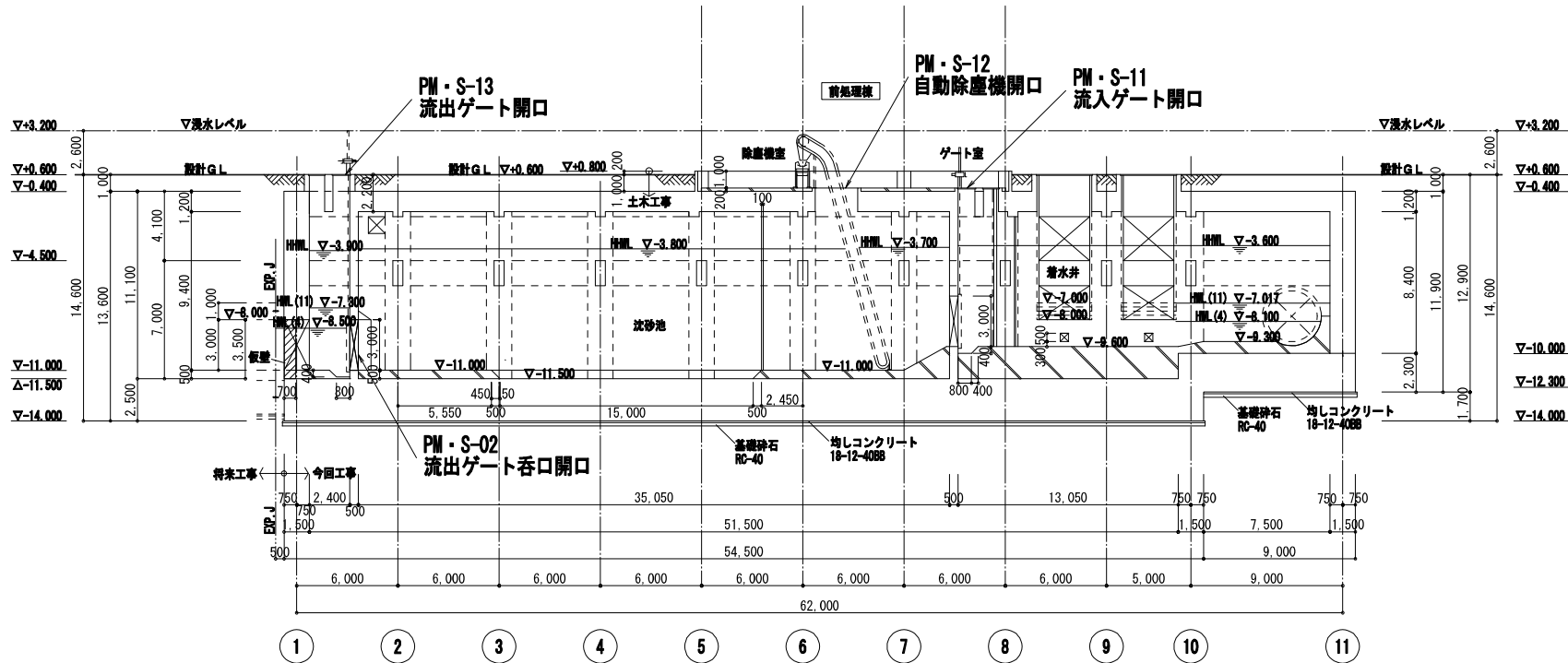
E-E 断面图 S=1/100

**【凡例】**

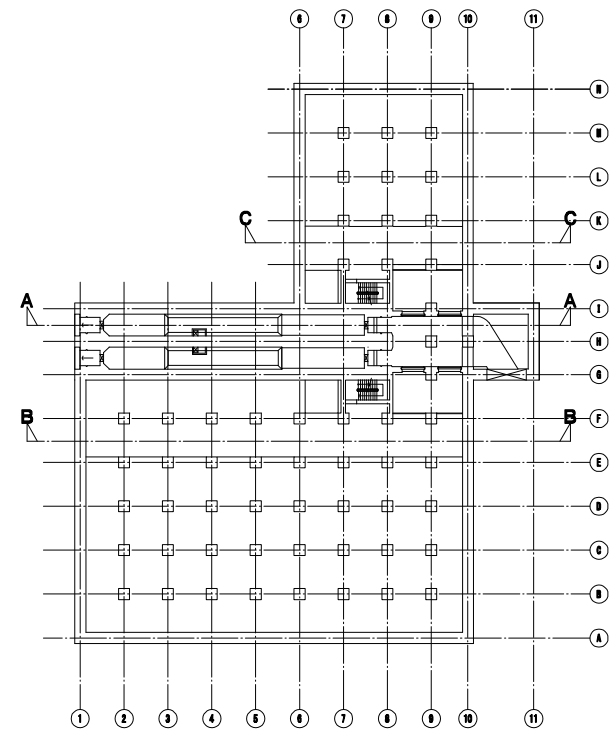
HHL : 雨水調整池満水時  
HHL(11) : 時間最大雨水量 (11.007m<sup>3</sup>/s 49.90mm/h 降雨)  
HHL(4) : ポンプ能力 (4.00m<sup>3</sup>/s 18.13mm/h 降雨)

新 潟 市 公 共 下 水 道				
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事		
図面名称		前処理棟 構造断面図(2)		
縮 尺		1/100	調 整 年月日	令和3年 月 日
課長	補佐	係長	設計	図面 番号
				H-7
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

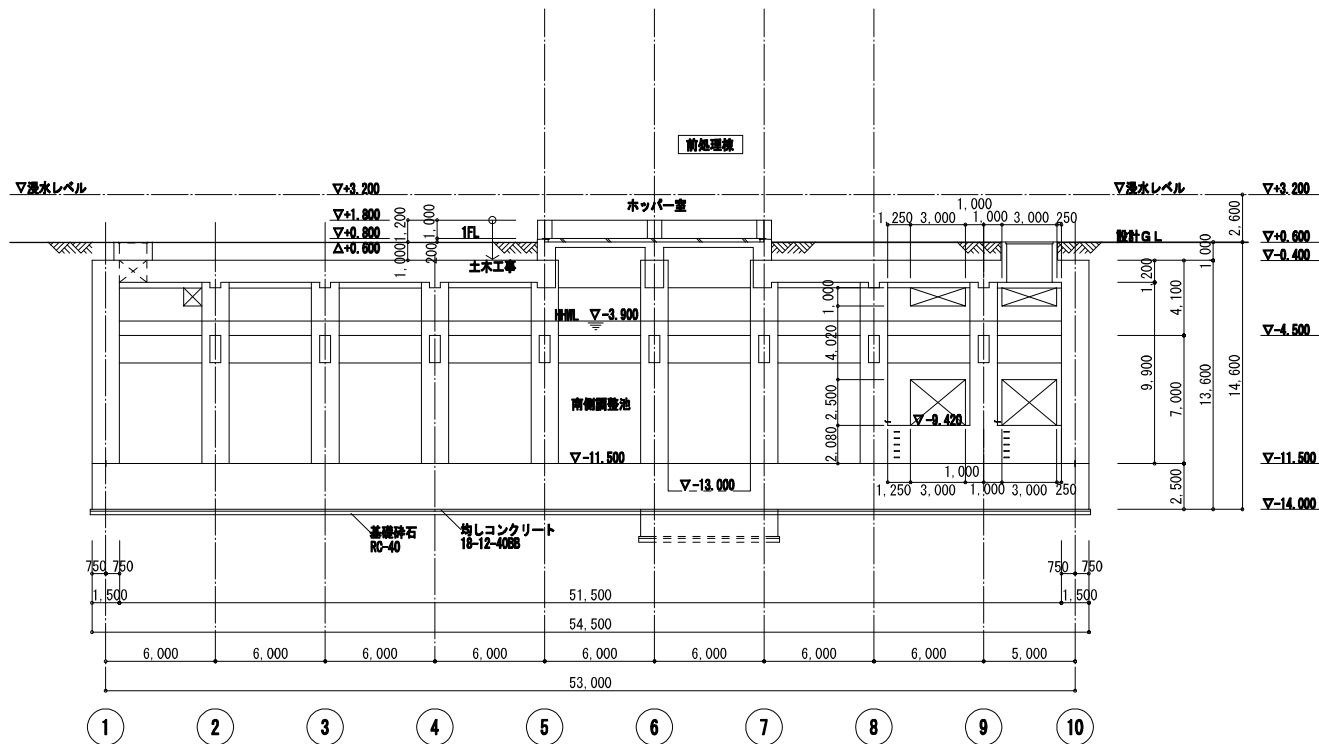
※浸水レベルは、「新潟市洪水・土砂災害ハザードマップ（平成30年3月作成）」による、敷地内の最大水深から決定した。



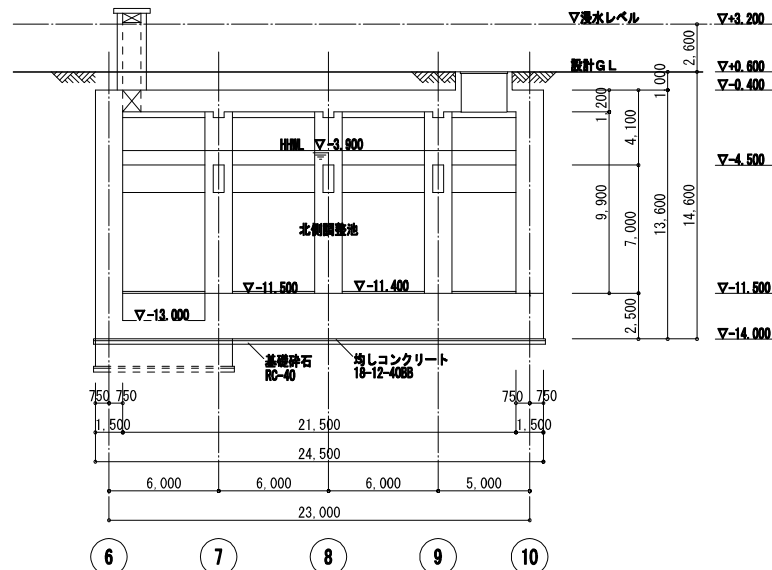
A-A 断面図 S=1/200



KEYPLAN



B-B 断面図 S=1/200



C-C 断面図 S=1/200

【凡例】	
HHL	雨水調整池満水時
HHL(11)	時間最大雨水量 (11.007m <sup>3</sup> /s 49.90mm/h 降雨)
HHL(4)	ポンプ能力 (4.00m <sup>3</sup> /s 18.13mm/h 降雨)

新潟市公共下水道				
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	前処理棟 箱状断面図(3)			
縮尺	1/200	調査年月日	令和3年 月 日	
原図	補注	係長	設計	図面番号 H-8
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

構造細目共通図（複合構造物）

＜平成30年版＞

※ 本図面は（一社）全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。  
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。  
特許右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1. 1 適用範囲

- （１）本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。  
（２）土木工事と建築工事の区分は図面による。  
（３）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工事	1) 土木工事特記仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	（別紙による。）
	2) 土木工事共通仕様書	新潟市	（令和3年4月）
	3) コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	（2017年版）
	4) コンクリート標準示方書・設計編	土木学会	（2017年版）
建築工事	1) 建築工事特記仕様書		（別紙による。）
	2) 建築工事一般仕様書		（平成27年版）
	3) 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）	国土交通省大臣官庁官庁営繕部	（平成28年版）

- （４）項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。

1. 2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1. 2. 1表による。

1. 2. 1表 鉄筋の種類及び継手

	種別	径	
		土木	建築
鉄筋の種類	SD295		※D16以下
	※SD345 ・SD390 ・SD490	※D13以上	
	SD345		※D19以上
	重ね継手	下記以外	
鉄筋の継手	ガス圧接	※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設床の床、壁鉄筋	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	・図面による。	

1. 3 コンクリートの仕様

コンクリートは1. 3. 1表による。

1. 3. 1表 コンクリートの仕様

分類		コンクリート種別	設計基準強度(N/㎠)	スラブ(㎠)	セメントの種類
土木	鉄筋コンクリート	※普通コンクリート	※24 ・30	※12	※高炉セメントB ○普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント
		※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
建築	鉄筋コンクリート	地上	・	・	・
		地下 基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※24	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
土木	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント
		※普通コンクリート	※18	※15	・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB

注1：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

1. 4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1. 4. 1表による。

1. 4. 1表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部位	種別	厚さ(㎠)
土木工事	砂利または砕石	※200
	均しコンクリート	※100
建築工事	砂利または砕石	※60
	捨てコンクリート	※50

2 共通事項

2. 1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1. 1表及び2. 1. 2表を標準とする。

2. 1. 1表 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	○	●	○	○	○	×	○
土木									

●又は建築による。

2. 1. 2表 一般凡例

記号 符	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※番号
※1G※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3- - - Y方向A, B, C- - -
CG※	片持大梁断面種別	※番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階級壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚(㎠)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(㎠) ※3 配筋種別（英大文字） 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別（数字） 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※壁厚(㎠)
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に 応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/㎡)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、床版

（用語の定義）

- ・床版とは、常時荷重及び地震時荷重を負担する主部材をいう。壁式構造のボックスカルバートやラーメン構造の頂版や底版がある。  
・スラブとは、常時荷重のみを負担する梁に支持される副部材をいう。

2. 2 一般注意事項

- （１）設計図は監督職員の承認を得なければ変更してはならない。  
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。




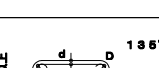
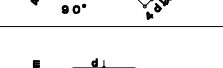

3 土木工事

3. 1 鉄筋の折曲げ加工



鉄筋の折曲げ加工は、3. 1. 1表及び3. 1. 2表を標準とする。

- （１）Dは、折曲げ内法直径を示す。  
（２）dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

3. 1. 1表 鉄筋曲げ加工（１）

位置	曲げ 角度	折曲げ図及び 折曲げ後の余長	曲げ内法 直径	使用箇所
定端・末端部	180°	 4d以上かつ60mm以上	5d以上	定端・末端部
	135°	 6d以上かつ60mm以上	5d以上	スターラップ、 帯鉄筋、 フープ筋 等
	90°	 12d以上	5d以上	
	90° 135°	 4d以上	5d以上	梁 壁 床版 底版
中間部	90°	 100mm 直交方向に90°	5d以上	
	90° θ<90°	 D D	5d以上 10d以上	あばら筋、帯筋 スパイラル筋 折曲げ鉄筋

3. 1. 2表 鉄筋曲げ加工（２）

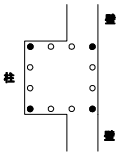
位置	曲げ 角度	折曲げ図	曲げ内法 直径	使用箇所
最上階	90°	 D	20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°	 D	5d以上	

3. 2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3. 2. 1表によりフックを設ける。

3. 2. 1表 フックを設ける位置

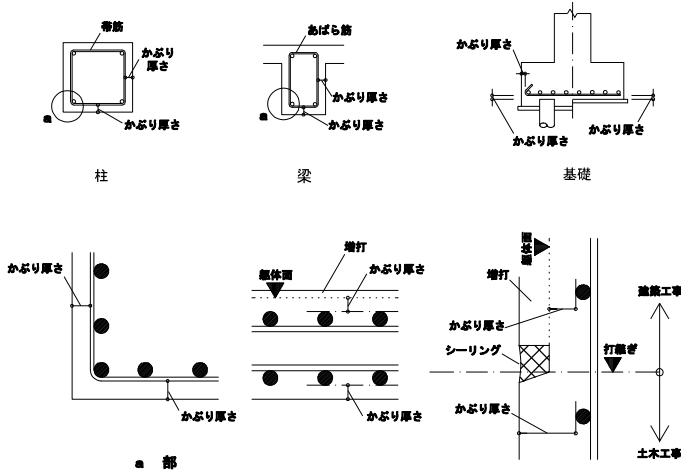
部 位	継手方式		備 考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	—	1) 最上階の柱頭 3.2.1 図参照 3.8.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	—	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部 3.2.1 図参照 3.8.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 3.9.1 図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 3.12.1 図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部 3.25.1 図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋	—	—	3.1.1 表参照



3. 2. 1図 異形鉄筋の末端部

3. 3 鉄筋のかぶり及び間隔

3. 3. 1 かぶり厚さ  
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋を除く）の外面から躯体面までの距離（3. 3. 1図）をいう。  
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



3. 3. 1図 鉄筋のかぶり厚さ

3. 3. 2 最小かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、3. 3. 1表による。  
床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

3. 3. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(㎠)

※ 通常の施工の場合

環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
大気中		50	50	—
水中・土中等		50	70	70

・ 塩害対策地域の施工の場合

対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
○	Ⅰ	大気中	70	70	—
		水中・土中等			70
・	Ⅱ、Ⅲ	大気中	50	70	—
		水中・土中等			70

- 1：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。  
2：杭基礎の底版・フーチング下増設のかぶり厚さは、7. 杭基礎の増強を参照する。

〔注〕梁：大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

新潟市公共下水道			
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事		
図面名称	構造細目共通図（複合構造物）（1）		
縮尺	—	調整年月日	令和3年 月 日
課長	補佐	係長	設計
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課		図面番号	S-1

3 土木工事

3. 4 鉄筋相互のあき

3. 4. 1 梁・壁・床版

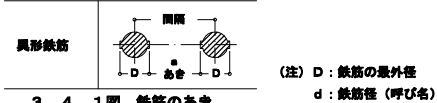
鉄筋相互のあきは、下記(1)、(2)、(3)の最大値以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の4/3倍  
(2) 最小のあき25mm  
(3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍

3. 4. 2 柱

鉄筋相互のあきは、下記(1)、(2)、(3)の最大値以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の4/3倍  
(2) 最小のあき40mm  
(3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍



3. 4. 1 図 鉄筋のあき

3. 4. 1 表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径 (mm)		鉄筋相互のあき：a			最小鉄筋芯間隔	
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×4/3倍	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	(梁) a+D	(柱) a+D
D13	14	33mm  粗骨材 最大径 25mm の場合	梁：25mm 柱：40mm	20mm	47mm	54mm
D16	18			24mm	51mm	58mm
D19	21			29mm	54mm	61mm
D22	25			33mm	58mm	65mm
D25	28			38mm	66mm	68mm
D29	33			44mm	77mm	77mm

3. 5 鉄筋の継手及び定着

3. 5. 1 継手長及び定着長の基本

- (1) 鉄筋の重ね継手長さは3. 5. 1表、定着の長さは3. 5. 2表による。  
① 本表の適用は、鉄筋種類SD345、鉄筋径D13～D32とする。  
② 定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。  
③ 壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途図示による。

3. 5. 1 表 鉄筋の重ね継手長さ

鉄筋の 種 類	鉄筋径	設計基準強度	S1：重ね継手長			
			鉄筋中心間隔200mm以上	100mm以上200mm未満		
SD345	D16以下	24以上 27未満 (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし	フックあり	フックなし	フックあり
	D19～D22		40・d	30・d	50・d	40・d
	D25～D32		45・d	35・d	60・d	50・d
	D35～D38		50・d	40・d	65・d	55・d
	D35～D38	30(N/mm <sup>2</sup> )	50・d	40・d	55・d	45・d

3. 5. 2 表 鉄筋の定着長さ

鉄筋の 種 類	鉄筋径	設計基準強度	S2：定着長		S3：定着長		S4：定着長	
			フックなし	フックあり	フックなし	フックあり	フックなし	フックあり
SD 345	D16 以下	24以上 27未満 (N/mm2)	40・d	30・d	35・d	25・d	35・d	25・d
	D19～ D22		50・d	40・d	40・d	30・d	35・d	25・d
	D25～ D32		60・d	50・d	45・d	35・d	35・d	25・d
	D35～ D38		60・d	50・d	45・d	35・d	35・d	25・d
	D35～ D38		30 (N/mm2)	50・d	40・d	40・d	30・d	30・d

- (2) S2, S3, S4の適用区分を以下に記す。

S2：(最上層)大梁上端、基礎梁上端、床版(壁構造)、床版上端(ラーメン構造)、底版。

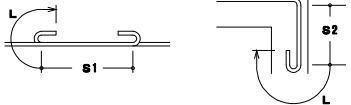
S3：柱、壁、(中間層)大梁上端、大梁下端、床版下端(ラーメン構造)、基礎梁下端。

S4：小梁、スラブ(地震力を受けない部材)。

- (3) 径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。

- (4) 継手は相互にずらすことを原則とする。

- (5) フックのある場合の継手長及び定着長には、3. 5. 1図に示すようにフック部分Lを含まない。

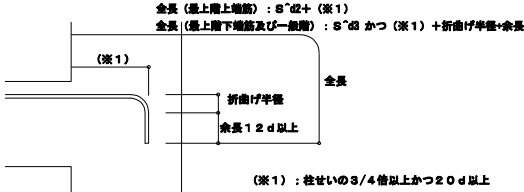


3. 5. 1 図 フックのある場合の継手及び定着要領

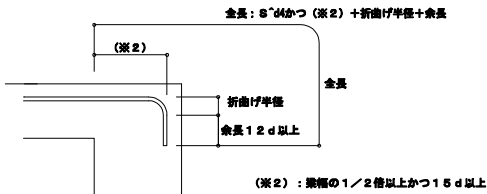
3. 5. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は極力応力の小さい位置に設ける。  
(2) 異なる径の鉄筋をガス圧接する場合、鉄筋径の差が5mmを超える圧接をしてはならない。

3. 5. 3 梁主筋の柱内定着



3. 5. 2 図 梁主筋の柱内定着要領

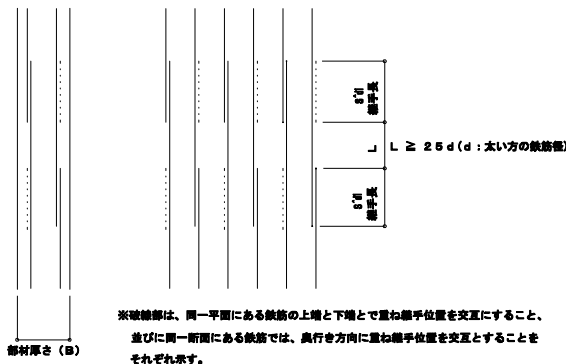


3. 5. 3 図 小梁及びスラブ上端筋の梁内折曲げ定着要領

3. 6 隣り合う継手の位置

3. 6. 1 鉄筋の重ね継手

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。  
(2) ずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。  
(3) 前記(2)を確保できない場合等は、監督職員の承認を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。  
(4) 継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。

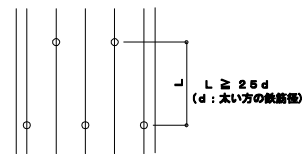


3. 6. 1 図 重ね継手工法

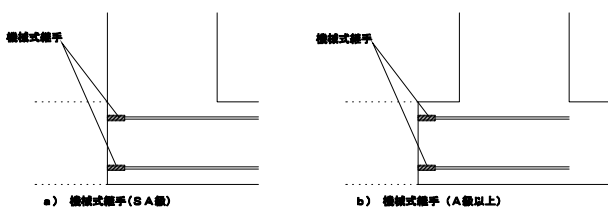
3. 6. 2 鉄筋のガス圧接および機械式継手

鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」(土木学会)による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承認を得ること。

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。  
(2) ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の2.5倍以上とする。  
(3) 機械式継手の場合のずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。  
(4) 機械式継手をイモ継ぎ部を使用する場合は、継手性能はS A級かつ継手信頼度をI Ⅰとする。なお、3.6.3図 b)に示すように、隅角端部から継手位置まで必要な離間を確保した場合はA級を選定することができる。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」(土木学会)による。



3. 6. 2 図 ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

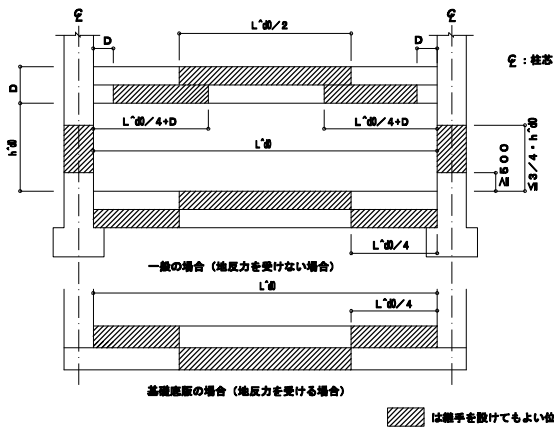


3. 6. 3 図 機械式継手におけるイモ継ぎ位置

3. 7 継手及び圧接中心位置(柱、大梁)

継手及び圧接中心位置は図面がない場合は、3. 7. 1図による。

- (1) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から50cm以上、150cm以下かつ3/4 h^d0 (h^d0は柱の内法高さ) 以下とする。  
(2) 梁の継手及び圧接中心位置は下記による。  
上端筋 中央：L^d0/2 以内  
下端筋 両端：柱面より裏せ(D) 以上離し、L^d0/4を加えた範囲以内  
(3) 通常の応力と異なる場合の継手位置は、3. 7. 1図によらず図面による。

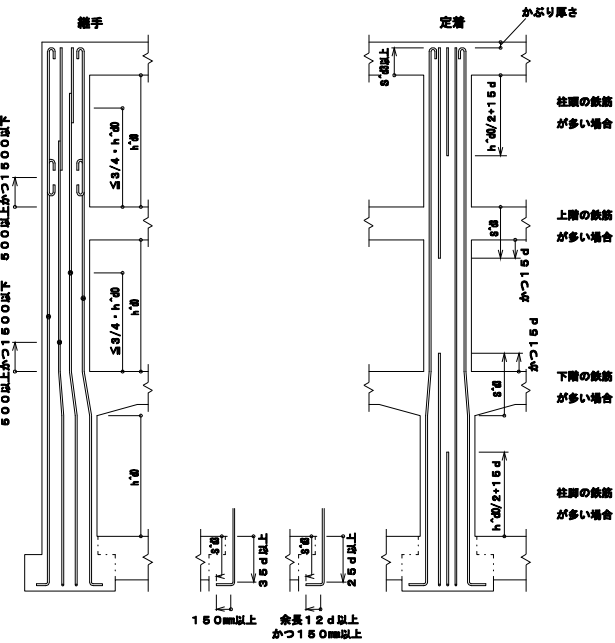


3. 7. 1 図 継手及び圧接中心位置

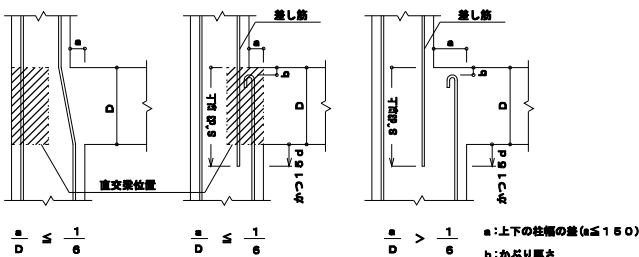
3. 8 柱筋の継手及び定着

3. 8. 1 一般事項

- (1) 継手長さはS^d1とし、定着及び余長は、3. 8. 1図による。  
(2) 柱頭定着長さS^d3が確保出来ない場合は、図面による。  
(3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、3. 8. 2図による。  
(4) 柱頭定着長さ25d(余長12d以上)または35dが確保出来ない場合は、図面による。



3. 8. 1 図 柱主筋の継手、定着及び余長

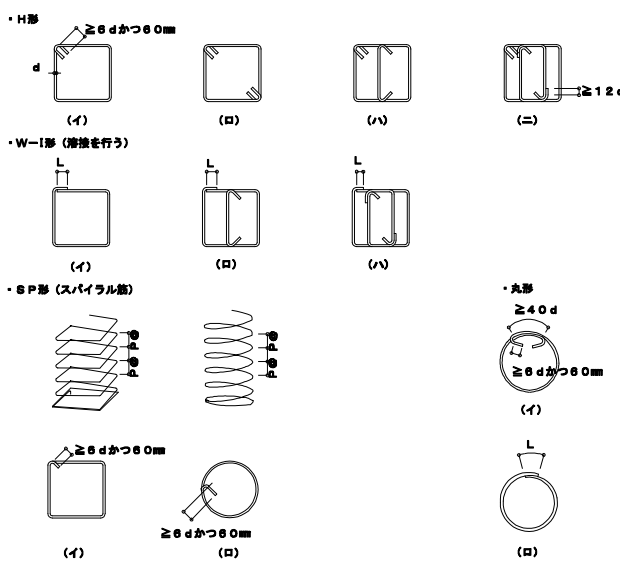


3. 8. 2 図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

3. 9 帯筋の形状

- (1) 帯筋の形状は、3. 9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。

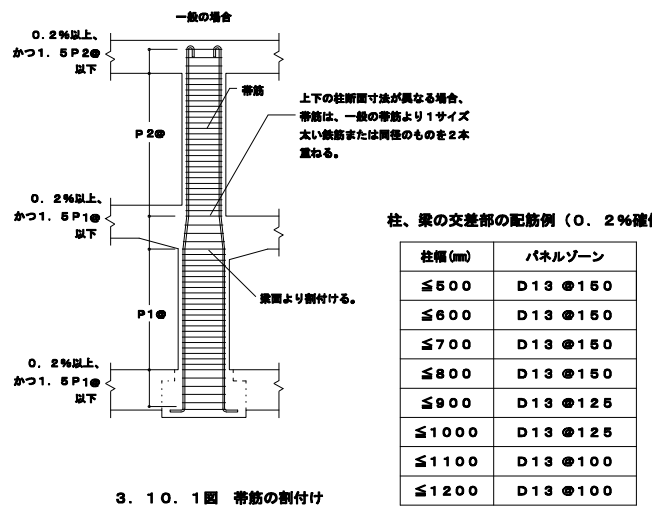
- (a) H形とする。  
(b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。  
(c) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。  
(d) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。



3. 9. 1 図 帯筋組立の形

3. 10 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とする。  
(2) 帯筋の割付けは、3. 10. 1図による。ただし、図面にある場合は図面による。  
(3) 柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0.2%以上を確保し、補強筋間隔は1.5P以下とする。



3. 10. 1 図 帯筋の割付け


※1. 5P^d1、1. 5P^d2のピッチは150mm以下とする。

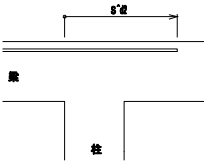
新潟市公共下水道				
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	構造細目共通図(複合構造物)(2)			
縮尺	-	調整年月日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面番号 S-2
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

3 土木工事

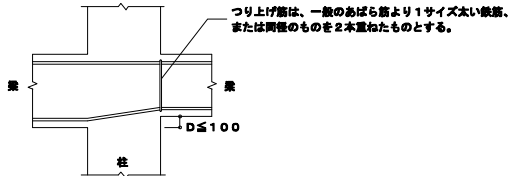
3. 1 1 大梁筋の継手及び定着

3. 1 1. 1 一般事項

- (1) 継ぎ手長さ、定着長さ及び余長は、3. 1 1. 1 図から3. 1 1. 1 0 図による。
- (2) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数のときは柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、3. 5. 2 図のように柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、3. 1 1. 1 図による。
- (3) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。
- 上端筋：曲げ下ろす
- 梁主筋ののみ込み長さは、柱せいの3／4倍以上かつ20d以上を確保する。(※1)
- 梁主筋の柱内定着は、3. 5. 2 図による。
- (4) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は図面による。図面になければ1：4とする。
- (5)  印は、継ぎ手及び余長を示す。
- (6) 破線は柱内定着の場合を示す。
- (7) 3. 2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋にはフックをつける。
- (8) 段違い梁は3. 1 1. 2 図による。



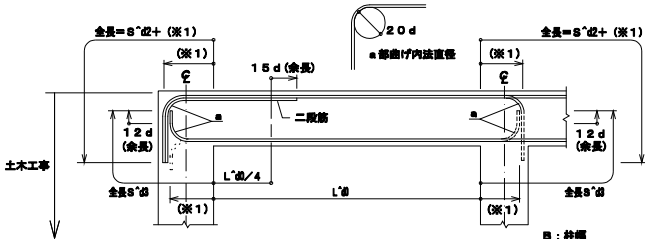
3. 1 1. 1 図 梁主筋を梁内定着



3. 1 1. 2 図 段違い梁

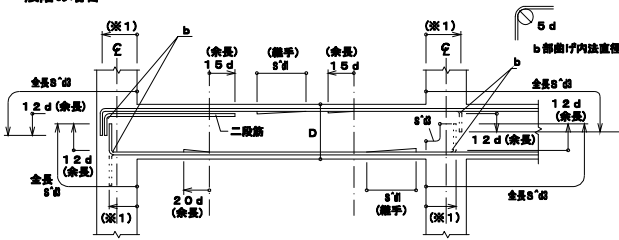
3. 1 1. 2 ハンチのない場合

(1) 最上層の場合

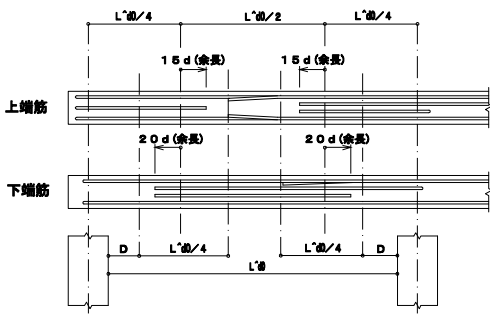


3. 1 1. 3 図 大梁の重ね継手、定着及び余長（最上層）

(2) 一般層の場合



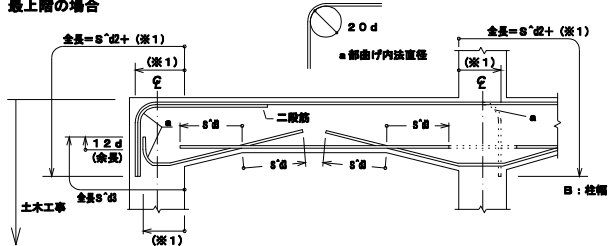
3. 1 1. 4 図 大梁の重ね継手、定着及び余長（一般層その1）



3. 1 1. 5 図 大梁の重ね継手、定着及び余長（一般層その2）

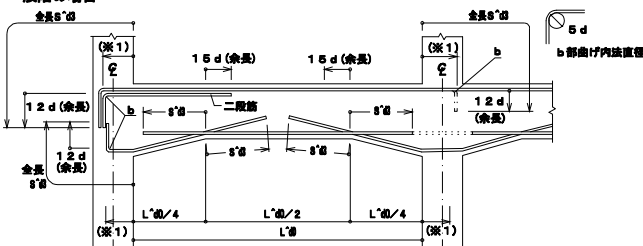
3. 1 1. 3 ハンチのある場合

(1) 最上層の場合



3. 1 1. 6 図 ハンチのある大梁の定着及び余長（最上層）

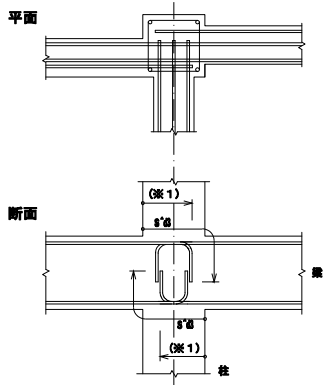
(2) 一般層の場合



3. 1 1. 7 図 ハンチのある大梁の定着及び余長（一般層）

3. 1 1. 4 水平段差のある場合

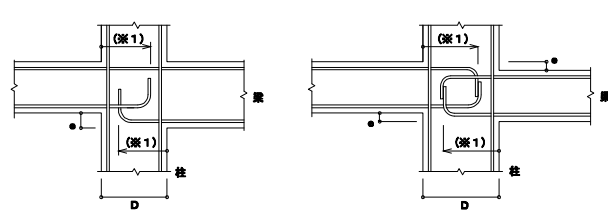
(1) 水平段差のある場合



3. 1 1. 8 図 大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

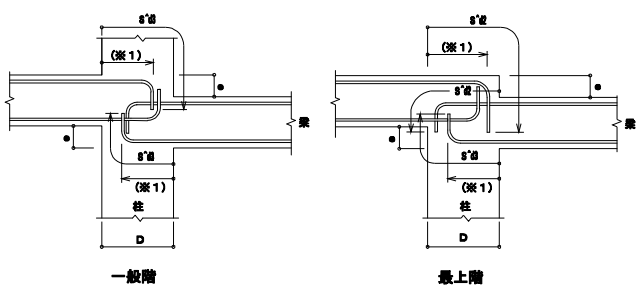
3. 1 1. 5 鉛直段差（e）のある場合

(1) e/D≦1／6の場合



3. 1 1. 9 図 鉛直段差梁（その1）

(2) e/D>1／6の場合



3. 1 1. 10 図 鉛直段差梁（その2）

3. 1 2 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

3. 1 2. 1 一般事項

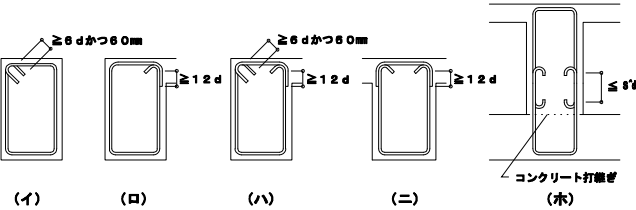
- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- (2) 壁梁の場合、腹筋の継手長さはs'dl、定着長さをs'd3とする。
- (3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
- (4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D13－1000mmピッチ程度とする。
- (5) 破線は柱内定着の場合を示す。

3. 1 2. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、3. 1 2. 1 図（イ）を標準とする。
- ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
- 床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）
- 床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）

(2) フックの位置

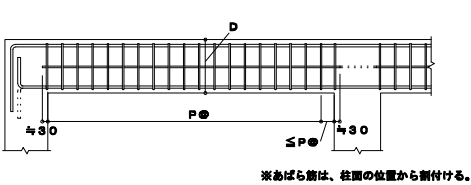
- （イ）の場合は交互とする。
- （ロ）の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側、床版が両側に付く場合は交互
- （ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げる。
- （ホ）は梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1. 5m以上の場合に適用することが出来る。（基礎梁）



3. 1 2. 1 図 あばら筋組立の形及びフックの位置

3. 1 2. 3 あばら筋の割付け

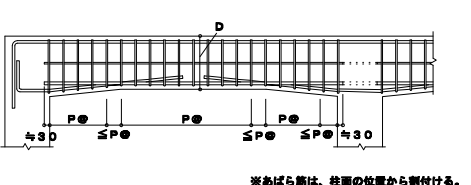
(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3. 1 2. 2 図 あばら筋の割付け（その1）

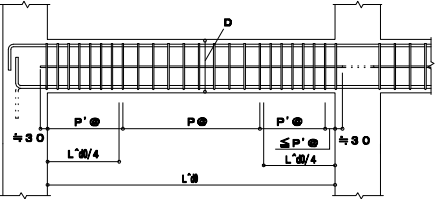
(2) 間隔が一樣でハンチのある場合



※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3. 1 2. 3 図 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



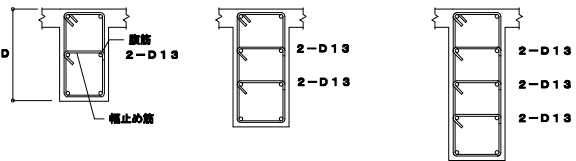
※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3. 1 2. 4 図 あばら筋の割付け（その3）

3. 1 2. 4 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁

■ 腹筋及び幅止め筋



3. 1 2. 5 図 腹筋及び幅止め筋

(2) 特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

新潟市公共下水道				
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	構造細目共通図（複合構造物）（3）			
縮尺	-	調整年月日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面番号 S-3
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

3 土木工事

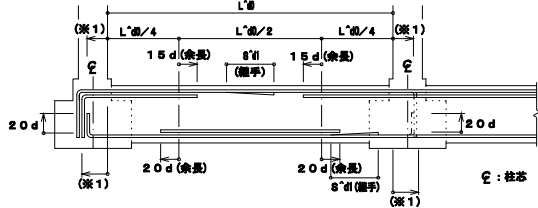
3. 13 基礎梁及び底版の継手及び定着

3. 13. 1 一般事項

- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、3. 11. 1 図に準ずる。
- (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、3. 11. 1 (3) による。
- (3) 柱幅＜梁幅の場合の定着は、3. 13. 3 図による。
- (4) 印は、継ぎ手及び余長を示す。
- (5) 破線は柱内定着の場合を示す。
- (6) 図内 (※1) は、3. 11. 1 による。

3. 13. 2 基礎梁の場合

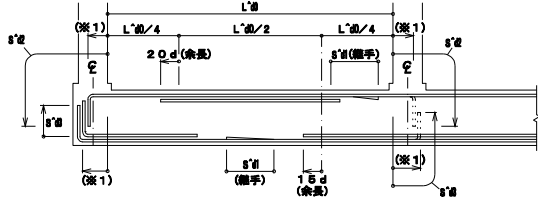
(1) 基礎梁の継手及び定着



3. 13. 1 図 主筋の継手、定着及び余長 (その1)

3. 13. 3 連続基礎及びべた基礎の場合

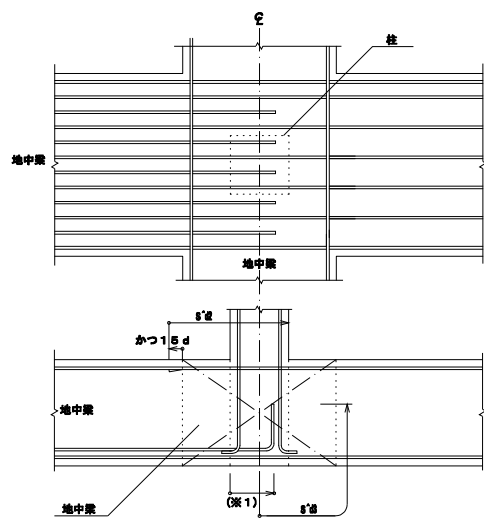
(1) 柱幅≧梁幅の場合



3. 13. 2 図 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(2) 柱幅＜梁幅の場合

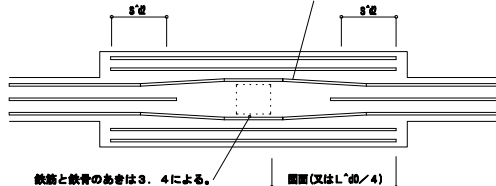
(a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



3. 13. 3 図 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

3. 13. 4 梁形を設けない場合の基礎底版

(1) 鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



3. 13. 4 図 主筋の継手、定着及び余長 (その4)

3. 14 小梁及び片持梁の配筋要領

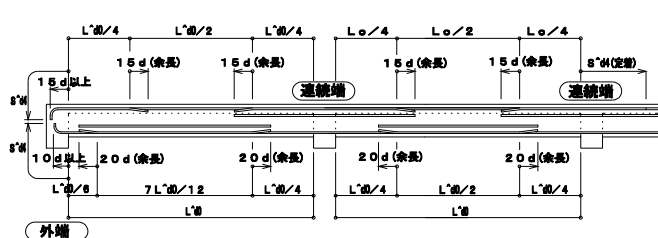
3. 14. 1 一般事項

- (1) 図面でない事項は、大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2) 印は、余長位置を示す。

3. 14. 2 小梁

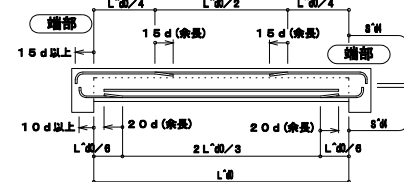
梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。

(1) 連続小梁の場合



3. 14. 1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(2) 単独小梁の場合

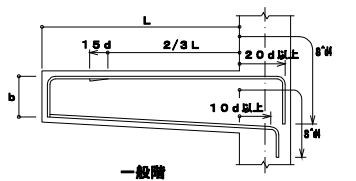


3. 14. 2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

3. 14. 3 片持梁筋の定着

(1) 先端に小梁のない場合

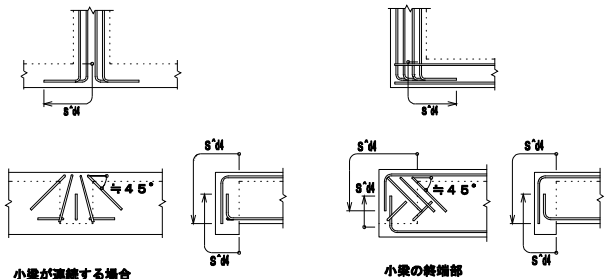
- a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



3. 14. 3 図 片持梁主筋の定着及び余長 (先端に小梁がない場合)

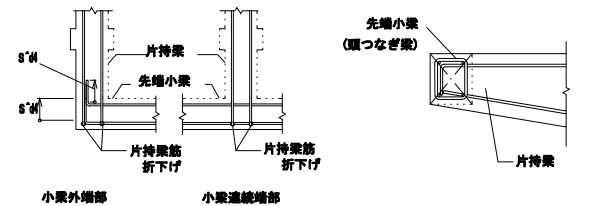
(2) 先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
- b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



小梁が連続する場合

小梁の終端部



小梁外端部

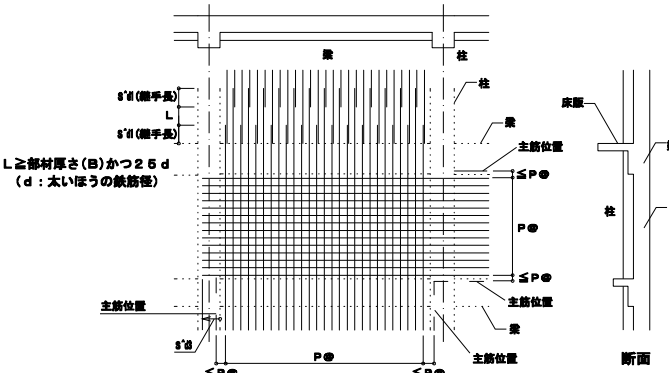
小梁連続端部

3. 14. 4 図 片持梁主筋の定着

3. 15 壁の配筋要領

3. 15. 1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手長さを $s^{\sim}d$ 、定着の長さは、 $s^{\sim}d$ とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さを $s^{\sim}d$ 、定着長さを $s^{\sim}d$ とする。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD13- $\phi$ 1000mmを標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、3. 15. 1 図によることとし、隣接する壁の鉄筋と重ね継手を設ける場合は、3. 6 項に従うものとする。



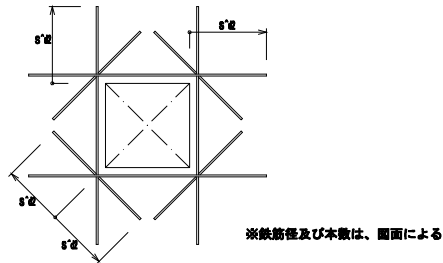
3. 15. 1 図 壁の配筋

3. 15. 2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、構造上安全であることを構造計算によって確認すること。

3. 15. 3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、3. 15. 2 図を標準とする。



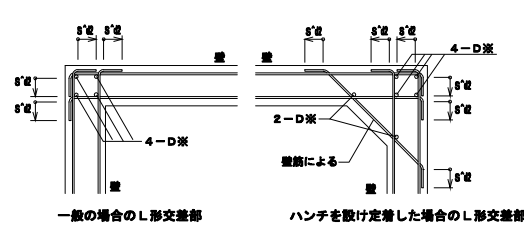
3. 15. 2 図 壁開口部の補強要領

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3. 15. 4 壁の交差部及び端部

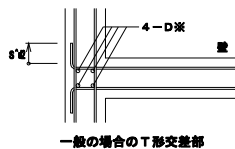
(1) 壁と壁の交差部は3. 15. 3 図による。

- a. 交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



一般の場合のL形交差部

ハンチを設け定着した場合のL形交差部



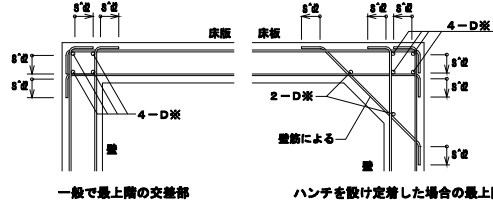
一般の場合のT形交差部

※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合は $s^{\sim}d$ を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長 $s^{\sim}d$ を確保する。定着長 $s^{\sim}d$ は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

3. 15. 3 図 壁と壁の交差部及び端部の配筋

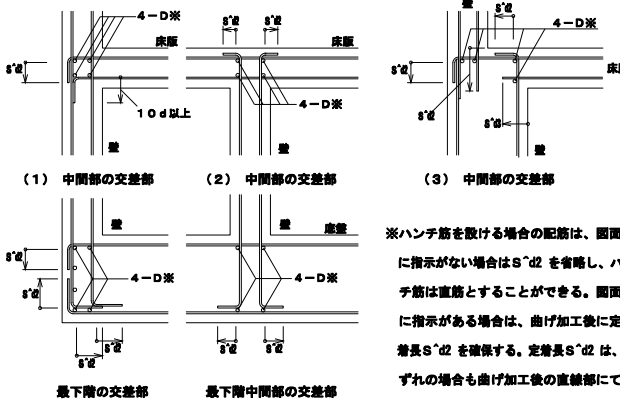
(2) 壁と床版の交差部は3. 15. 4 図による。

- a. 交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



一般で最上階の交差部

ハンチを設け定着した場合の最上階の交差部



(1) 中間部の交差部

(2) 中間部の交差部

(3) 中間部の交差部

最下階の交差部

最下階中間部の交差部

※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合は $s^{\sim}d$ を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長 $s^{\sim}d$ を確保する。定着長 $s^{\sim}d$ は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

3. 15. 4 図 壁と床の交差部及び端部の配筋

※3. 15. 4 図は、柱梁構造の場合である。地下階が壁式構造の場合は、構造細目共通図 (土木構造物) (2) の「6. 1. 4 壁と床版・底版の交差部」を参照のこと。

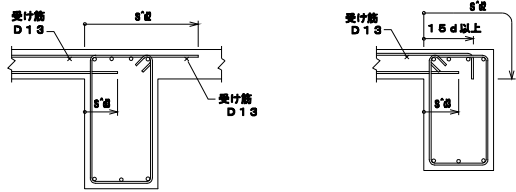
新潟市公共下水道				
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	構造細目共通図 (複合構造物) (4)			
縮尺	-	調整年月日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面番号 S-4
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

3 土木工事

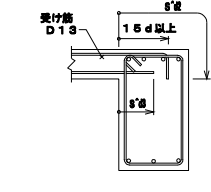
3. 1 8 床の配筋要領

3. 1 8. 1 一般事項

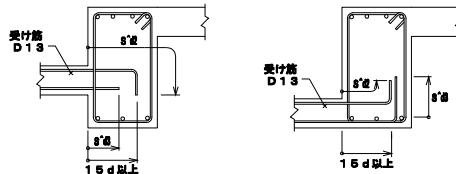
- (1) 鉄筋の継手長さは、 $S^{\sim}d$ とする。
- (2) ラーメン構造の床版の定着長さ及び受け筋は、3. 1 8. 1 図による。ただし、引き通すことができない場合は、3. 1 8. 2 図、3. 1 8. 3 図により梁内に定着する。
- なお、スラブ筋の場合は、3. 1 8. 1 図～3. 1 8. 3 図の定着長さ $S^{\sim}d_2$ 、 $S^{\sim}d_3$ を、 $S^{\sim}d_4$ と読み替える。
- (3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。図面になければ3. 2 0. 5 図による。



3. 1 8. 1 図 床版筋の定着長さ及び受け筋 (その1)



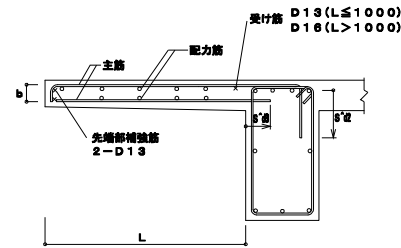
3. 1 8. 2 図 床版筋の定着長さ及び受け筋 (その2)



3. 1 8. 3 図 床版筋の定着長さ及び受け筋 (その3)

3. 1 8. 2 片持床版

(1) 片持床版の配筋



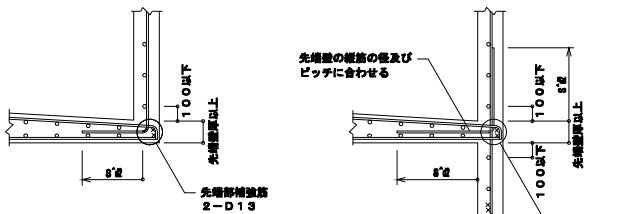
※片持スラブの場合は、3. 1 8. 4 図及び図3. 1 8. 5 図の定着長さ $S^{\sim}d_2$ 、 $S^{\sim}d_3$ を、 $S^{\sim}d_4$ と読み替える。

※先端の折り曲げ長さ $b$ は、片持部材の厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

※床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版またはスラブに定着してもよい。

3. 1 8. 4 図 片持床版の配筋

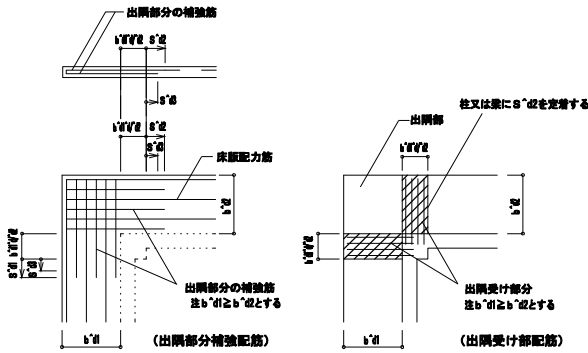
(2) 先端に小梁がなく壁が取り付く場合



3. 1 8. 5 図 先端に壁が付く場合の配筋

3. 1 8. 3 出隅部の配筋方法

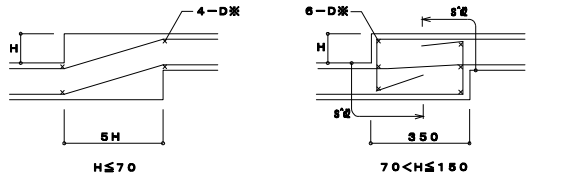
- (1) 補強の配筋は図面による。配筋方法は、3. 1 8. 6 図による。特配にない場合は、 $D13 \text{ @ } 100$ ダブル程度とする。
- (2) 出隅受け部分 (図のハッチ部分) の配筋は、図面 (幅は $b^{\sim}d$  / 2 とする) による。
- (3) 片持スラブの場合は、3. 1 8. 6 図の定着長さ $S^{\sim}d_2$ 、 $S^{\sim}d_3$ を、 $S^{\sim}d_4$ と読み替える。



3. 1 8. 6 図 片持床版出隅部の補強配筋

3. 1 8. 4 段差床版の補強

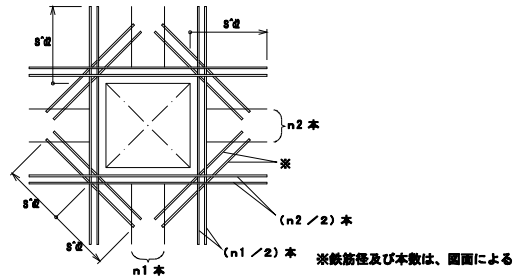
- (1) 同一床版に段差がある場合、3. 1 8. 7 図の補強を行う。ただし、 $H > 150$  の場合は、小梁を設ける事を原則とする。
- (2) 段差スラブの場合は、3. 1 8. 7 図の定着長さ $S^{\sim}d_2$ 、 $S^{\sim}d_3$ を、 $S^{\sim}d_4$ と読み替える。



3. 1 8. 7 図 段差のある床版の補強配筋

3. 1 8. 5 床版及びスラブ開口部の補強

- (1) 開口の最大径 $\leq 700$  の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する (3. 1 8. 8 図)。
- 開口の最大径 $> 700$  の場合は図面による。

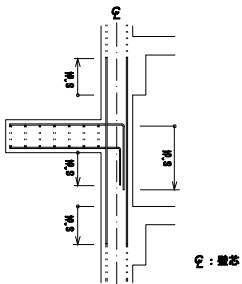


3. 1 8. 8 図 床版及びスラブ開口部の補強配筋

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋を出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3. 1 9 階段の配筋要領

- (1) 壁配筋は、図面による。
- (2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ降ろす。

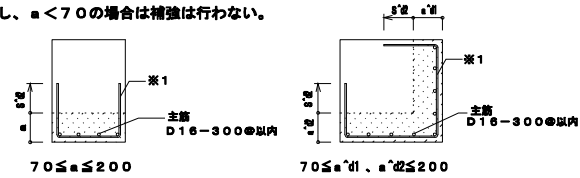


3. 1 9. 1 図 片持スラブ形階段配筋の定着

3. 2 0 柱及び梁の増し打ち要領

3. 2 0. 1 柱

- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、3. 2 0. 1 図による。
- ただし、 $a < 70$  の場合は補強は行わない。



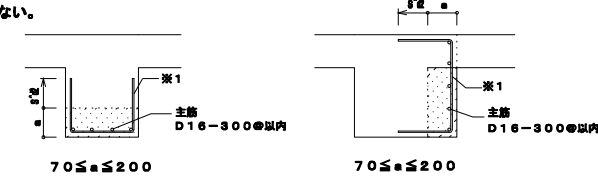
※1. 帯筋と同径・同ピッチとする。

3. 2 0. 1 図 柱の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- (3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 $S^{\sim}d_2$ 以上とする。
- (4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

3. 2 0. 2 梁

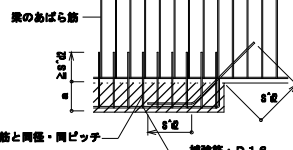
- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、3. 2 0. 2 図による。ただし、 $a < 70$  の場合、補強は行わない。



※1. あばら筋と同径・同ピッチとする。

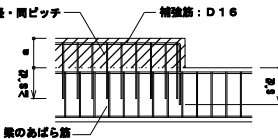
3. 2 0. 2 図 梁の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- (3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 $S^{\sim}d_2$ 以上とする。
- (4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
- (5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合。



3. 2 0. 3 図 梁の上下の増し打ち補強配筋 (途中で終わる場合)

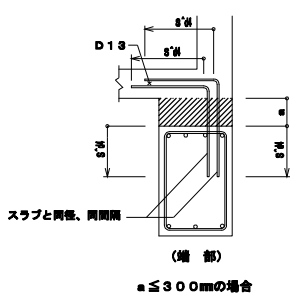
(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合。



3. 2 0. 4 図 梁の側面の増し打ち補強配筋 (途中で終わる場合)

3. 2 0. 3 土間スラブの打継ぎ補強

- (1) 基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合。

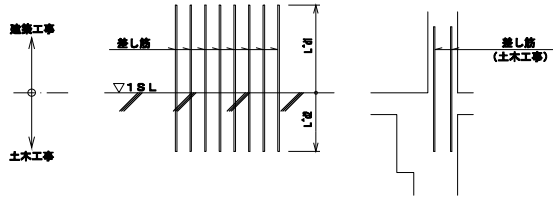


3. 2 0. 5 図 土間スラブの打継ぎ補強配筋 (ダブル)

3. 2 1 土木部分と建築部分の取り合い

3. 2 1. 1 壁縦筋の取り合い

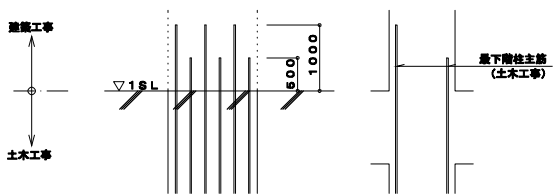
- (1) 差し筋の仕様は建築工事仕様とする。(径は図面による)
- (2)  $L^{\sim}d$  及び  $L^{\sim}d_2$  は4. 5. 1 表による。



3. 2 1. 1 図 壁縦筋の取り合い差し筋

3. 2 1. 2 柱主筋の取り合い

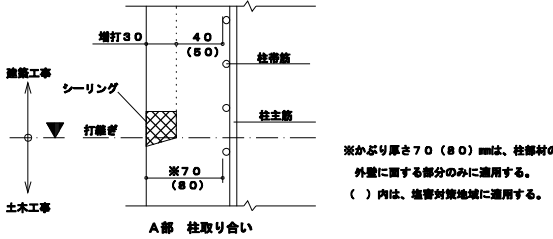
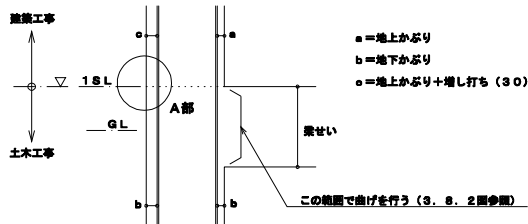
- (1) 最上部の柱主筋は、1 階建築部分の柱断面に応じ、3. 2 1. 2 図の圧接位置まで延ばすこと。



3. 2 1. 2 図 柱主筋の取り合い差し筋

3. 2 1. 3 柱主筋かぶり厚の取り合い

- (1) 土木工事の外壁に面する柱主筋のかぶり厚は、3. 3. 1 表によらず、3. 2 1. 3 図による。



3. 2 1. 3 図 柱主筋かぶり厚の取り合い

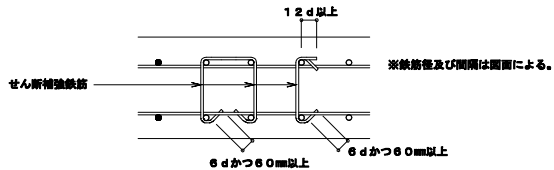
新潟市公共下水道				
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	構造細目共通図 (複合構造物) (5)			
縮尺	-	調整年月日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面番号 S-5
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

3 土木工事

3. 23 セン断補強鉄筋

3. 23. 1 底版、床版

(1) 底版、床版のせん断補強要領は3. 23. 1図及び3. 23. 3図による。

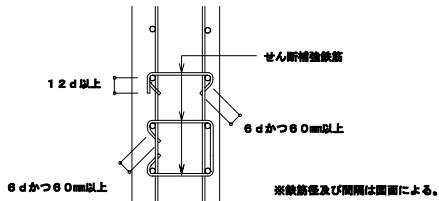


断面図

3. 23. 1図 底版、床版のせん断補強要領図

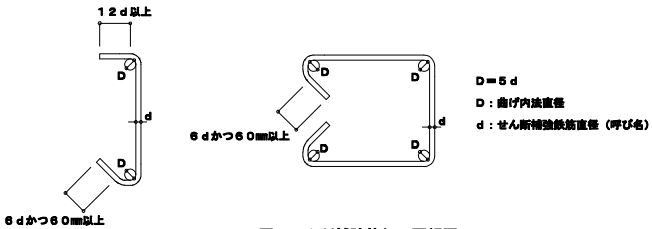
3. 23. 2 壁

(1) 壁のせん断補強要領は3. 23. 2図及び3. 23. 3図による。



断面図

3. 23. 2図 壁のせん断補強要領図

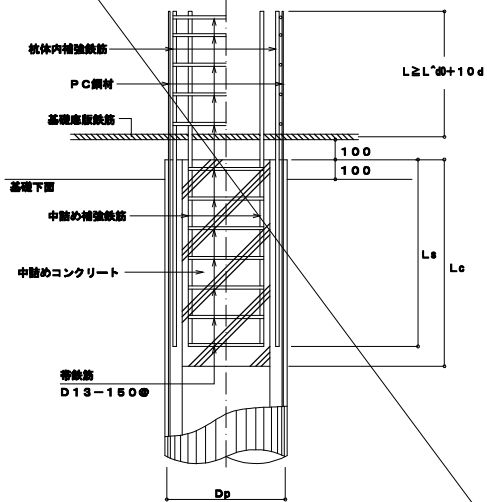


3. 23. 3図 セン断補強筋加工要領図

3. 24 杭基礎の補強

3. 24. 1 一般事項

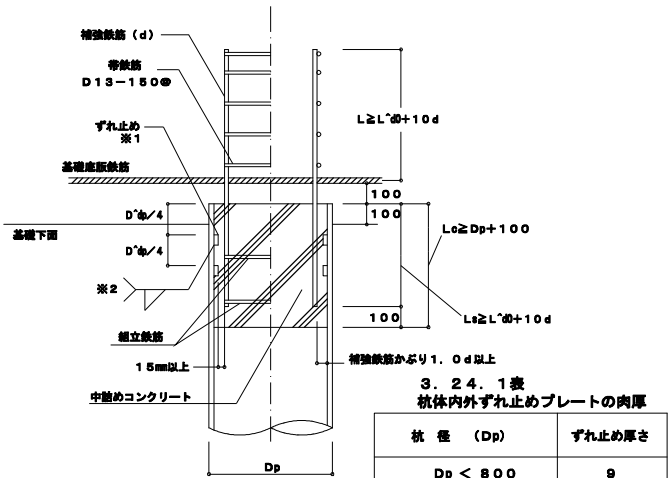
- (1) 補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計基準強度を30N/mm<sup>2</sup>以上とする。
- (2) 鉄筋種別、径・本数は、図面による。
- (3) 杭基礎の補強鉄筋の定着長L<sup>0</sup>dは、主筋の材質がSD345およびSD390では36d以上、SD490では41d以上とする。
- (4) 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、3. 24. 6図による。
- (5) 杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



3. 24. 1図 PHC杭の杭頭補強

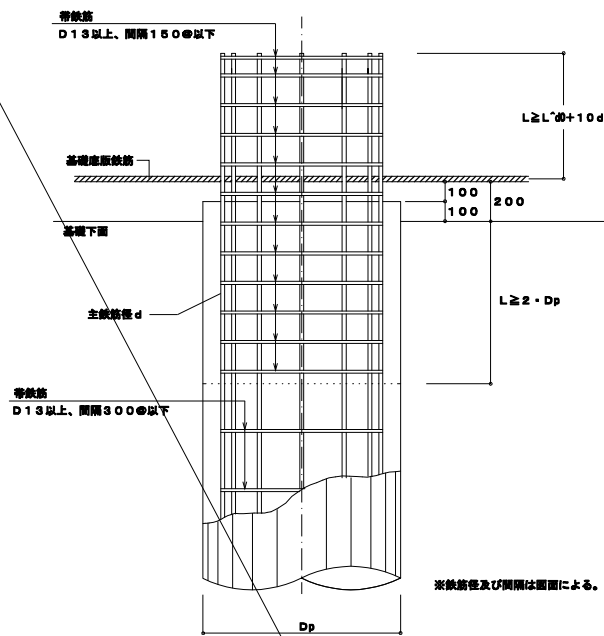
杭頭処理形態	Type B	
	鉄筋	コンクリート
カットオフする場合	鉄筋	$L \geq 50 \phi + L^0 d + 10 d$
	コンクリート	$L \geq 2.5 D p + 100$ 、かつ $50 \phi + L^0 d + 10 d +$ (かぶり100)
カットオフしない場合	鉄筋	$L \geq L^0 d + 10 d$
	コンクリート	$L \geq 2.5 D p + 100$ 、かつ $L^0 d + 10 d +$ (かぶり100)

注1.  $\phi$ は、PC鋼材径とする。

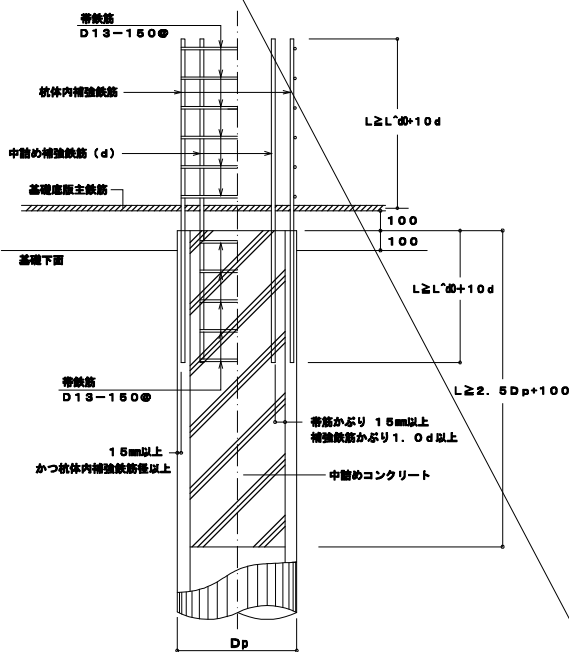


※1: ずれ止めの大きさは、3. 24. 1表による。  
※2: 全周現場すみ肉溶接

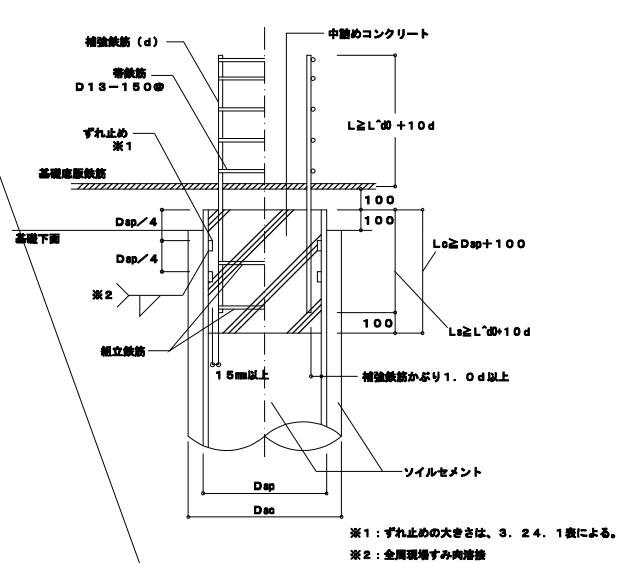
3. 24. 2図 鋼管杭の杭頭補強



3. 24. 3図 場所打ち杭の杭頭補強

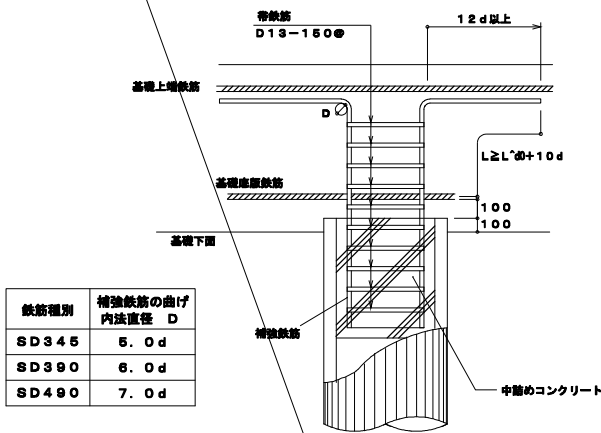


3. 24. 4図 SC杭の杭頭補強



※1: ずれ止めの大きさは、3. 24. 1表による。  
※2: 全周現場すみ肉溶接

3. 24. 5図 鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強



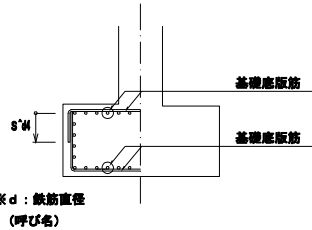
3. 24. 6図 杭頭補強筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

鉄筋種別	補強鉄筋の曲げ内法直径 D
SD345	5.0d
SD390	6.0d
SD490	7.0d

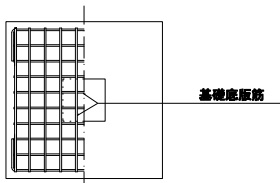
3. 25 独立基礎の補強

3. 25. 1 フーチングの補強

(1) 補強方法は図面による。



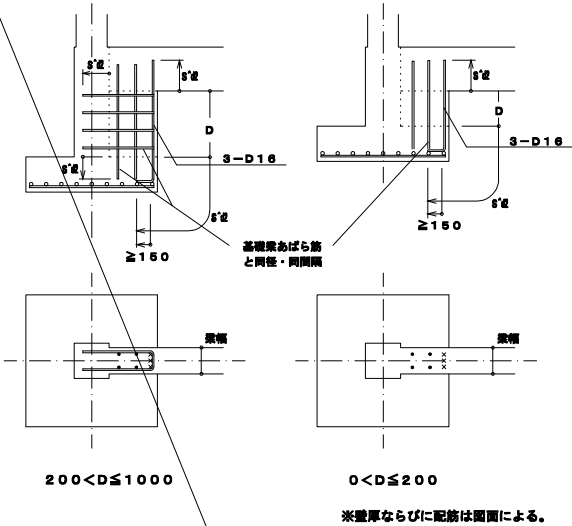
※d: 鉄筋直径 (呼び名)



3. 25. 1図 独立基礎の補強配筋

(2) 基礎底版筋の配筋は、図面による。

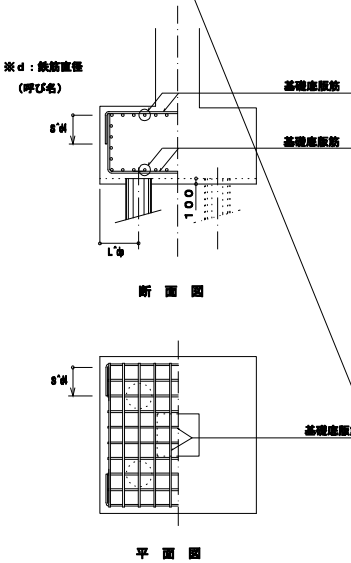
3. 25. 2 基礎接合部の補強



3. 25. 2図 基礎接合部の補強配筋

3. 25. 3 杭基礎の場合のフーチング配筋方法

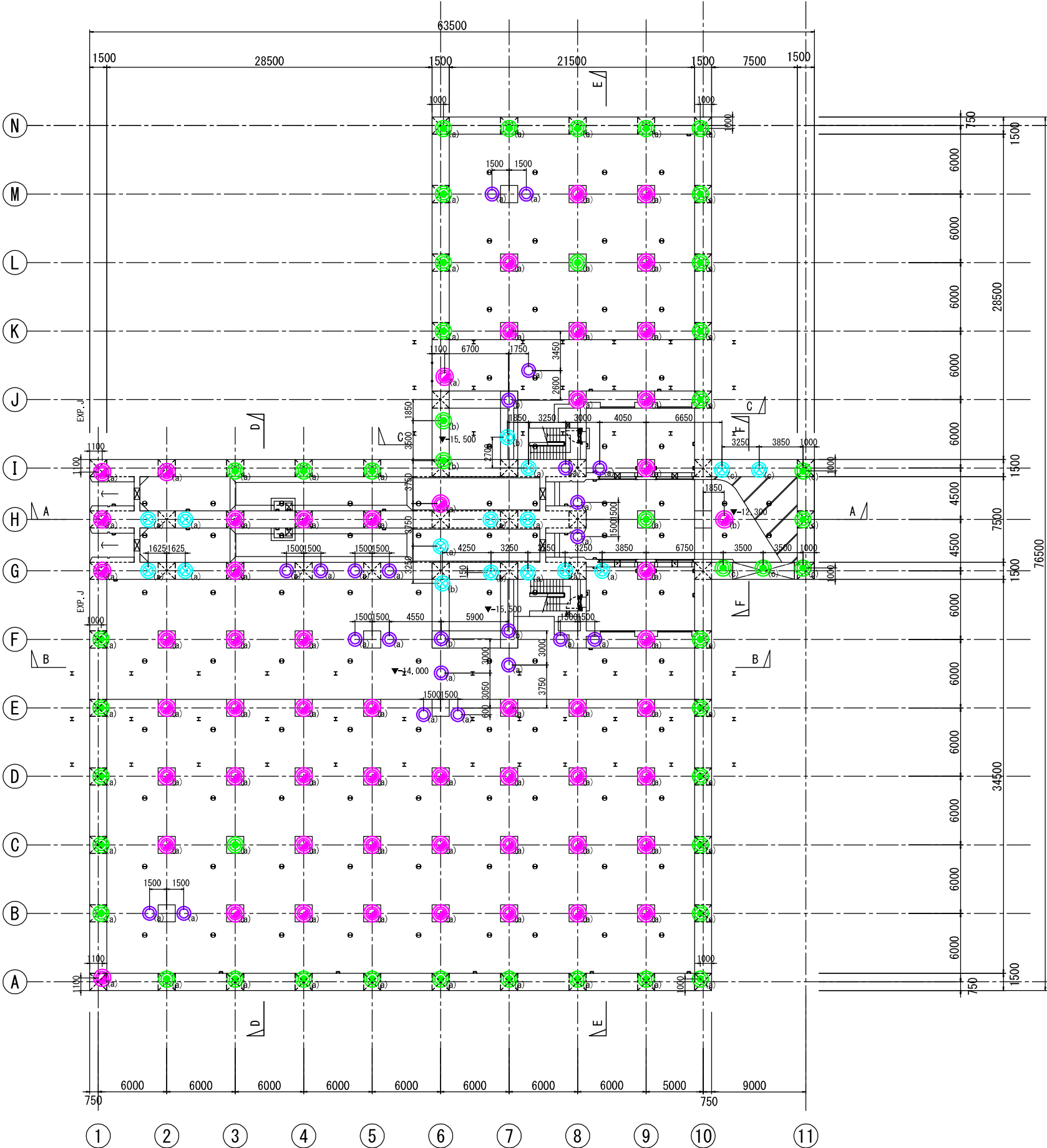
- (1) 杭基礎の場合のフーチング配筋方法は、3. 25. 3図とする。
- (2) 杭頭処理の方法は、3. 24項に基づくものとする。
- (3) 杭芯とフーチング外端面との距離(L<sup>0</sup>dφ)は、場所打ち杭、打込み杭、埋め込み杭は1.0D(Dは杭径)以上とする。



3. 25. 3図 杭基礎の場合のフーチング配筋方法

新潟市公共下水道				
業務名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	構造細目共通図 (複合構造物) (6)			
縮尺	-	調整年月日	令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計	図面番号 S-6
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				


調整池 杭伏図 S=1/200



## 杭本数内訳表

記号		杭頭高 TP (m)	杭先端高 TP (m)	杭長 (m)	鋼管杭径 (mm)	ソイル セメント 柱径 (mm)	長期支持力 (kN)	セツト数 (本)
P1	 (a)	-13.900	-47.400	33.50	800	1200	4,120	21
	 (b)	-15.400	-48.900					3
P2	 (a)	-13.900	-47.400		900	1300	5,160	11
	 (b)	-15.400	-48.900					3
	 (c)	-12.200	-45.700					2
P3	 (a)	-13.900	-47.400		1000	1400	6,310	37
	 (b)	-15.400	-48.900					2
	 (c)	-12.200	-45.700					5
P4	 (a)	-13.900	-47.400		1100	1500	7,440	55
	 (b)	-12.200	-45.700					1
合計								140

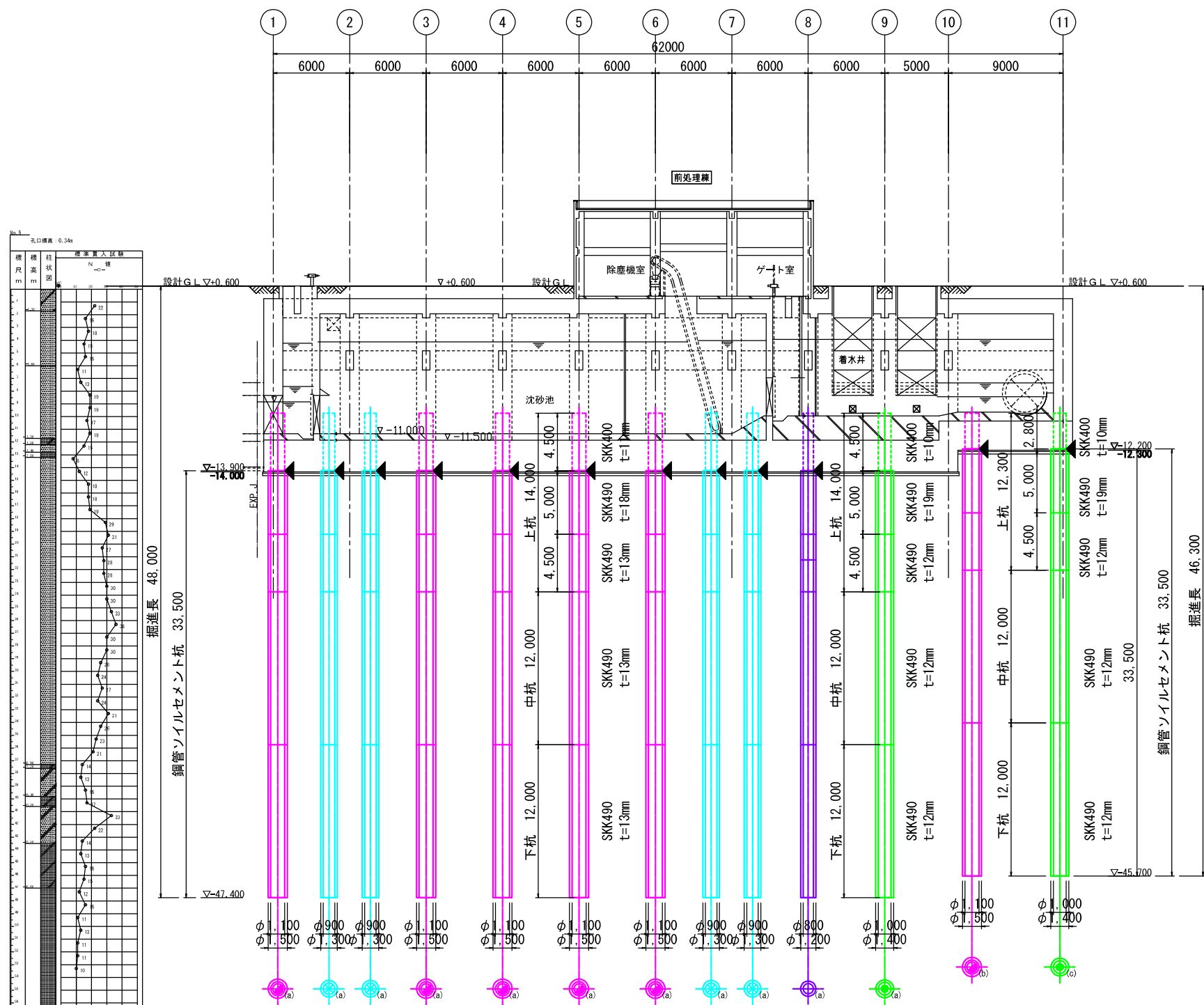
## 杭材料内訳表

記号		杭材料内訳表							
		上 杭				中 杭		下 杭	
P1	 (a)	SKK400 ts 9mm L=4.45m	SKK490 ts18mm +5.05m	SKK490 ts12mm +2.00m	SKK490 ts10mm +2.50m	SKK490 ts10mm L=12.00m	SKK490 ts10mm L=12.00m		
	 (b)	SKK400 ts 9mm L=5.95m	SKK490 ts18mm +5.05m	SKK490 ts12mm +2.00m	SKK490 ts10mm +2.00m	SKK490 ts10mm L=12.50m			
P2	 (a)	SKK400 ts9mm L=4.45m	SKK490 ts17mm +5.05m	SKK490 ts11mm +4.50m	SKK490 ts11mm L=12.00m		SKK490 ts11mm L=12.00m		
	 (b)	SKK400 ts9mm L=5.95m	SKK490 ts17mm +5.05m	SKK490 ts11mm +4.00m	SKK490 ts11mm L=12.50m				
	 (c)	SKK400 ts9mm L=2.75m	SKK490 ts17mm +5.05m	SKK490 ts11mm +4.50m	SKK490 ts11mm L=12.00m				
P3	 (a)	SKK400 ts10mm L=4.45m	SKK490 ts19mm +5.05m	SKK490 ts12mm +4.50m	SKK490 ts12mm L=12.00m		SKK490 ts12mm L=12.00m		
	 (b)	SKK400 ts10mm L=5.95m	SKK490 ts19mm +5.05m	SKK490 ts12mm +4.00m	SKK490 ts12mm L=12.50m				
	 (c)	SKK400 ts10mm L=2.75m	SKK490 ts19mm +5.05m	SKK490 ts12mm +4.50m	SKK490 ts12mm L=12.00m				
P4	 (a)	SKK400 ts11mm L=4.45m	SKK490 ts18mm +5.05m	SKK490 ts13mm +4.50m	SKK490 ts13mm L=12.00m		SKK490 ts13mm L=12.00m		
	 (b)	SKK400 ts11mm L=2.75m	SKK490 ts18mm +5.05m	SKK490 ts13mm +4.50m					

工法：鋼管ソイルセメント杭同時埋設方式

※▼は、底版下端レベルを示す。

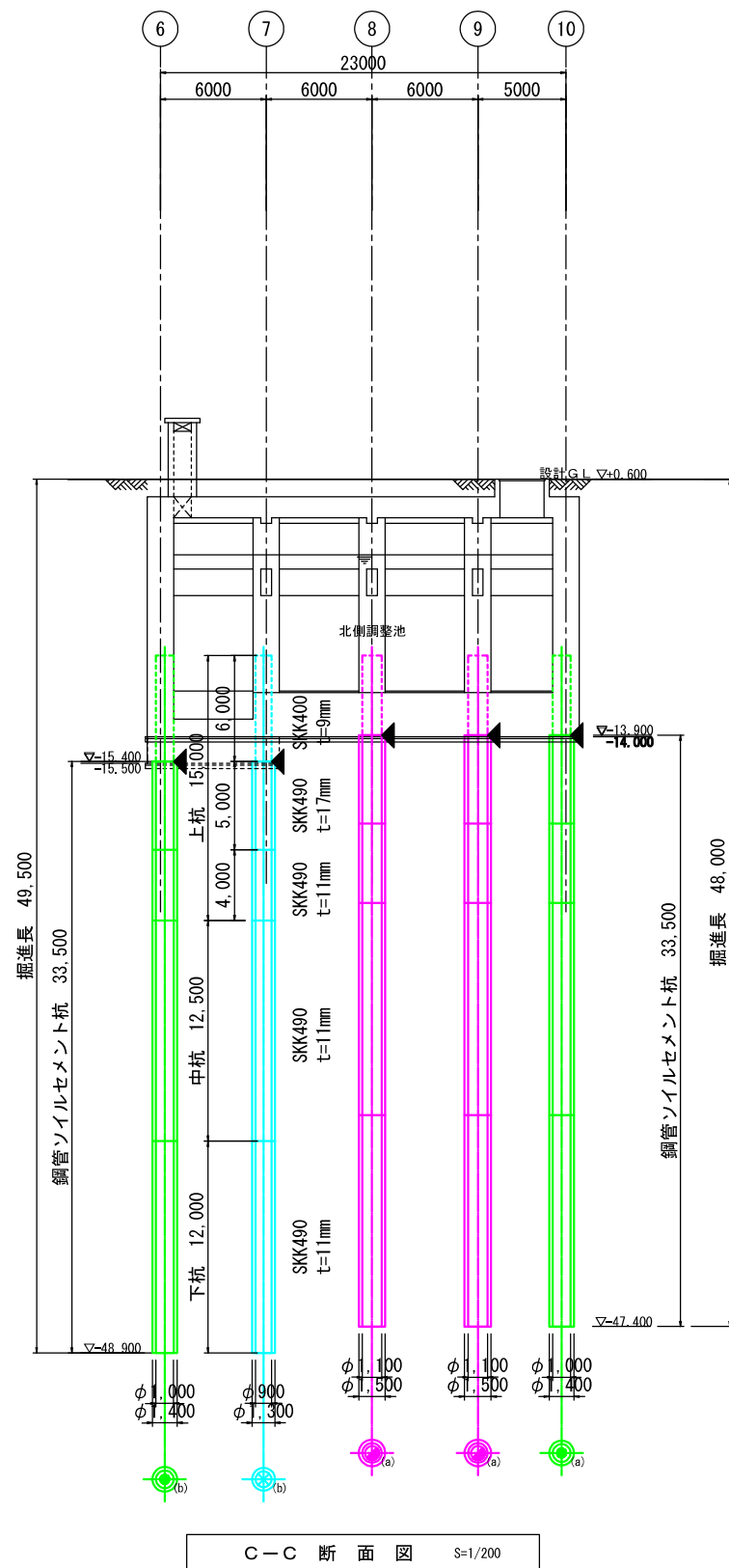
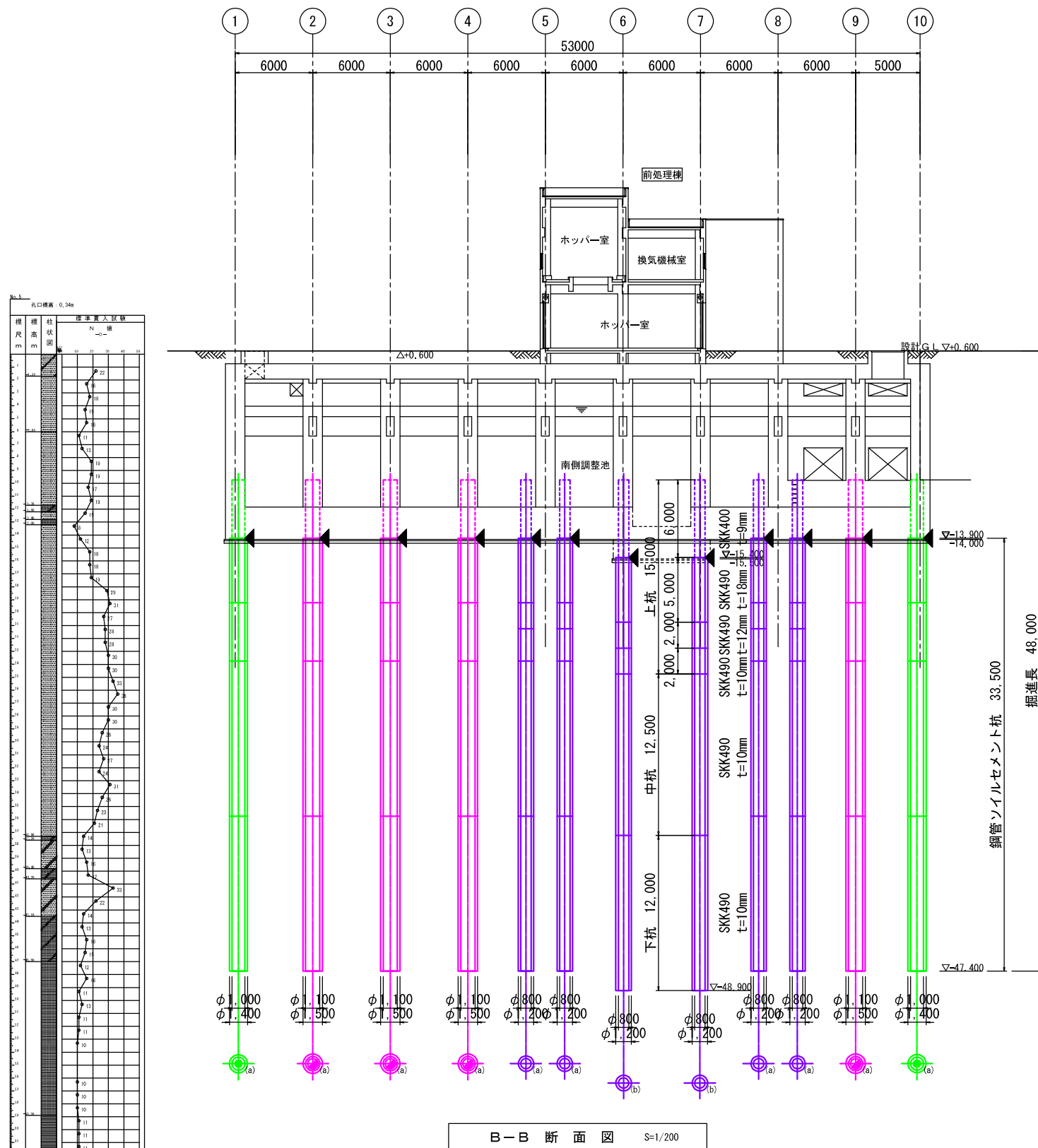
新 潟 市 公 共 下 水 道						
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称		調整池 杭伏図				
縮 尺		1/200	調 整 年月日		令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計		図面 番号	S-7
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理						



A-A 断面図 S=1/200

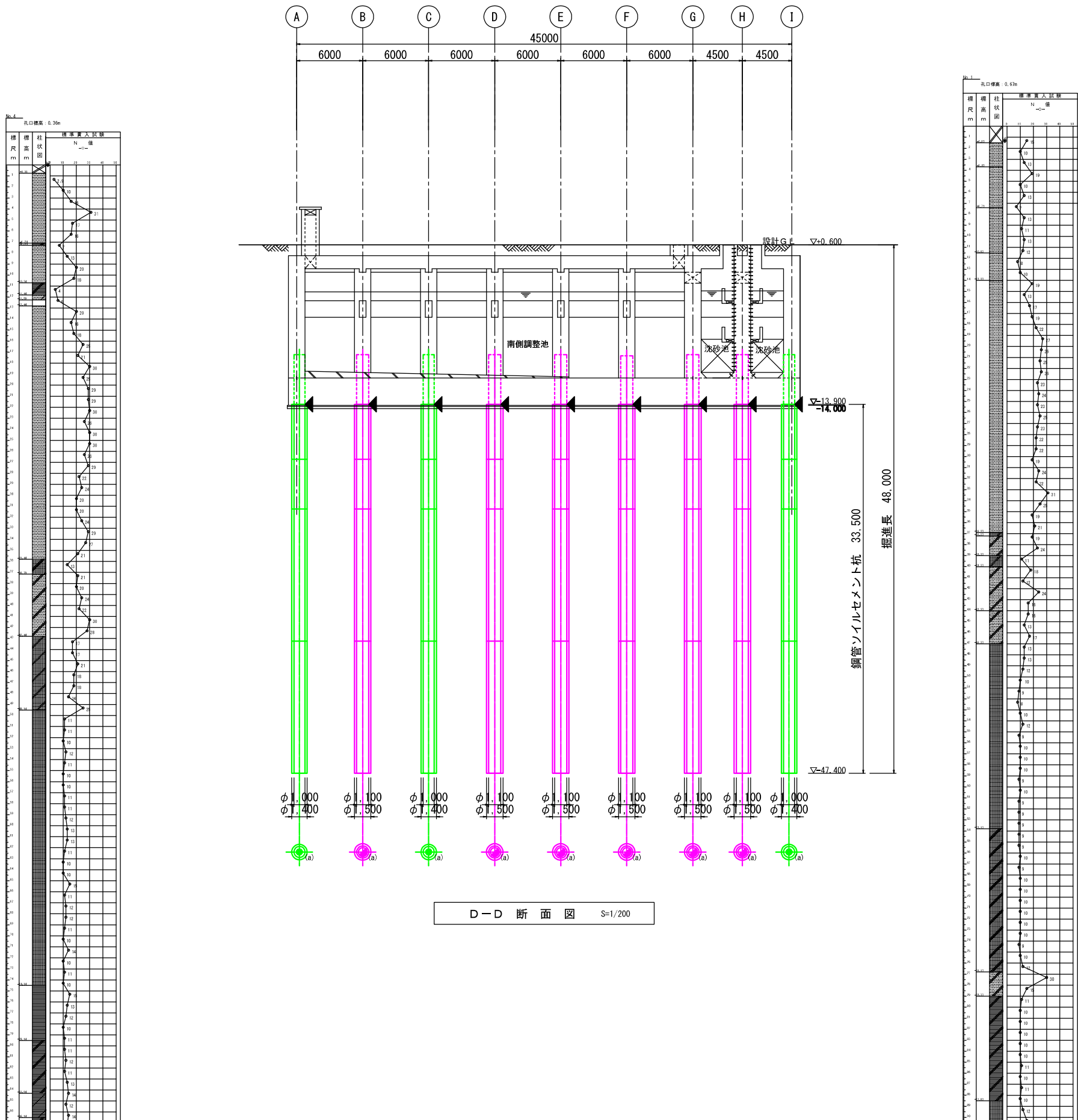
- 凡 例
- 1) 寸法の上段は鋼管杭径、下段はソイルセメント径を示す。
  - 2) ◀は切断位置を示す。

新潟市公共下水道					
業 務 名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池杭計画断面図(1)				
縮 尺	1/200	調 整	年 月 日	令和3年	月 日
調 査	補 佐	係 長	設 計	図 面 番 号	S-8
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					



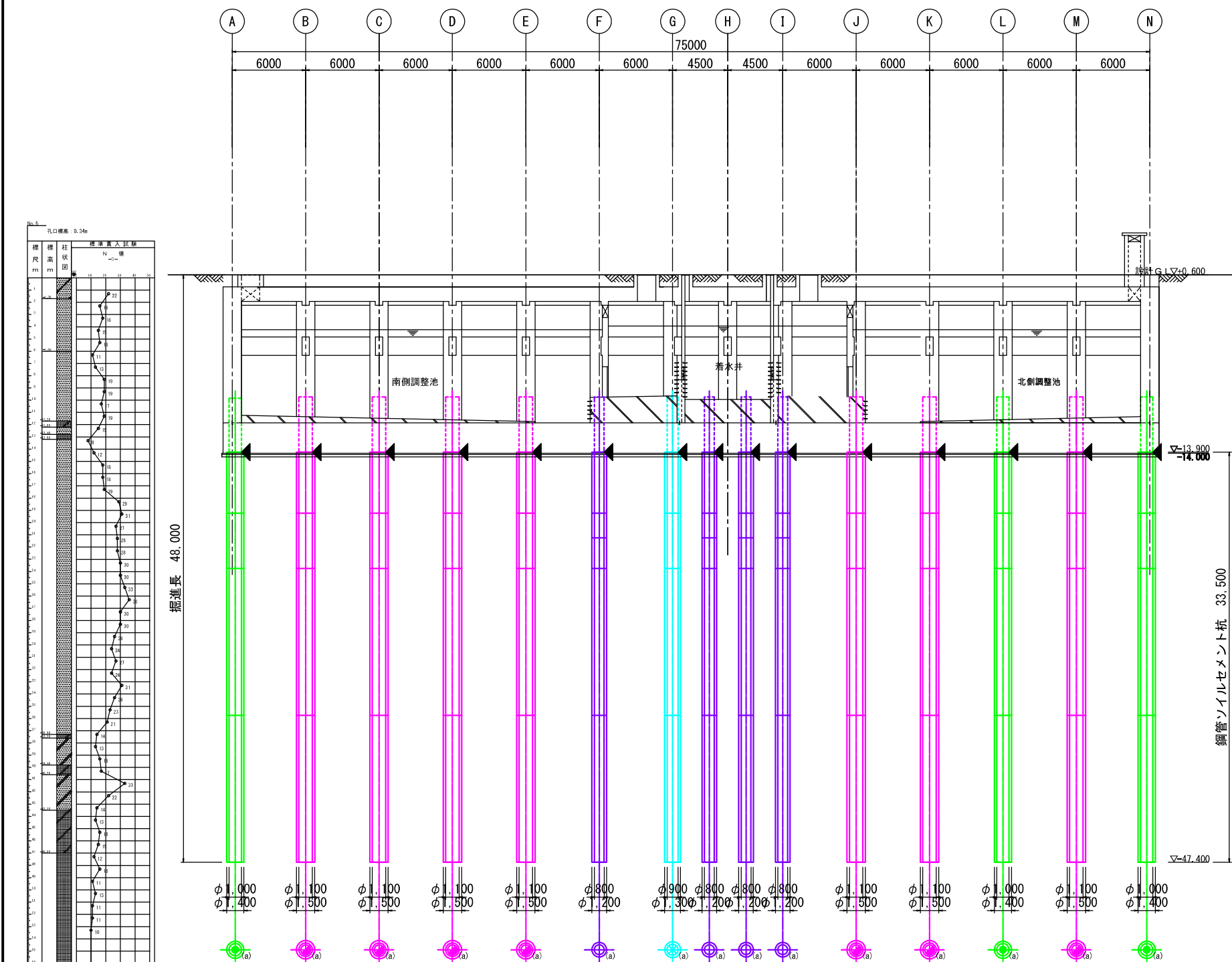
- 凡 例  
1) 寸法の上段は鋼管杭径、下段はソイルセメント径を示す。  
2) ◀は切断位置を示す。

新潟市公共下水道					
業 務 名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池杭計画断面図(2)				
縮 尺	1/200	調 整	年 月 日	令 和 3 年	月 日
課 長	補 佐	係 長	設 計	図 面 番 号	S-9
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

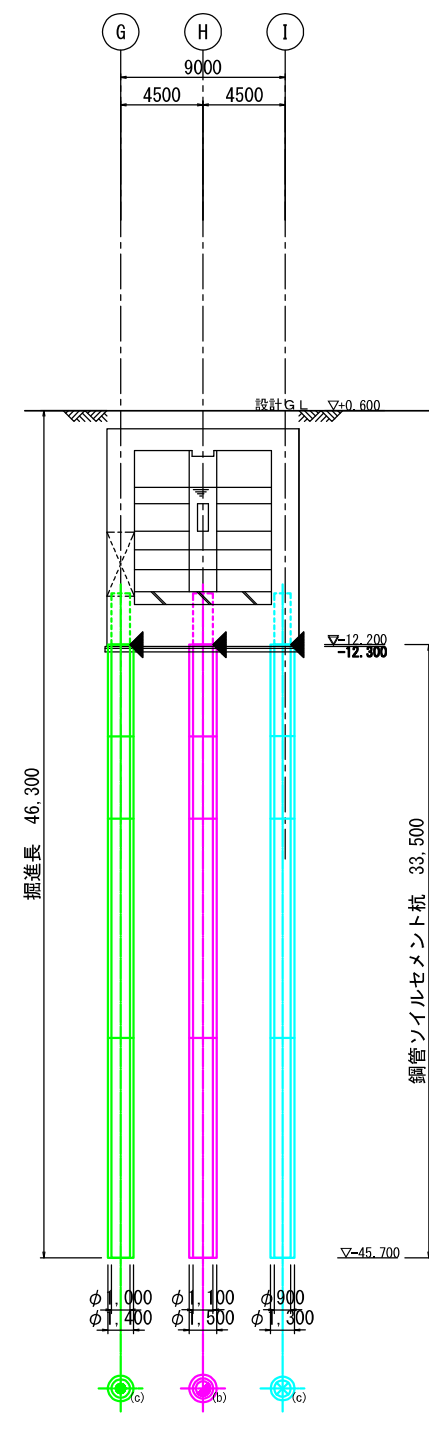


凡 例  
1) 寸法の上段は鋼管杭径、下段はソイルセメント径を示す。  
2) ◀は切断位置を示す。

新 潟 市 公 共 下 水 道				
業 務 名	松浜雨水ポンプ場調整池工事			
図面名称	調整池杭計画断面図 (3)			
縮 尺	1/200	調 整	令和3年 月 日	
調 査	補 佐	係 長	設 計	図面 番号 S-10
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				



E-E 断面図 S=1/200

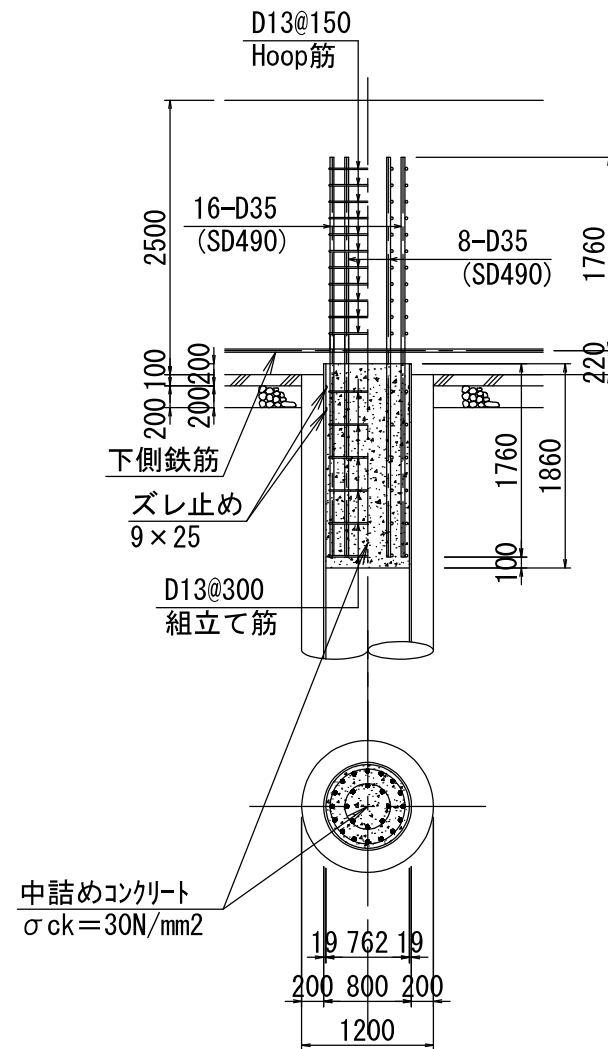


F-F 断面図 S=1/200

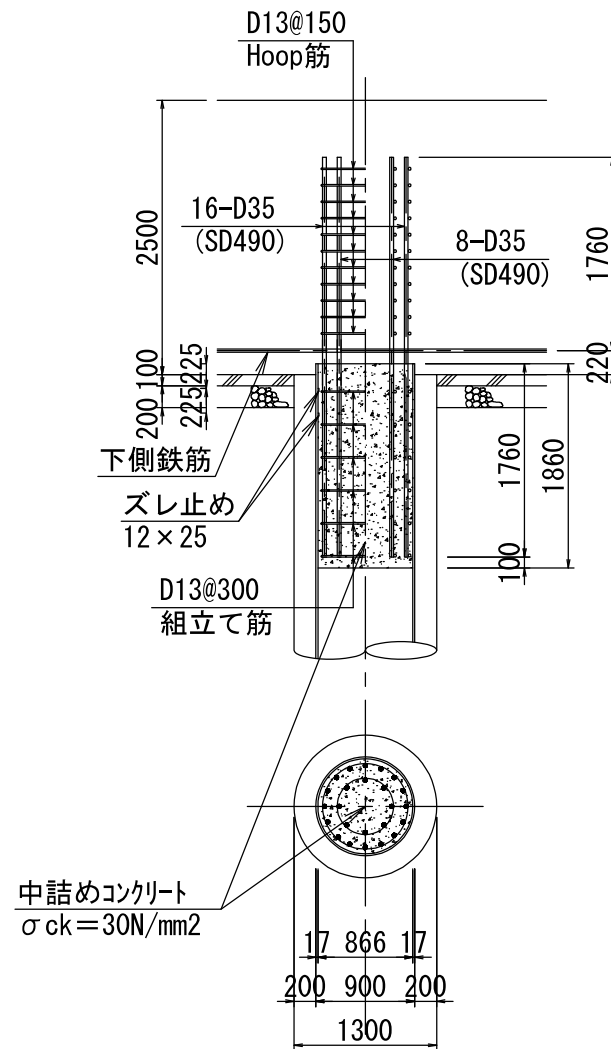
- 凡 例  
1) 寸法の上段は鋼管杭径、下段はソイルセメント径を示す。  
2) ◀は切断位置を示す。


新潟市公共下水道					
業 務 名	松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称	調整池杭計画断面図(4)				
縮 尺	1/200	調 整	年 月 日	令和3年 月 日	
課 長	補 佐	係 長	設 計	図 面 番 号	S-11
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課					

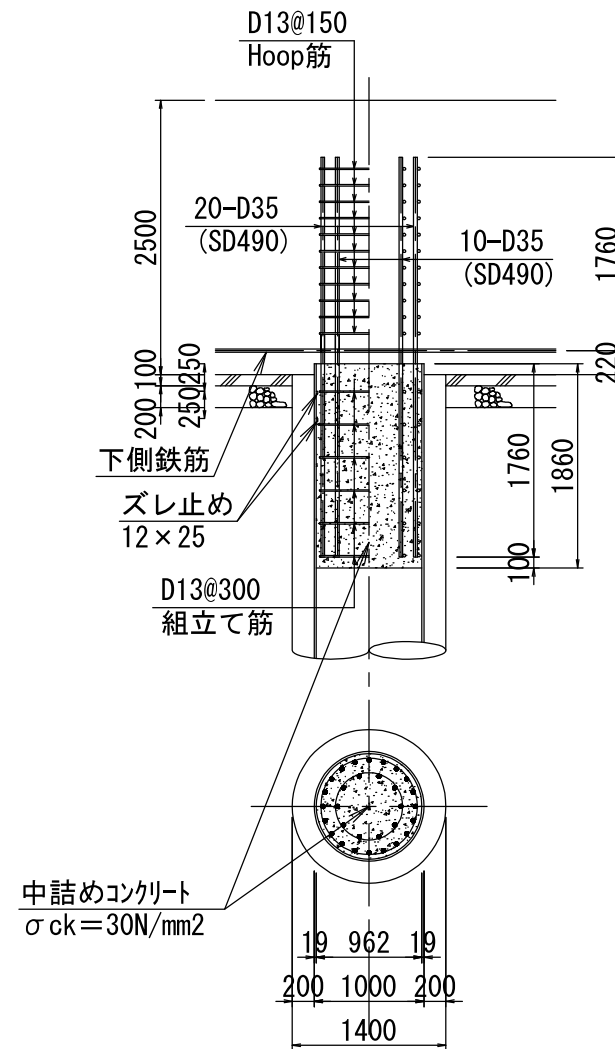
杭頭処理詳細図(1) S=1/30



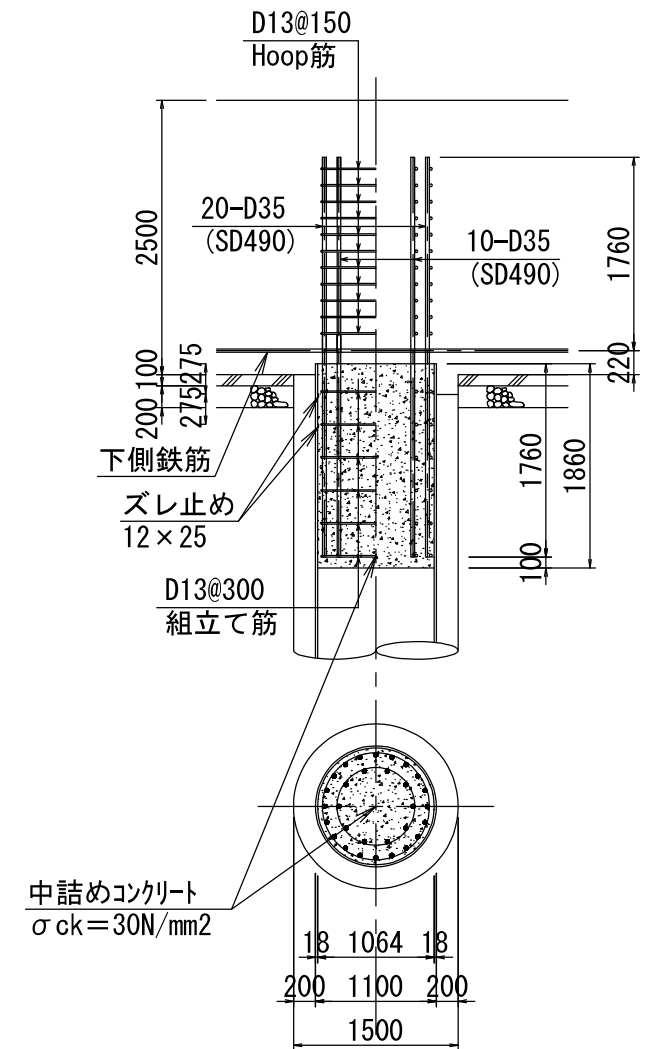
杭記号：○(a) (b)



杭記号： (a) (b)

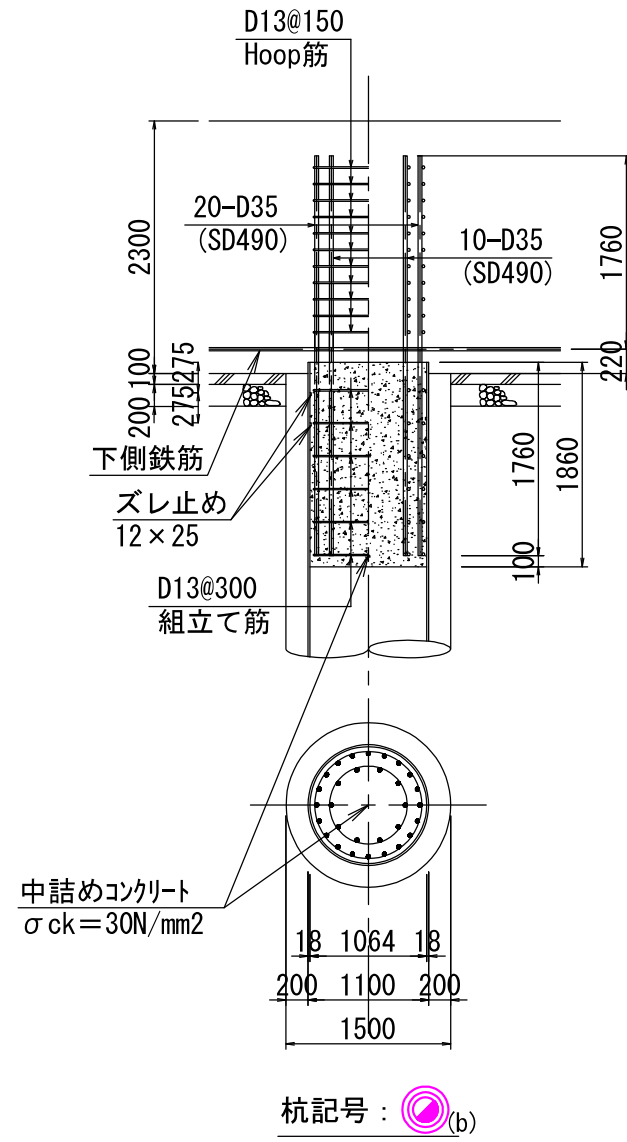
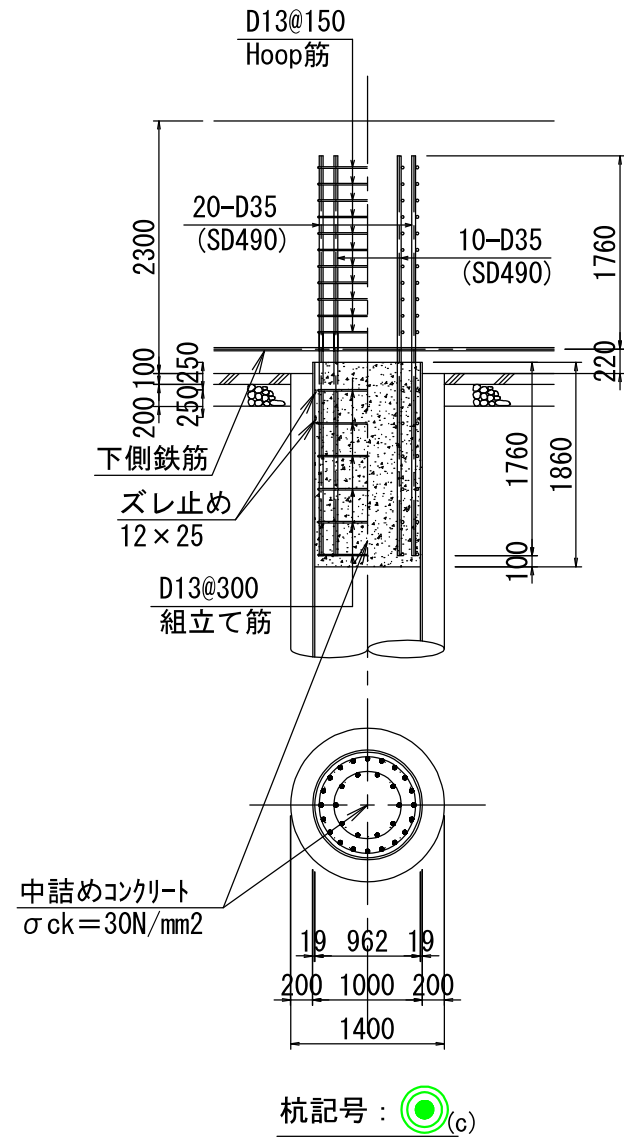
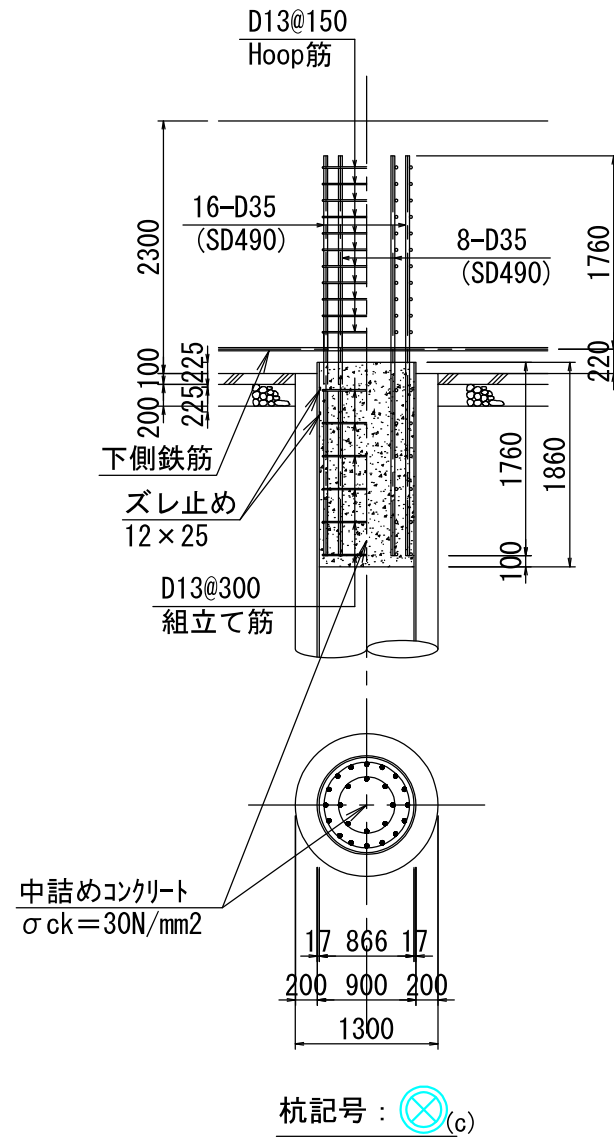


杭記号： (a) (b)

杭記号： (a)

新 潟 市 公 共 下 水 道				
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事		
図面名称		杭頭処理詳細図(1)		
縮 尺		1/30	調 整 年 月 日	令和3年 月 日
課長	補佐	係長	設計	図面 番号 S-12
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課				

杭頭処理詳細図(2) S=1/30



新 潟 市 公 共 下 水 道						
業 務 名		松浜雨水ポンプ場調整池工事				
図面名称		杭頭処理詳細図(2)				
縮 尺		1/30	調 整 年 月 日		令和3年 月 日	
課長	補佐	係長	設計		図面 番号	S-13
新潟市下水道部下水道管理センター施設管理課						